

# 防災ニュース

NO.  
200

## 巻頭言

「防災制度のさらなる飛躍に」

予防行政の取組み紹介  
～福山地区消防組合消防局の予防行政～

100号からの歩み No.100～No.199の内容概略



2014. 10



公益財団法人 日本防災協会  
JAPAN FIRE RETARDANT ASSOCIATION



〔巻頭言〕

## 防災制度のさらなる飛躍に

消防庁長官 坂本 森男



防災ニュース創刊200号を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

貴誌が、昭和41年9月の創刊以来48年もの長きにわたり、防災思想の向上に多大なる貢献をされてこられましたことは、日本防災協会及び関係者の皆さまのご努力によるものであり、あらためて敬意と感謝の意を表する次第であります。

昭和44年に消防法において防災制度が規定され、昭和49年に寝具等を対象とした防災製品の認定制度が開始された後、時代の要請に応えるかたちで防災物品・製品の追加や、ポリエステル製カーテンに対する防災加工技術の確立といったような技術革新による新たな加工技術の開発、環境への意識の高まりに伴う自然生態系への影響の少ない防災薬剤へのシフト等、防災品を取り巻く状況は絶えず変化し続けております。

このような中、防災品の品質に対する信頼を維持・発展させてい

くためには、日本防災協会と関係業界の連携が不可欠であり、その連携に際し非常に大きな役割を担っておられる貴誌の役割は誠に大きいものであります。

昨年、社会福祉施設や有床診療所といった自力避難が困難な方々が入居する施設において発生した火災により、多数の犠牲者が発生しました。このような方々の入居する施設で使用されるカーテン等については、消防法令に基づき防災物品が使われているところですが、家具や寝具等についても、防災性能が確保されているものを用いることが、防火対策上大変有効です。

また、近年、我が国における住宅火災の死者は1,000人前後の高い水準で推移しており、その死者数を着火物別に見た場合、寝具類が最も多いという結果になっております。これらの火災による死者を減らすためにも、一般家庭に広く防災布団や防災パジャマといった防災品を普及することが効果的です。

消防庁では、防災品の普及を始めとする火災予防対策を推進するため、春と秋の全国火災予防運動や住宅防火・防災キャンペーンにおいて、国民への周知及び使用等呼びかけていますが、貴誌におかれましても、引き続き防災制度の普及及び防災思想の高揚のため、これまで同様のご活躍を期待しております。

末尾ながら、貴誌のますますの御発展と発行に関わった皆さま及び読者各位の一層の御健勝を祈念いたしまして、創刊200号の祝辞とさせていただきます。

## 福山地区消防組合消防局の予防行政

福山地区消防組合消防局 警防部予防課長 佐藤 征史



### 1 はじめに

福山地区消防組合は福山市、府中市、神石高原町の2市1町で構成され、管内人口約52万人、面積約1,100k㎡、職員数577人(再任用含む)、消防局2部6課、8消防署、1分署、6出張所の体制で、地域住民の安心・安全の確保に努めています。

当消防組合は広島県の東南端、瀬戸内海沿岸のほぼ中央部に位置し、岡山県と境界を接しています。

福山という地名は、1619年(元和5年)、徳川家康の従兄弟にあたる水野勝成が備後10万石の領主となり、3年後に福山城を築き、「福山」と名づけたことに由来しています。

管内を南北に流れる芦田川は、河口に福山平野を発展させ市街地の中心部を形成しています。また、沼隈半島の先端にある鞆の浦は、瀬戸内海国立公園を代表する景勝地で、古代から潮待ち風待ちの港として栄え、万葉集でも大伴旅人の歌にも詠まれました。

近年では映画「ウルヴァリン」の撮影や、室町幕府最後の将軍、足利義昭が鞆に滞在したことから現在放映中の大河ドラマでも紹介されました。

福山市は、古くから地場の繊維産業を

基盤としていましたが、単一工場としては世界最大といわれる製鉄所の誘致により、重工業主体の産業都市へと転換してまいりました。

その他組合を構成する府中市、神石高原町は、管内の北部に位置し、いずれの市町も7世紀の大化の改新の際、国府がおかれ、郡制が敷かれたことに由来します。

このように当消防組合は、沿岸部の工業地域、都市部の商業地域、中山間部の農村地域等、広範囲にわたっており、それぞれの地勢、地域の実情に応じた、住民目線に立った消防行政の推進に取り組んでいます。



鞆の浦

### 2 予防業務体制

当消防組合の予防業務体制は、消防局警防部予防課(予防・査察担当、建築担当、危険物担当)、消防署の予防係、そ

して消防署警防係及び分署・出張所の職員も警防業務等と併せて予防業務を行っています。

### (1) 消防局予防課

予防・査察担当は、各種予防統計、査察・違反処理、火災予防の指導及び普及啓発に係る企画立案、研修会の開催、住宅防火対策、幼少年消防クラブの指導・育成並びに例規等の制定改廃業務を行っています。

建築担当は、一定規模以上の防火対象物の同意事務、消防用設備等の設置指導、消防検査、火薬類取締法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づく事務並びにこれらに係る例規等の制定改廃業務を行っています。

危険物担当は、危険物、高圧ガス保安法に基づく許認可事務及びこれらに係る例規等の制定改廃業務を行っています。

### (2) 各署予防係

各署予防係は、防火指導、消防同意事務、消防用設備等の設置指導、消防検査、法令に基づく各種届出処理、消防対象物の査察及び違反処理、防火座談会並びに訓練指導等を行っています。

### (3) 分署・出張所及び各署警防係

分署・出張所は、消防同意事務を除き、予防係と同様の業務を行い、各署警防係は、消防査察を中心とした業務を行っています。

## 3 査察実施体制

当消防組合では、昨年度、査察規程及び違反処理規程等の全面的な見直しを行いました。

規程に基づき、管内にある政令対象物約19,000棟、危険物製造所等約1,800施設から特に火災時に人命危険が高いものを中心にリストアップし、各署長は年間

の査察計画を樹立し、毎月計画的に査察を行っています。

これら各署長が行う定期査察とは別に、局長又は各署長が管内の状況や社会情勢等を見る中で、年間の査察計画に定められていない防火対象物に対しても特別査察を実施しています。

また、職員の査察技術の向上を図るため、外来講師による研修に加え、予防係1、2年目を対象とした新任者研修、警防係員を対象とした予防実務研修、中堅職員を対象とした専門研修を実施しています。

## 4 防火・避難基準適合防火対象物公表制度

当消防組合では、独自の制度として「防火・避難基準適合防火対象物公表制度」を行っています。

この制度は、防火対象物の関係者に対し法令順守を促進するとともに、防火対象物を利用する住民自らが安全情報を確認し、防火上の安全性を判断できることを目的とするもので、全てのホテル・旅館及び防火対象物点検報告制度の対象となる約600施設に、1年に1回以上査察を行い、消防法令及び建築基準法令3項目（建築構造、防火区画、階段）に適合し、かつ、関係者の同意を得たものを防

消防法  
建築基準法(建築構造・防火区画・階段) — 適合防火対象物

消防署(出張所)	防火対象物	防火構造	防火区画	階段	適合年月日	適合年月日	適合年月日
福山市	福山市上野町一丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町1丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町2丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町3丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町4丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町5丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町6丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町7丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町8丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町9丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町10丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町11丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町12丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町13丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町14丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町15丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町16丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町17丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町18丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町19丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日
福山市	福山市中野町20丁目番地	適合	適合	適合	2014年1月1日	2014年1月1日	2014年1月1日

ホームページでの掲載 (サンプル)

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/shobo/20300.html>



火・避難基準適合防火対象物としてホームページに掲載しています。

## 5 防火・防災に関する取組み

### (1) 幼年消防クラブ・少年消防クラブ

当消防組合管内には、幼年消防クラブが26クラブ、少年消防クラブが3クラブ組織されています。

各幼少年消防クラブは、年間を通してクラブ員に計画的な防火教育を行うとともに、地域への火災予防啓発に努め、地域住民の防火思想の高揚を図るなど、火災のない明るいまちづくりを実現するため活動しています。

具体的な活動は、火災予防運動期間中の広報を始め各種イベントへの参加、体験学習などを行っています。また、隔年で開催している防火フェスティバルには、毎回多くのクラブが参加し、各種演技を披露することにより、「火災のない明るいまちづくり」の実現を呼び掛けています。



防火フェスティバル

### (2) 自主防災組織

当消防組合管内における自主防災組織は、構成市町ごとに小学校区単位、又は町内会単位で組織されています。

各組織は、定期的に防災訓練及び講習会等を行っています。特に東日本大震災以降は、津波を想定し、市街地にある、実際に駐車場等の耐火建築物の屋上

等へ避難する訓練を取り入れるなど、地域の実情に応じた創意工夫による主体的な活動を行っています。



自主防災訓練

### (3) 消防競技大会

一般家庭や事業所における初期消火技術の向上と自主防火体制の確立を推進することを目的に毎年開催しています。

競技は、消火器・防火協会の部、消火器・事業所の部、消火器・危険物施設の部、屋内消火栓の部の4部門に1チーム2人又は3人で出場し、119番通報、重要書類の持ち出し、さらに部門ごとに消火器による消火、あるいは消火栓からホースを伸ばして標的に向けて放水するなど操作の適確性とタイムを競うもので、毎回多くの参加があり、今年度は281チーム、637人がエントリーしました。

大会は今年度で46回を数え、参加者は、万一の時に適切な初期消火をするために



消防競技大会

は、日頃からの訓練が大切であることを認識するなど、大きな成果を挙げています。

## 6 住宅防火対策

昨年中の火災件数は、108件で、過去10年で最少となり、ピーク時の半分まで減少しましたが、住宅火災の件数及び死者数は、大きく減少していません。

今年度も火災による死者のほとんどが住宅火災で発生し、高齢者が半数を超えています。

こうしたことから、当消防組合では、防火協会、消防団等、関係団体と連携し住宅防火対策に取り組んでいます。

### (1) 住宅防火診断

75歳以上の高齢者のみの世帯を対象に民生委員の協力を得て、職員が各家庭を訪問し、住宅防火診断を実施しています。主に住宅用火災警報器の設置状況及び火気使用設備等の使用状況等を確認し、必要に応じて指導を行っています。

### (2) 住宅用火災警報器の設置促進

条例制定後、リーフレットを作成し、防火協会及び自治会（町内会）等の協力を得て、全ての世帯に配布するとともに、火災予防運動期間中の街頭広報、その他各種イベント、広報誌への掲載、マスメディア等を通じての広報活動、防火座談会等での防火指導に加え、住宅用火災警報器の設置維持について啓発を行うなど、あらゆる機会を通じて住宅用火災警報器の設置促進に取り組んでまいりました。

また、平成23年からは、消防局、消防団、防火協会、自治会、各構成市町の消防主事等を委員とした「住宅用火災警報器設置促進委員会」を発足し、定期的に委員会を開催し、関係団体が連携した取組を継続しています。



住宅用火災警報器設置促進委員会

### (3) 防災品の普及

火災による死傷者には、高齢者の着衣着火等による事例もあります。

こうしたことから、防火座談会、防火教室では、住宅防火対策の一環として、寝具や衣類等の防災物品の普及を呼び掛けるとともに、職員においては、一般財団法人日本防災協会が開催する防災講座を受講し、防災品についての知識を深めています。

その他、当消防組合管内で開催される最大のイベントである「ばら祭り」を始めとした各種イベント等において、防災展示コーナーを開設し、防災製品の普及啓発を推進しています。



ばら祭り

## 7 おわりに

以上、当消防組合の予防行政の取組みについて紹介させていただきました。

先にも紹介しましたが、当消防組合で

は、査察規程等の全面的な見直しを行いました。これに先がけ平成25年2月に「建築物の防火・避難の安全性を確保するための指針」を策定し、指針に掲げる「立入検査体制の強化」、「査察実施計画の改善」、「火災危険を考慮した立入検査」及び「違反防火対象物に対する是正指導の徹底」等について重点的に取り組んでいます。

こうした施策の一環として、本年4月に独自の防火・避難基準適合防火対象物

公表制度を開始し、公表されている防火対象物は着実に増加しております。

関係者からは「継続して公表されるよう取り組んでいきたい。」という声もあります。また、公表されていない施設については、関係者自らが改善に向け、前向きに取り組む姿勢が見えるなど一定の効果が見られます。

今後とも地域住民の安心と安全の確保のため職員一丸となって予防行政を推進してまいりたいと考えております。

## ～防災品の購入・使用についてのご意見募集～

防災ニュースご愛読の皆様にはおかれましては日頃より火災予防・住宅防火のために防災品が役立つことは十分ご承知のことと存じます。

ただ、広く普及しているかと申せばまだまだ一般的には防災品をご存知でない方も多いのが現状です。

そういった中、ご購入・ご使用になられている皆様はどのようにして防災品を知り、どこで購入されたか、またご使用になられての感想などをお聞かせいただきたいと思っております。

皆様からお寄せいただいたご意見、ご感想等は、防災ニュースで紹介したり今後の広報活動等の参考にさせていただく予定です。

下記によりメール・FAX等でお送りください。よろしく願いいたします。

- 400字程度（原稿用紙・Word文書等）
- お名前・ご住所・電話番号（携帯可）
- 写真などがあれば同封してください

宛先：（公財）日本防災協会 広報室

F A X 03-3271-1692

E-mail bouen-koho@jfra.or.jp

# 品質管理広報の重要性

株式会社 弘和 代表取締役 白井 裕人

## 【弘和の歴史と防災】

各種産業用化繊幕体資材の加工メーカーとして、私共弘和は創業以来、今日に至るまで、大凡半世紀という時間を生きて参りました。これも弊社商品を御愛用くださるお客様、そして日々新たな御提案をくださる仕入先様からの、永年変わらぬ御信頼御愛顧故の賜物かと存じます。

さて弊社のその歴史、とりわけ前世紀における神戸ポートアイランド建築時より今日に至るまで、その三十余年についてを申し上げます、私共弘和はこの長い時間のなか、まさしく『防災』の二文字とは切っても切れない仲であったこと、改めて思い知らされる次第です。

## 【登録・認定が意味するもの】

わが社の登録者番号はAFE-㉓-0295。これはつまり、製造・輸入販売・裁断・施行・縫製といった多岐にわたる業種分野を網羅することを意味しています。それは同時に、わが社が取り扱う商品が多種多様な業界分野に展開されるということ、更にはこれ等をお買い上げ頂いた使用者様におかれましては、これまた様々な目的用途のもと、これら商品を使用されるであろう、ということも示唆しているわけです。

今世紀に入っては、弊社ではそれまで



常滑工場

の建築・塗装分野を主とした防災物品展開に加え、インクジェットプリント業務を加えたことにより、M番号という防災製品取り扱い認定事業所番号も取得しております。ここに至ると防災物品、防災製品共に更なる展開が進むこととなり、弊社における防災物品・製品品質管理の重要性は、益々高まることとなりました。

## 【問題点】

このように、弊社においては他種多様な分野に向けて防災物品・製品の製造販売展開がなされているわけですが、その一方で、供給サイドに立つ身としてつくづく思い知らされることがございます。

それは、防災への“認識意識のばらつき”、とでもいうような事象を、いまだ感じる事が多い、ということです。

お客様の業種によっては、例えば広告看板業界のお客様より「ターポリン印刷

のシートを作って欲しい」旨相談されると、これは用途までは教えてくださいますが、ではその場所、建物は？「防災品を使用しなければいけない場所がありますよ」とお答えすると、「今までそのようなことは確認してこなかった」という御返答も多いのです。

確かに、防災表示者の認定をいただいている以上、社内の製造販売現場において、これに準じた品質管理や営業活動を組織的に展開するという事は必須であり、大変重要かつ永続的課題のひとつであることは疑いありません。

しかし弊社では、それだけではまだまだ、『防災』という必須価値を定着させるには不足に思っております。

いくら私共が自社において、防災製品・物品の機能或いは性能の維持管理を強化したとしても、お客様である中間流通業界の方々、或いは小売、或いは使用者の皆様がこれらの意義そして重要性を理解していなければ、社内での品質管理も絵に描いた餅に止まってしまう。

防災規制を受ける環境であれば、防災

物品。

その条件であれば、本来ならば使用が望ましい防災製品。

しかし、実際にそれらを採用していただくためには、使用現場の皆様にも、作り手売り手である私共同様、その必要性を感じていただかなくてはなりません。

私どもが取り扱う商材は、万が一にも誤った認識のもとで使用した場合、時には財産の喪失、時には人命に関わってしまうことも考えられる、非常に社会的重要性を帯びた性格を持っています。

それ故に供給者として、私共防災表示業者は、こと『防災』については、社内製造現場での品質管理に止めることなく、それと同等以上に、販売現場においてもこれを重視し、“対外的”広報活動措置を、組織的かつ有機的に展開せねばならぬものと存じます。

### 【社内への適用】

“防災品の品質管理は自己完結では許されず、より市場に対しては開放的、かつ縦断的でなければならない”

弊社ではそのような意識のもと、まずは防災物品・製品といった商品情報を発信する部署・社員に対しても、TQMの一環として、これら商品の御案内につき、より積極的なナレッジ・マネジメントを展開しています。

例えば、社内情報ネットワークの一要素として存在する商品データベースについては、商品の価格や仕様以外にも、防災に関するセグメントを設け、商品毎に適用用途を明確にし、更には使用業界とリンクさせることで、“防災”商材については、お客様に対し“新入社員でも案内できる”体制を整えています。

この特化された専用データベースを用いれば、たとえお客様が現場事情に詳しくない業界の方であっても、防災に関する御案内が可能となります。お客様の御

コーワ  
クリア採光防音シート

- 透視性の良いクリアタイプの防音シートです。
- 明るく視座を実現、大層な安全性を確保します。
- 高強度で耐久性に優れています。(厚み0.95mm)
- 断熱が出来ない製法自給加工になっています。
- 安心の防災加工器(防災試験番号) C2100022

規格サイズ 1.8x3.4 外寸 1.81x3.5  
オーバーラップ付き 重量約10kg

Kowa 弘和  
http://www.kowa.co.jp TEL:03-6311-4344  
FAX:03-6311-2334



社名を端末に打ち込むことで当社の業種業界を自動的に呼び出し、それらによっては御存じないであろう防災に関する諸規定が、各人が保有する端末画面に、これも自動的に呼び出されます。そして問い合わせを受けた適用環境のなかで推奨しうる商材が“防災”というセグメントのなかでリストアップされ、オペレーターはこれを基に商品の御案内する…“防災”に関し、こんな“社の枠を超えた”御案内をすることも、長年のノウハウから可能になっております。

これを通常の営業活動においてだけでなく、ひと月前に入社したばかりの、管理部門の新入社員でも可能であること

…これも立派な“情報”品質管理の一環であることと自負しております。

### 【今後の展開】

弊社は来年度には創立五十周年を迎えます。

これを機に、登録・認定業者の名に恥じることなく、今後は社内外に向けてより一層の品質強化と情報発信を行っていく所存です。

例えば現状各商品の防災性能試験においては社外の検査機関の諸機能を利用していただいております。これはコストの削減には寄与しますが、一方で検査回数が限定的なものとなり、よりコストな試験を行うこと、即ち品質の安定性を求めるには限界があります。そこで今後は社内に各種の検査機器を導入し、より高度な検査技能を持った人材教育を進めていく所存です。

また対外的には、前述した検査機器を用いたサンプル作りを推進し、実際に販売の場において、実際にお客様向けに防災品の有用性をご覧いただくことで、より安全かつ安心できる現場づくりをお手伝いさせていただくことも視野に入れております。

これら社内外の活動を有機的に結合させることで、より“生きた”防災物品・製品のモノづくりを展開していくこと…それが私共協和の、社会的責任でもあると信じております。

以上

# 自動車に使用される繊維製品の 防炎性の試験方法と判定基準

(公財)日本防炎協会 技術部

住宅等建物と同様に航空機、船舶、自動車及び鉄道にも繊維製品が使用されているが、国内においてはこれらに使用される繊維製品は消防法の規制を受けず、異なる法体系で防炎性が規定されている。

以前に紹介した航空機及び船舶に引き続き、米国、EU及び日本における自動車の防炎規制を紹介する。

●車両並びに車両への取付け又は車両における使用が可能な装置及び部品に係る統一的な技術上の要件の採択並びにこれらの要件に基づいて行われる認定の相互承認のための条件に関する協定

## ①協定概要

国連における自動車の基準に関する国際協定として、1958年に「車両並びに車両への取付け又は車両における使用が可能な装置及び部品に係る統一的な技術上の要件の採択並びにこれらの要件に基づいて行われる認定の相互承認のための条件に関する協定※1」（以下、1958年協定という）が締結された。

1958年協定では、自動車の構造及び装置の安全・環境に関する統一基準の制定と相互認証を推進することを目的に、自動車の防炎規制を含む131項目についての基準が、UN/ECE規則（United Nations / Economic Committee for Europe Regulations：国連欧州委員会規則）として制定された。防炎規制はUN/ECE規則No.118「燃焼性状及び/又は自動車の特定区分の構築に使用される材料の燃料又は潤滑油をはじく性能に関する技術基準※2」（以下、UN/ECE規則No.118という）として制定されている。

※1：Agreement concerning the Adoption of Uniform Technical Prescriptions for Wheeled Vehicles, Equipment and Parts which can be fitted and/or be used on Wheeled Vehicles and the Conditions for Reciprocal Recognition of Approvals Granted on the Basis of these Prescriptions

※2：Uniform Technical Prescriptions Concerning the Burning Behaviour and/or the Capability to Repel Fuel or Lubricant of Materials Used in the Construction of Certain Categories of Motor Vehicles

## ②規制対象となる自動車

UN/ECE規則No.118に規定される自動車の区分を次に示す。このうち、カテゴリ－M2のクラスⅡ及びクラスⅢ並びにカテゴリ－M3（クラスは問わない）に防炎規制が適

用される。

区分	定義
カテゴリー M	乗員の輸送を目的とする4輪以上の動力車両
カテゴリー M1	運転席を加え定員8席以下の車両
カテゴリー M2	運転席を加え定員8席超、かつ最大重量5トン以下
クラス I	運転席を加え定員22名超かつ立席のエリアがあり、頻繁に乗客が動くことが認められる車両
クラス II	運転席を加え定員22名超で下記いずれかの車両 ・主に着席した乗客を運ぶための車両及び座席間通路の立席は認められるが、二人席2つ分のスペースを超えない車両 ・座席間通路の立席は認められるが、二人席2つ分のスペースを超えない車両
クラス III	運転席を加え定員22名超かつ着席した乗客のみを運ぶための車両
カテゴリー M3	運転席を加え定員8席超、かつ最大重量5トン超
クラス I	運転席を加え定員22名超かつ立席のエリアがあり、頻繁に乗客が動くことが認められる車両
クラス II	運転席を加え定員22名超で下記いずれかの車両 ・主に着席した乗客を運ぶための車両及び座席間通路の立席は認められるが、二人席2つ分のスペースを超えない車両 ・座席間通路の立席は認められるが、二人席2つ分のスペースを超えない車両
クラス III	運転席を加え定員22名超かつ着席した乗客のみを運ぶための車両

### ③防災基準

UN/ECE規則No.118では、材料の種類及び設置位置等により試験方法及び判定基準が規定される。以下に、UN/ECE規則No.118が規定する材料の種類及び設置位置等毎の試験方法及び判定基準を示す。

#### 1) 室内空間に水平に設置される材料及び複合材料・エンジンルーム及び別々の加熱室内に水平に設置される断熱材料

#### 【試験方法】

##### ●水平燃焼速度試験

###### <概要>

水平に保持した試験サンプルを規定のバーナーで15秒間接炎して、試験サンプルの燃焼した長さや燃焼速度を測定し、評価するもの。

###### <手順概略>

- ・ 長さ356mm、幅100mm、厚さ13mm（以下）の試験サンプルを等方性の場合は5個、異方性の場合は10個（各方位5個）用意する
- ・ サンプルホルダー（2つのU字型金属プレート）に試験サンプルを取付ける
- ・ 試験サンプルを取付けたサンプルホルダーを燃焼チャンバーに設置する
- ・ サンプルホルダーの開口端から試験サンプルを規定のバーナーで15秒間接炎する
- ・ 試験サンプルの燃焼がサンプルホルダーの開口端から最初の測定地点（38mm）の位置に達したとき、時間の計測を開始する
- ・ 試験サンプルの燃焼が最初の測定地点（38mm）の位置から最後の測定地点（254mm）

に達するまでの時間を計測する。燃焼が最後の測定地点（254mm）まで達しない場合、燃焼が止まった地点までの距離と時間を計測する

- ・ 燃焼速度を計算する

#### 【判定基準】

燃焼速度が100mm/min以下、又は最終測定点に到達する前に自己消火すること。

- 2) シートクッションから500mmより高い位置及び車両のルーフに設置される材料及び複合材料・エンジンルーム及び別々の加熱室内に設置される断熱材料

#### 【試験方法】

##### ●溶融挙動試験

<概要>

水平に保持した試験サンプルを規定の電気放射器（Electric Radiator）で曝露させ、試験サンプルの溶融滴下物がコットンウール（Cotton Wool）に着火するかどうかを確認し、評価するもの。

<手順概略>

- ・ 70mm×70mm、厚さ13mm（以下）の試験サンプルを4個用意する（表面が異なる場合は8個用意する）
- ・ 試験サンプルを規定の支持台（Grill）に取付ける
- ・ 規定の容器にコットンウール（Cotton Wool）を入れ、支持台の下方300mmに置く
- ・ 規定の放射器で試験サンプルを加熱する。試験サンプルが着火した場合、放射器を3秒間脇へ離し、火が消えたら元に放射器を戻す。試験最初の5分間、この手順を必要な回数繰返し行う
- ・ 試験開始から5分後、試験サンプルの火が消えている場合（試験最初の5分間に着火したかにかかわらず）、放射器は元の位置に残し（試験サンプルが再着火しても）、更に試験を5分間継続する
- ・ 試験開始から5分後、試験サンプルが燃焼している場合、燃焼が止まってから再度放射器を元の位置に戻し、更に試験を5分間継続する
- ・ 溶融滴下物の形成、及び溶融滴下物が燃焼しているかどうか、又は溶融滴下物によってコットンウール（Cotton Wool）が着火するかどうかを観察する

#### 【判定基準】

コットンウール（Cotton Wool）を着火させる滴下物が形成されないこと。

- 3) 室内空間に垂直に設置される材料及び複合材料

エンジンルーム及び別々の加熱室内に垂直に設置される断熱材料

#### 【試験方法】

##### ●垂直燃焼速度試験

<概要>

垂直に保持した試験サンプルを規定のバーナーで接炎して、試験サンプルの燃焼した長さや燃焼速度を測定し、評価するもの。

<手順概略>

- ・ 長さ560mm、幅170mmの試験サンプルを等方性の場合は3個、異方性の場合は6個（各方位3個）用意する
- ・ 長方形フレームのサンプルホルダーに試験サンプルを取付ける
- ・ 規定の位置3箇所を目印の糸（Marker Threads）を付ける
- ・ 試験サンプルの下端を規定のバーナーで5秒間接炎する
- ・ バーナーを取除いた後、試験サンプルの燃焼が5秒間続いた場合、着火が発生したとみなす。着火が発生していない場合、別の試験サンプルを15秒間接炎する
- ・ 試験サンプルの燃焼が接炎点から最初の目印の糸位置に達したとき（t1）、2番目の目印の糸に達したとき（t2）、及び3番目の目印の糸に達したとき（t3）の時間を計測する
- ・ それぞれ（t1、t2及びt3）の燃焼速度を計算する

**【判定基準】**

燃焼速度が100mm/min以下であること。

●米国

①法概要

米国において自動車を規定する連邦法は、合衆国法典（United States Code）タイトル49輸送（Transportation）サブタイトルVI-自動車及びドライバープログラム（Motor Vehicle and Driver Programs）に主にまとめられている。技術要件等の詳細については、連邦規則集（Code of Federal Regulations：以下、CFRという）タイトル49輸送（Transportation）Part 500～599に規定されている。

自動車の防災規制は、自動車の安全基準を規定する49 CFR Part 571 連邦自動車安全基準（Federal Motor Vehicle Safety Standards：以下、FMVSSという）の、FMVSS No. 302 内装材の燃焼性（Flammability of Interior Materials）に規定されている。

②規制対象となる自動車

49 CFR Part 523が規定する自動車の区分を次に示す。防災規制は全ての区分の自動車に適用される。

区分	概要
自動車 Automobile	燃料又は代替燃料によって走行する総重量10,000ポンド（4,536kg）未満の四輪車両
乗用車 Passenger automobile	定員10人以下の自動車
乗用車に該当しない自動車 Non-passenger automobile	乗用車（Passenger automobile）に該当しない自動車：定員10名超、又は一時（temporary）住居用等

大型ピックアップトラック及びバン Heavy-duty pickup trucks and vans	車両総重量8,501ポンド (3,856kg) から14,000ポンド (6,350kg) までの大型ピックアップトラック及びバン
大型特殊車両 Heavy-duty vocational vehicle	大型ピックアップトラック及びバン、中型乗用車両及びトラックトラクターを除く総重量8,500ポンド (3,856kg) 超の大型特殊車両
トラックトラクター Truck tractors	車両総重量26,000ポンド (11,794kg) 超のトラックトラクター

### ③防災基準

以下に、FMVSS No. 302が規定する対象製品、試験方法及び判定基準を示す。

#### 【対象製品】

- ・ シートクッション、シートバック、シートベルト
- ・ ヘッドライニング
- ・ コンバーチブルトップ
- ・ アームレスト
- ・ ドア、フロント、リア、サイドパネルを含むすべてのトリムパネル
- ・ コンパートメントの棚
- ・ ヘッドレスト、サンバイザー
- ・ 床仕上げ材
- ・ カーテン、シェード
- ・ ホイールハウジングカバー、エンジンルームカバー、マットレスカバー
- ・ その他の内装材

#### 【試験方法】

##### <概要>

水平に保持した試験サンプルを規定のバーナーで15秒間接炎して、試験サンプルの燃焼した長さや燃焼速度を測定し、評価するもの。

##### <手順概略>

- ・ 長さ356mm、幅102mm、厚さ13mm (以下) の試験サンプルを作成する
- ・ U字型金属フレームに試験サンプルを取付ける
- ・ U字型金属フレームの開口端から試験サンプルを規定のバーナーで15秒間接炎する
- ・ 試験サンプルの燃焼がU字型金属フレームの開口端から38mmの位置に達したとき、時間の計測を開始する
- ・ 試験サンプルの燃焼が開口端から38mmの位置から固定端に達するまでの時間を計測する。燃焼が指定された終了地点 (エンドポイント) まで達しない場合、燃焼が止まった地点までの距離と時間を計測する
- ・ 燃焼速度を計算する

#### 【判定基準値】

燃焼長さ51mm以内、かつ燃焼時間60秒以内で自己消火すること。又は、燃焼速度が102mm/min以下であること。

## ●EU

### ①法概要

自動車に関する欧州法令は多数制定されている。自動車の防災規制として欧州委員会（European Commission：以下、ECという）により、Directive 95/28/EC of the European Parliament and of the Council of 24 October 1995 Relating to the Burning Behaviour of Materials Used in the Interior Construction of Certain Categories of Motor Vehicle（自動車のあるカテゴリーの内装構成に使用される材料の燃焼性状）（以下、指令95/28/ECという）が制定されている。指令95/28/ECに基づき、自動車に使用される内装材の燃焼性は規制される。

### ②規制対象となる自動車

EUの自動車の区分は、UN/ECE規則と同様である。このうち、カテゴリー M3内で定員22名超（立席用に設計されたもの及び都市バスを除く）の自動車に防災規制が適用される。

### ③防災基準

指令95/28/ECでは、材料の種類及び設置位置等により試験方法及び判定基準が規定される。試験方法及び判定基準はUN/ECE規則No.118と同様である。以下に、各試験の対象となる製品を示す。

#### ●水平燃焼速度試験

- ・ 座席シートの布張りや詰め物
- ・ 分離壁（ルーフ、側面と後部の壁を含む）の内張り
- ・ 断熱及び防音材料
- ・ 床の内張り
- ・ 荷物ラックの内張り、冷暖房空調配管
- ・ 照明器具

#### ●溶融拳動試験

- ・ ルーフの内張り
- ・ ルーフに設置した荷物ラックの内張り、冷暖房空調設備配管
- ・ 荷物、ラックやルーフに設置したライト

#### ●垂直燃焼速度試験

- ・ カーテン、ブラインド又は他の吊り下げ材料

## ●日本

### ①法概要

日本の自動車の安全に関連する根拠法として道路運送車両法が制定され、国土交通省が管轄している。自動車に使用される可燃材の難燃性については、本基準第2章第20条において難燃性材料の使用義務が規定されている。これに基づき、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示・別添27「内装材料の難燃性の技術基準」が制定され、試験方

法等の詳細な基準が規定されている。

## ②規制対象となる自動車

道路運送車両法に規定される自動車の区分を次に示す。防災規制が適用されるのは、二輪自動車、側車付二輪自動車、カタピラ及びそりを有する軽自動車、大型特殊自動車並びに小型特殊自動車を除く自動車である。

区分	定義
普通	小型自動車、軽自動車、大型・小型特殊自動車以外のもの、トラックなど
小型	総排気量が2,000cc以下で、大きさが長さ4.7m以下、幅1.7m以下、高さ2.0m以下の自動車（軽油を燃料とするものは除く）
軽	総排気量が660cc以下で、大きさが長さ3.4m以下、幅1.48m以下、高さ2.0m以下の自動車
大型特殊	小型特殊自動車以外のもの（ショベルローダ、フォークリフト、農耕用作業自動車、ポールトレーラなど）
小型特殊	大きさが長さ4.7m以下、幅1.7m以下、高さ2.8m以下、最高速度が15km/h以下の自動車農耕用作業自動車で最高速度が35km/h未満の自動車

## ③防災基準

以下に、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示・別添27「内装材料の難燃性の技術基準」が規定する対象製品、試験方法及び判定基準を示す。

### 【対象製品】

以下製品であって、車体に固定されているものの構成材料。

- ・ 座席、座席ベルト、シート組込式年少者用補助乗車装置
- ・ 天井張り
- ・ コンバーチブルトップ
- ・ アームレスト
- ・ ドア・フロント・リア・サイドトリム、リアパッケージトレイ
- ・ 頭部後傾抑止装置
- ・ カーペット、マット
- ・ サンバイザー、サンシェード
- ・ ホイールハウスカバー、エンジンコンパートメントカバー
- ・ マットレスカバー
- ・ インストルメントパネルパッド
- ・ ステアリングセンターパッド
- ・ エアバッグの膨張部分及びニーボルスター

### 【試験方法】

<概要>

水平に保持した試験サンプルを規定のバーナーで15秒間接炎して、試験サンプルの燃焼した長さや燃焼速度を測定し、評価するもの。

<手順概略>

- ・ 長さ350mm、幅100mm、厚さ12mmの試験サンプルを5個用意する
- ・ コの字型取付具の開口端から38mmの位置及び当該位置から254mmの位置に標線を表示する
- ・ コの字型取付具に試験サンプルを取付ける
- ・ コの字型取付具の開口端から試験サンプルを規定のバーナーで15秒間接炎する
- ・ 試験サンプルの燃焼がコの字型取付具の開口端から38mmの位置（A標線）に達したとき、時間の計測を開始する
- ・ 試験サンプルの燃焼がA標線からの距離が254mmの位置（B標線）に達するまでの時間を計測する
- ・ 燃焼速度を計算する

【判定基準値】

次のいずれかの基準に適合すること。

- ・ 燃焼しないこと
- ・ 試験サンプルの燃焼速度が100mm/minを超えないこと
- ・ 試験サンプルの燃焼がA標線に達してから60秒経過する前に停止し、かつ、A標線に達した後の試験サンプルの燃焼した長さが50mm未満であること

— 消 防 機 関 の 皆 さ ま へ —

## 防災物品・防災製品の普及・奏効例を

☆お知らせください☆



防災物品（カーテン、暗幕、どん帳、布製ブラインド、じゅうたん等、展示用合板、舞台において使用する幕および大道具用の合板、工事用シート）、防災製品（寝具類、衣服類、テント類、シート類、幕類、自動車・バイク等のボディカバー、布張家具等、防護用ネットほか）の普及活動事例及び火災をくい止めた事例を「防災ニュース」誌上でご紹介したいので、ぜひご一報ください。

（公財）日本防災協会 広報室

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-1-5 共同ビル  
TEL 03-3246-1661 FAX 03-3271-1692  
広報室メールアドレス:bouen-koho@jfra.or.jp

# ISO/TC94/SC14シドニー会議報告

一般財団法人カケンテストセンター技術部東京 技術室 三橋 卓也

ISO / TC94 個人防護 (PERSONAL SAFETY) / SC14 消防隊員用防護装備 (PROTECTIVE CLOTHING AND EQUIPMENT — FIRE — FIGHTERS' PERSONAL EQUIPMENT) / WG's (ワーキンググループ) & PG (プロジェクトグループ) 会議

主催者: オーストラリア規格協会 (Standards Australia)

協賛者: オーストラリア消防・救急局 (Australasian Fire and Emergency Service Authorities Council)



ISO/TC94/SC14/シドニー会議場  
(オーストラリア規格協会)

## 1. 会議日程及び場所

月日	曜	AM		PM
7/21	月	WG1 「一般要求事項」: PG PWI18640 発汗マネキン試験方法と評価方法	WG2 「建物火災防護装備」: PG10 「呼吸器」	WG1 一般要求事項
7/22	火	WG2 「建物火災防護装備」 PG5: ヘルメット		WG2 「建物火災防護装備」 PG6: 靴
7/23	水	WG2 「建物火災防護装備」 PG9: フード		WG4 「HAZMAT (危険物質)」
7/24	木	WG5 「救助」		WG2 「建物火災防護装備」
7/25	金	WG3 「原野火災用防護装備」		SC14: 全体会合

## 2. 会議参加者 (敬称略)

日本11社13名 他通訳1名

城田 剛 (東京消防庁)、小林 寿太郎 (小林防火服 (株))、石川 修作 ((株) 赤尾)、永野 清幸 ((株) 赤尾)、園部 修 (帝国繊維 (株))、木村 裕彦 ((株) アライヘルメット)、笠井 一治 (ミドリ安全 (株))、設楽 達男 (ミドリ安全 (株))、熊谷 慎介 (アエアス (株))、鈴木 崇弘 (帝人 (株))、池田信一郎 (デュポン (株))、山本 文彦 (エアウォーター防災 (株))、三橋卓也 ((一財) カケンテストセンター)、神元 郁子 (通訳)  
他 およそ15カ国 45名 (毎日参加者が流動するため確定数は不明)

### 3. 会議内容

1) WG1「一般要求事項」：PW118640「発汗マネキン試験方法と評価方法」のPG会議  
PGリーダー スイスのマーチン・カマザイン氏 (EMPA) より、表題をAWI18640  
生理的熱負荷試験 その1、「発汗マネキンによる連動した熱質量伝達測定方法」 Protec-  
tive clothing for fire fighters — Physiological impact —Part 1 : Measurement of coupled  
heat and mass transfer with the sweating TORSOと、その2 Protective clothing for fire  
fighters — Physiological impact —Part 2 : Determination of physiological heat load  
caused by protective clothing worn by firefighters「消防隊員の防火服着用時の生理的熱  
負荷の測定」とした規格の概要説明と今後のスケジュールの説明があった。

その1は、発汗マネキン（マネキンという言葉を使用しているが、これは円筒形の形  
状をしており人形ではない。）を使用した熱質量伝達測定方法の装置と測定条件を規定  
する規格である。この試験方法は、スイスのEMPAが開発した方法でこれに似た透湿量  
と熱移動の測定方法にISO11092がある。この試験方法は、円筒形の発汗ノズル付質量  
測定装置で全高約120cm、測定面積は約0.4m<sup>2</sup>とISO11092の測定面積の0.04m<sup>2</sup>に比べて  
広い面積を使って測定できる。

その2 Protective clothing for fire fighters — Physiological impact —Part 2 : Determi-  
nation of physiological heat load caused by protective clothing worn by firefightersでは、  
消火・救助活動中の生理負荷条件を幾つかの環境条件（シナリオと呼んでいる。）によっ  
て測定する方法を提案している。この条件には、建物内で4条件、建物外、原野、救助  
を想定した測定環境条件がある。この条件は主に欧米型の環境条件のモデル化であると  
思われ、世界各地域の特徴を活かした条件付けの検討が必要となるかもしれない。

これらシリーズの表題を下記のとおりにして2014年9月24日までにCDに上げて登録  
することになった。

ISO / AWI 18640-1 Protective clothing for fire fighters – physiological heat load —  
Part 1 : Measurement of coupled heat and mass transfer with the sweating torso

ISO / AWI 18640-2 Proposition : Protective clothing for fire fighters – physiological  
heat load — Part 2 : Determination of physiological heat load caused by protective cloth-  
ing worn by firefighters

#### 2) ISO13506計装マネキンによる火傷予測製品試験方法について

まず、ISO 13506のSC13での改訂版投票結果報告とSC13と共同で行ったラウンドロ  
ビンテストの報告が、EMPAのカマザイン氏、アルバータ大学 ダグ・デイル元教授両  
氏からあった。

この試験方法は、SC13で検討されている案件で、SC13では、ISO13506 : 2008を  
-1、-2に分離して-1はEN / ISOの共同規格、-2はISO単独規格として提案検討するこ  
とになった。

この計装マネキンによる火傷予測評価方法は、SC14消防隊員用防火服の製品およ  
びアンサンブル評価に関しても重要な方法であると位置づけられており、かねてより  
SC13と共同でラウンドロビンテストが実施され、機差に関する原因究明が行われてき  
た。

そのラウンドロビンテストに参加した7ヶ所の装置のうちISO13506 : 2008に一致し  
ている装置は2ヶ所しか無いことが判明しました。これら装置間のばらつきの原因は様々  
考えられるが、装置間のばらつきは主にセンサーの位置と数量によるもので、かつそれ

ぞれの温度センサーのタイプが異なることから校正方法を定義する必要がある。よって装置の仕様と測定値の取り扱い方、校正方法などを定義付けしたマネキン装置の規格 EN / ISO13506-1が2014年12月5日締め切り投票を予定し、さらに火傷予測の計算方法について定義したISO13506-2を2014年9月26日までにCD登録するべくコメントを求めている状態である。

### 3) WG1「一般要求事項」

TC94リューベック会議議決事項についてWG1議長デイブ・マッシューズ氏から、今年5月に開催されたTC94 (personal safety) リューベック総会の議決に基づきSC14 / WG1でCBRN (化学物質、生物、放射能汚染、原子核) 防護に関するプロジェクトグループを組織し検討を進めることになったと報告があった。とくにCEN (欧州標準化委員会) ではチェルノブイリ事故に派遣されたUKの消防隊の調査結果を元に規格化を進めるとのこと。

また、TC94では傘下にある各SCに対しコンパチビリティを検討するよう指示が出された。これについてSC14の各WGでも検討するが、SC14全体に及ぶ一般要求事項としてのコンパチビリティ規格をWG1がプロジェクトグループを組織して推進することになった。この規格を、IS (International Standard) にするかTR (Technical Report) またはTS (Technical Specification) にするかは今後検討課題としている。

### 4) WG2 / PG10呼吸器

PGリーダーのダーク・ハゲボーリング氏 (独) よりSC15呼吸用保護具からSC14に対して、SC15では呼吸器を5種のクラスに分類 (原野・救助・ハズマツト・建物R1・建物R2) する提案があったが自然・社会環境や火災に伴って起きる事象も違うので、SC14としてはオプションごとに考慮してゆくことをSC15に報告し、今後は呼吸器とヘルメット・服との組み合わせについても議論を重ねてゆくことになった。次回の会議ではSC14として、呼吸器のクラス分けについて6種、原野火災・建物火災・救助・搜索救助・HAZMAT・CBRNに分けて継続議論する。

他に消防隊員用RPDの性能区分R1、R2の耐熱性について現行ISO / CD16900-10 Respiratory protective devices - Methods of test and test equipment - Part 10 : Resistance to ignition, flame, radiant heat and heatの試験条件を一部モディファイするために試験温度をR1 : 180℃、R2 : 260℃の2水準にするかR1、R2とも260℃の1水準にまとめるか検討したが結論に至らず継続する事になった。次回の会議ではSC15から専門家の出席を要請する。

## 7 / 22 (火) WG2消防隊員用防護装備PG 会議

### 1) PG-5消防隊員用ヘルメット

PGリーダー 小林氏を中心にアライヘルメットの木村氏がDIS原案の概要説明と各国から出されたコメントを審議した。この中で、

- ① ストラップの強度についてオーストラリアからストラップによる首吊りを避けるためretention test により1000N



ISO/TC94/SC14/WG2会議

で外れる基準を必須とするべき旨の意見が出され検討しNOTEに記述することになった。

- ② EN443消防隊員用ヘルメットでは溶融金属に対する性能があるため、ISO / DIS 11999-5にも性能を要求すべき、との意見が出、選択項目として残すことになった。
- ③ その他編集上の訂正と確認が行われた。

WG2の議長からの提案で、今回DIS原案の投票結果が賛成100%であったのでFDISをスキップしてIS出版することで合意した。

## 2) PG-6靴

PGリーダー ニュージーランド・ジョー・ガウラー氏 ジョイントリーダーの日本笠井氏・設楽氏により議事が進行。

DIS投票の報告およびコメント審議した。今回のコメントは84項目と多数にわたるため、討議を要する項目に絞り込んで審議した。

ドイツよりEN規格と同じでなければならないというコメントに対して、SC14議長及びWG2議長であるラッセル・シェパード氏よりISO11999シリーズは-1から各部位ごとに独立しながらもシリーズ全体でアンサンブル規格となるよう各国が協調して成立に向け努力してきた。よって、靴もシリーズの一部分でありウィーン合意を盾にEN以外は受け入れないという意見は協調を欠き不穏当であるとして、この意見を却下した。

技術的なコメントでは、軽量靴、縫糸・靴紐の耐熱性についての項目は削除することとなり、耐滑性については、試験条件を3タイプの中から選定できるように、また耐熱性の試験のコメントで250℃を260℃とすべきであるとの意見に対しドイツより反対意見があった。また、オーストラリアから浸水屈曲試験が提案され、ISO20344:2011の製品屈曲試験機法により、クラス1の革製の履物にも耐薬品性の試験を加えたいと提案があったが、これらについては次回投票の中で意見を聞くことになった。

日本は軽量靴の項目をDISより削除することに同意しましたが東京消防庁の行った防火靴の重量を変えて「重量が作業性に影響を与える」実証実験結果を笠井氏がプレゼンテーションした。

## 7 / 23 (水) WG2消防隊員用防護装備PG PG-9フード

1) PGリーダーのキー・ユン教授 (韓国) 帝國繊維 園部氏を中心に議事が進行されました。

議事は、編集上の指摘が主であったが、洗濯前処理の方法の記述が旧版規格のままになっている点が指摘され最新版ISO6330の方法に訂正することになった。この指摘は編集上の問題であるが、同様の記述が他のFDISとなった手袋や服にもあるため記述の変更の手續きが問題になった。さらに、指定洗剤が蛍光剤入りIEC洗剤になっているが、NFPA1971は無蛍光洗剤を指定しており、さらに洗濯試験規格のISO6330では、蛍光、無蛍光洗剤のどちらも使用してもよいことになっていることからどちらを指定するか検討する事になった。

また、破裂強さの指定試験方法がISO13938-2の空気圧法でかつ破裂速度が20秒から30秒に変更されていたのでこの点も訂正するなど子細な訂正点が出てきたので次回の投票はDIS-2でどうかと日本から意見したが、訂正点は編集的な項目であり原案としては完成度が高いので9月30日までに修正原案を作成しFDIS投票にかけることになった。

## 2) WG4 HAZMAT (危険物質防護服)

議長 ウルフ・ナイストロム氏（スウェーデン）の進行で、

1. 関連コミッティからの報告があった。

- 1) ユン教授よりSC13 / WG3「化学防護服」とWG6「生物危険防護服」の状況について報告があり、ISO16602「化学防護服」の見直しがされる。
- 2) NFPA1991 : STANDARD ON VAPOR-PROTECTIVE ENSEMBLES FOR HAZARDOUS MATERIALS EMERGENCIESが2016年改訂発行する予定。

2. WD17723-1 type 1

PGの報告により議論された。

- 1) PG1「用語」では、使用用語をリストアップし定義をISO / WI / TR19591を基本に定義を加える。
- 2) PG2「防炎性」は、EUとUSの委員会での試験方法の進捗を待っていたが、進捗していないため報告はなかった。
- 3) PG3ファスナー部分の化学物質の透過試験方法についてエドモントン会議でSC13にも関連するためエキスパートによるR&Rを計画することになっていましたが進捗はなく、PGリーダーも欠席しているので議論できなかった。なお、必須かオプションにするか懸案になっていたフラッシュ・オーバー試験はオプションで残すことになった。

今後、PWIである文書を用語の修正を行ってCD投票にかける予定になった。

3. WD17723-1 type3、4

現在は、PWIの状態にありWG4として原案を質問表と共に回覧しフィードバックして次回ミーティングで議論する事になった。

4. その他

HAZMAT作業における輻射熱負荷の問題が議論になりました。この輻射熱負荷に対する防護性能の要求は、RPDとの協調性を考慮する必要がありWG4からWG1へ持ち上げて議論すべきなどの意見が出た。

7 / 24 (木) WG5「救助」 / WG2「消防隊員用防護装備」

1) WG5「救助」

議長 石川氏 書記 永野氏

議事はWD18639-1から-6の、パートごとに出された原案のコメントについて討議した。更に、制定に至るまでの締め切り予定 (time line) を以下のとおり確認した。

CD registered; 2015-7-23,

DIS registered; 2016-7-23,

FDIS registered for formal approval :  
2018-1-23

この予定どおりWDからCD投票が順調に進捗できるよう各パートの担当に協力要請し、担当国を確認した。エキスパート登録を近日中にメールで募集する。

担当は次のとおり。Part 1 - General : JPN (member UK, AU, CH) Part 2 - Compatibility : UK (member AU, GE)



ISO/TC94/SC14/WG5会議

Part 3 – Clothing : DK, USA Part 4 – Gloves : AU Part 5 – Helmet : JPN Part 6 – Footwear : NZ

表題について「PPE ensembles for firefighters undertaking specialist rescue activities」のうち「rescue」を「non fire rescue」に変更したい旨提案したがCENとの整合や範囲を限定したくないなど反対意見が多数で入れることはできなかった。

この他に、服の構造について議論する必要性を問うたが、はじめに要求性能を決めて後服の構造を議論することになった。また、救助の適用範囲を「交通事故」としているがオーストラリアより交通事故の定義について以下のとおりとする提案があり、CD投票に付す。

#### Transport Rescue Incident. (T.R.I.)

TRI is an emergency incident, including but not limited to, those which involve a mode of transport used to convey humans, animals or goods.

Note; This part of the standard is for PPE which is designed to protect a first responder, when engaged in a range of basic transport incidents and performing human or animal rescues.

議長より、東京消防庁の交通事故救助の様子が紹介された。

## 2) WG2「消防隊員用防護装備」

議長 デイブ・マッシューズ氏 (UK)

各PGから報告があった。PG報告と同内容なので省略

特記事項

### PG-5 ヘルメット

FDISに向けて修正事項の説明があった。

- (1) 溶融金属に対する性能要求 (オプション)
- (2) チンストラップの吊り下げ時の開放荷重を1000Nとする。(注記)
- (3) マーキング

### PG-6 靴

EN1590と整合しないことを理由にDISが否決されさらに、以下の項目の削除が決定された。

- (1) 軽量靴
- (2) 靴紐、縫い糸の耐熱・耐炎性

次回投票で意見を求める事項として

- (1) 浸水屈曲試験の必要性
- (2) クラス1の耐薬品性の必要性
- (3) 耐熱性温度を260℃に変更の可否

これら修正を加えて次回2回目DIS投票する。

### PG9 フード

技術編集的修正を加えてFDIS投票する。

修正を要する点の概略

- (1) 洗濯方法の記述と洗剤の指定
- (2) 破裂試験の方法と破裂指定時間の変更
- (3) 縫い糸の耐熱性試験方法

## PG8 聴覚

今のところ原案の提案はないがドイツから次回の会議に提案される見込み。

## PG7 顔面／眼

UKを中心に文案ができつつあるが提案できる状態にない。

NZにも顔面保護の規格がある。といった情報が持ち寄られた。現在エキスパートを捜しているとのこと。

## PG10 RPD

- (1) SC15からの質問に対する回答を検討
- (2) FF4,FF5について取り扱いを検討
- (3) HAZMATについて検討した。特にCBRN対応について
- (4) 問題点について

HAZMAT事故や原野火災にフィルターが対応できるか、フィルター性能規格がなくデザイン規格があるのみ。

熱的要求は今のところ無いがWG4で定義する必要がある。

TC94の各SC間のコンパチビリティ規格が必要である。

CBAとのWスタンダードは避けるべき。

タイプ3、4はHAZMATで使用することがあるが熱的要求はしない。

## PG2 コンパチビリティ

FDISは否決されたが、ISOではなくISO / TS (Technical Specification) 技術仕様書として再度投票し出版する。

## WD 11613・R1

ISO 113613 : 1999版の見直し修正版を小林氏作成の原案を現在回覧中であるが、UKの協力を得ながら9月にはCD文書を作成する。CDの原案は、EN469 : 2014とNFPA1971 : 2013を使用し、アプローチAに性能水準を現行水準より低いタイプ1を新設する。

その他

ISO / FDIS11999-3、DIS11999-4のウイルスバリア性能試験の試験方法（暴露方法）が不明であるため明確にする。

## 7 / 25 (金) WG3 原野火災 / SC14全体会合

### (議事1) WG3 原野火災

議長交代 リック・スワン氏 (USA) 書記 デイブ・マシューズ

ISO16073 : 2011 Wildland firefighting personal protective equipment - Requirements and test methodsが制定されて3年を経過しており見直しの要否について検討した。オーストラリアにとって、原野火災は重要な位置づけとなっており、EUにおいても同様に原野火災消火活動中に危険物質に暴露される事があり呼吸器の性能要求の無いことなどが問題視されていることなどから、原野火災防護装備のアンサンプル規格（全身防護一式規格）であるこの規格を見直すことで合意した。原案を議長が準備しWG3に提供することになった。

ISO15384 : 2003 Protective clothing for firefighters - Laboratory test methods and performance requirements for wildland firefighting clothingをウイーン合意によりEN15614をISOとの一致性と補完性を確認（マトリクスを作成）してISO主導による

EN / ISO 15384として改定してはどうかとUKから提案があった。USからはENとの同調に関して反対意見も出たがISO主導で改訂することで合意した。ただし、この案は新規提案 (NWIP) になるためCEN (欧州標準化委員会) の合意を要することから今年のWG3の会議で事前会議をする。

## (議事2) SC14全体会合

議長 ラッセル・シェパード氏 (豪) より冒頭、各製品規格には数多くの引用規格があり複雑さを増すばかりではあるが、規格間の関連性や整合性をよく精査してもらいたい旨要請があった。そのうち、各WGから合意事項の報告があり、さらに関連する委員会から各種情報提供があった。

最後に次回SC14並びにWG's / PG's会議を2015年6月15日の週にDIN主催でドイツ、ミュンヘンで開催することが決定したことが報告されて終了した。

## 所見

今回の会議でこれまで問題視されなかった技術上の問題点を指摘した。

指摘事項は、以下のとおりである。

- (1) 破裂強さ試験方法 ISO11999-9で空気圧法が指定されていたので液圧法にすることと、試験面積を $7.3\text{cm}^2$  (ミュレン法) とし基準値もそれにもなって変更する必要がある。この件は、他のSC13にも及ぶため変更原案を比較試験するとともに案出する予定。
- (2) ウイルスバリアの試験手順と基準の時間が一致しないので定義する必要がある。この規定は、手袋とフードにあり両方修正が必要である。
- (3) 洗濯前処理方法の記述が最新版になっていないこと、洗剤指定に問題がある旨。
- (4) 縫い糸の耐熱性試験方法ISO3146 (DSC) では、要求事項にある燃焼の有無は確認できないこと。

これら指摘事項は試験者でないと指摘できない部分であるが、指摘するだけでは受け入れてくれないので「こうすべきである。」という代案を持って提案しなくてはならない。この代案を提案するため引用規格や同グループ内規格案を精査し代替案の調査研究、および水平展開したときの波及効果などを示す必要性があると感じた。

最後に、この原稿は参加されたメンバーの会議メモ並びに各PG、WGから配信された議事録を参照しており関係各位に深く感謝申し上げる次第である。

以上

## 日本防災協会の研修に参加して

参加大学校 大妻女子大学  
共立女子大学  
日本女子大学

平成26年8月25日（月）から28日（木）までの4日間、大妻女子大学・日本女子大学・共立女子大学家政学部被服科学生10名が「衣料管理士実習」の一環として研修を行いました。

この研修は昨年まで大妻女子大学1校での研修でしたが今年度より日本女子大学と共立女子大学3校合同での研修となりました。研修内容は、主に繊維の燃焼挙動と防災化技術、消防法と防災協会、防災物品と防災製品の違い、燃焼試験の実習や防災品の普及・広報活動など協会全体の業務内容について行いました。

研修終了後に学生の皆さんに研修についてのご感想、ご意見をいただきましたので、ご紹介いたします。



大妻女子大学  
芳邨 成美

今回、衣料管理士の  
実習で日本防災協会に  
お世話になりました。

防災といっても正  
直な所あまり馴染み

が無かったのですが職員の方々にお話を  
伺い、防災の試験を見学して意識が大き  
く変わりました。

防災加工の物とそうでない物では燃焼  
のしかたがあまりにも異なり非常に驚き  
ました。防災品を用いることで防げる火  
災・守れる命が有る事を知りました。  
また、試験方法など学校では学べない知  
識を多く得ることができ実りの多い4日  
間となりました。

温かく迎えてくださった日本防災協会  
の皆様、有難うございました。



大妻女子大学  
安田 葉奈

今回、日本防災協  
会で衣料管理実習を  
行い“防災”につい  
て深く学ぶことがで  
きました。

防災品は普段、私達が利用する映画館  
やカラオケ、病院などで使われており、  
とても身近なものだと感じました。

燃焼試験は初めて行ったので、体験す  
ることで防災品の力を知りました。今後  
生活していく中で、これからも防災につ  
いて考えていきたいと思えます。



大妻女子大学  
高橋 麻実子

今回日本防災協会で実習をさせていただき、とても貴重な経験ができました。

以前は防災という言葉にあまり馴染みがなく、カーテンやじゅうたんなどに余り意識を向けた事ありませんでした。しかしこの4日間実習を行い火災というものがどれだけ身近なものであるのか、その上で防災品がどれだけ役

に立つものであるかがよくわかりました。

防災加工をした物としていない物を比較するだけでも燃え方に大きな差があり、加工をしていない物がどれだけ燃えるのかを目の当たりにし自分達で火災を防ぐという事の大切さを理解することができました。

これからは今回の実習を生かして防災品に対してもっと意識を向けていきたいと思えます。又、今後そういった人が増え、火災が減っていくことが良いと思えます。



大妻女子大学  
早乙女 真巳

今回TAの実習先が日本防災協会に決まった時に私は防災協会について何も知らず防災という漢字

から火に強い繊維の研究をする協会なのだろうか？など見当違いな事を想像していました。しかし防災についての丁寧

な講義を受け燃焼試験をさせていただいて、防災協会では火事を未然に防ぎ、被害を最小限に抑えるために大きな役割をはたしているということがわかりました。

又、身の回りにも防災製品が沢山あるという事も分かり、これから意識して周りを見てみたいと思えます。この4日間でとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。この体験を普段の生活でもいかしていきたいと思えます。



大妻女子大学  
諏訪 真穂

私は衣料管理実習で日本防災協会さんに4日間お世話になりました。

大学ではあまり燃焼実験をして来てなかったので新鮮な気持ちで取り組みました。見た事のない器具での実験

や講義は大学では学べないものでした。

防災品に関しても細やかな規定があることも驚きましたし、その奥深さが面白いと感じました。もともと繊維機能等に関心があったので4日間実習に参加できて良かったです。大学に戻りこの経験を生かし、さらに知識を深めていきたいと思えます。短い間ではありましたが有難うございました。



共立女子大学  
黒川 夏奈

今回の実習を通して、防災品の普及や日本防災協会の役割など様々な知識を身につける事ができま

した。また防災品と非防災品とでは一目

瞭然で防災品のすごさを実感する事ができました。そして防災規制の対象となる高層建築物の住民の7割の方々が防災製品の義務化を知らないという現状なので今後もっと普及していけばいいなと思えました。私自身も身につけた知識を家族や友達に伝えていきたいです。



共立女子大学  
小山 真央

防災については、被服学科に所属していても知らないことがほとんどでした。

今回の実習を通して防災性能試験が人の手で一つずつ厳しい試験を行い、初期の火災で逃げたり、

消火したりする時間を稼ぐことのできる防災製品や物品を普及することで火災事故が大幅に減らすことが出来るのが分かりました。

お年寄りが一番死亡率が高いので、お年寄りの一般住宅にもっと普及したらいいなと思いました。普段できない体験をすることができてとても良かったです。有難うございました。



日本女子大学  
矢野 文葉

「防災」という言葉も馴染みがありませんでした。今までアパレルとう分野で認

識していた繊維について新たな視点で学ぶことができました。防災は大切な人を守る一つの手段である、日頃から一人一人が意識していくことが重要だと思いました。



日本女子大学  
木村 優

4日間の実習を通して、学校では学ぶことのできない防災の意味や使用の義務について学ぶ事がで

きました。自分が高層マンションに住んでいるときに防災物品を使用していなかったことの無防備さを感じました。

今後は実習で学んだことを生活に活かしたいと思います。4日間お世話になりました。有難うございました。



日本女子大学  
佐藤 彩佳

衣料管理実習を受けるにあたって私は繊維関係の試験機関などで行うだろうと思っていました。し

かし配属されたのは防災協会。どんなことを行うのか想像も付きませんでした。実習を終えて分かったのは、繊維は可燃

物であり、事故の際、人に害を及ぼしやすいということです。今まで勉強してきた中では人の手に渡る前までを主に学んでいましたが人の手に渡ったあとも安全に使えるようにするためにはどうしたらいいか、ということが今回の実習で学べました。

これからは今回学んだことを活かして生活の中に防災製品を取り入れ、繊維との付き合い方を見直そうと思います。

# 仙台市消防局における奏功事例

仙台市消防局

平成25年8月、ホテルの客室において、宿泊者が携帯電話用のモバイルバッテリーを充電中に、内蔵されているリチウムイオン電池から出火、リチウムイオン電池が破裂したため机上から床面に吹き飛び、カーペットが若干焼損しました。

従業員が自動火災報知設備の鳴動で出火に気づき、粉末消火器で消火を行いました。出火当時宿泊者は外出中でしたが、防災物品であるカーペットを使用してい

たため、延焼拡大には至らなかったものです。



リチウムイオン電池の破裂の状況



焼損したモバイルバッテリー



焼損したモバイルバッテリーを除去した状況

## 「防災普及広報用ポスター」 作成、配布のお知らせ

(公財)日本防災協会 広報室

日本防災協会では、消防関係団体の御協力を得て、防災品普及啓発の為、また住宅防火対策の一環として防災品の必要性や意識高揚を図る目的で「防災ポスター」を毎年作成しております。

消防庁の「住宅防火・防災キャンペーン」でも「防災品を贈り、使用していただく」ことが3項目の1つにもなっております。

依然増加傾向に歯止めの掛からない高齢者世帯、独居世帯の方々に住宅火災の予防、延焼防止、着火事故防止等に役立つ“防災品”を周知し、使用していただけるようにポスターの掲示にも御協力をお願いいたします。

尚、今年度のポスターモデルにはリコージャパン株式会社所属・2014(一社)日本パラ陸上競技連盟 強化選手の村上清加さんを起用させて頂きました。



## 2014-2015防災ポスターの作成にあたって (座談会)

(公財)日本防災協会 広報室



(越智貴雄さん・村上清加さん・鷺坂常務理事)

開催日：平成26年9月1日

出席者 村上清加（むらかみさやか）

2014（一社）日本パラ陸上競技連盟 強化選手 リコージャパン株式会社所属  
越智貴雄（おちたかお） 写真家

司会 鷺坂 長美（公財）日本防災協会 常務理事

○鷺坂（公財）日本防災協会では秋の火災予防運動にあわせてポスターを作成し、防災品の普及啓発に努めています。ポスターにはこれまでさまざまなアスリートの方にご協力をお願いしてきましたが、今回は日本パラ陸連の強化選手である村上さんにモデルになっていただきました。写真を撮影していただきました越智さんとともにお話をお伺いしていきたいと思います。

早速ですが、村上さん、ポスターのモデルをしていただきありがとうございます。

す。依頼があったとき率直にどう思いましたか？また、防災という言葉はご存じでしたか？

○村上 はい、実は、普段利用している駅で防災協会のポスターを以前から目にしていて、防災ということに興味を持っていました。マンションに住んでいたときにも防災カーテンを使っていました。今回そのポスターに採用されるということになって少し不思議な感じがします。

○鷺坂 マンションのカーテンですが、高さ31mを超えるの建物（おおむね11階

建以上)は、消防法で住居部分もカーテン、じゅうたん等は防災品を使うことが義務付けられています。しかし、一昨年、東京消防庁と一緒にいったアンケートでは、実際に使用している人は34%、入居前に防災品の説明を受けたという人は約11%と大変低い数字で残念な結果でした。協会としても防災品の普及啓発にさらに力を入れていく必要があると思っています。村上さんは以前から防災品をお使いになっているということです。ありがとうございます。

ところで、越智さんがパラリンピックの選手を撮影するようになったきっかけは何かありますか？

○越智 シドニー五輪の取材へ行ったことがきっかけです。無事取材を終え、日本に帰ろうと思っていたところ、急遽ある新聞社からパラリンピックの取材依頼を受けました。初めての依頼なので、嬉しさのあまり「はい。」と即答しましたが、冷静になると、取材を始めるまで不安でした。「障害を持つ人にカメラを向けていいのか？」と思ったからです。しかし、いざ取材をしてみると競技として純粋に面白い。「人間ってこんなことができるのか。」と、人間の可能性を感じる事が出来ました。

シドニーからパラリンピックスポーツをライフワークとして取材してきて、私自身も変わることができ、世界を広げる事が出来ました。“知ることによって世界が広がる”ということを知ってもらいたいという思いが大きくなり、協力して下さる方々が増え、写真集を出版する事が出来ました。

○鷺坂 村上さんは、仕事もしながら、

強化選手として練習をされています。そのあたりはどうですか？

○村上 はい、会社にはすごく協力していただいています。「頑張ってるね。」「17:30過ぎたら練習に行っていよいよ。」と言ってもらえます。仕事が残っているときなどは練習へ行くことを躊躇してしまいましたが、上司の方も大変理解のある方です。

○鷺坂 プロフィールを拝見させていただきまして、事故をきっかけに競技を始められたようですね。

○村上 入院していた時から障害のあるアスリートが集うスポーツクラブがある事は知っていました。初めは同年代の友達を作ることが目的でしたが、困難を乗り越え、頑張っている選手たちがキラキラと輝いて見え、私も輝きたいと、練習に参加するようになりました。走っているうちにのめり込み、試合に出るようになりました。

○鷺坂 今度の大会はいつ頃ですか？

○村上 今週末です。山口県であります。

○越智 日本で一番大きなパラ陸上競技大会です。魅力的な方々を多くの人に伝えていきたいと思っています。同じ境遇のお子さんを持つご両親から、写真集を見て「将来の夢になる。」と言葉をいただき私自身の励みにもなっています。今回もポスターに採用してもらって嬉しく思っています。

○鷺坂 ポスターは、全国の駅、官公署、学校、町会の掲示板等に約15万枚配布されます。1年以上掲載している所もありますので、多くの方に見ただけだと思います。

○村上 競技場や駅で見たことがあります。今回のポスターもチェックしてみます。

○鷺坂 ポスターの写真はどこで撮られたのですか？

○越智 大分陸上競技大会の時、100mと200mの競技の間に撮りました。



○村上 写真にあるような表情はあまりしたことがなく、緊張していたかもしれません。

○越智 競技前という事でとても緊張感があったんです。その瞬間を無性に撮りたくなったのを覚えています。

○村上 競技中でないときにカメラを向けられたら、ピースとかしてしまうと思います。

○鷺坂 実際に会ってみると、ポスターの印象と違い、「小柄な方だな。」という印象を受けました。子どもの頃から運動神経が良かったのですか？

○村上 小学生ぐらいまでは、短距離でいつも1位でした。身長も大きい方で今とあまり変わらない位でした。どんどん抜かされましたけど。

○越智 こうして話していると小柄に見えるかもしれませんが、走っているときのフォームは力強く、迫力満点です。



○鷺坂 パラリンピックの競技には、どのようなものがあるのですか？

○村上 障害別に分かれています。私の障害クラスでは女子は100mと走り幅跳びがあります。パラリンピック出場のチャンスを広げるため、走り幅跳びにもチャレンジしています。競技種目は開催国が決めるようです。

○鷺坂 東京で開催されるときには、競技を考慮してほしいですね。選考基準はどのようになっていますか？

○村上 標準タイムをクリアする必要があります。日本では年3回開催される公式の試合で記録を出さないといけません。短距離の場合、追風2.1m/s以上の記録は参考記録になってしまうので、チャンスを広げるためには海外の試合にも出

場することになります。

○越智 世界では大きな陸上大会が年に9回、色々な国で試合が開催されています。

○鷺坂 ポスターの義足は競技用でしょうか？日本の方が作られているのですか？

○村上 義足を作っているのは日本の方ですが、パーツメーカーは、ドイツとアイスランドが多いです。

○越智 義足のパーツメーカーと、組立てて調整される方に分けられます。アイスランドまでパーツメーカーの取材に行ったときは、脳波を解析するところからパーツを作っていました。速く走るためのもの、山を登るためのもの等、用途によって色々なパーツがあります。

○村上 今は色々と開発されていますが、どんなに良いパーツを使ってもソケットと呼ばれる足を入れる部分が合わないと痛くて走れません。義足の中でも1番大事なソケットを作られている方の中に白井さんという方がいます。

○越智 色々な義足の方を見ていますが、白井さんの義足は別格です。白井さんの存在なしに「切断ヴィーナス」(写真集)は出せなかったと思います。白井さんはパラリンピックのメカニック担当で、2000年から面識があります。白井さんの義足には血が通っていると感じます。

○鷺坂 義足を履くのにどのくらい時間がかかるものですか？

○村上 今は1分位ですが、当初は20分位かかっていました。多少履き心地が悪い程度なら履き続けてしまいましたが、水ぶくれ等になることもあります。そうすると治すことに専念しないといけないので大変です。また、1度作ればいいというものではなく、足の太さが変わると作り直さないといけません。

○越智 義足を履くことに慣れず、車い

すで生活する方も少なくないようです。外見からだけでは義足と分からず電車の優先席に座りにくいというお話を伺ったことがあります。杖を突いていれば分かりますが、満員電車だと杖も見えません。

○鷺坂 1日義足を履いていると大変ですか？

○村上 私の場合は、お風呂に入る前ぐらいまで履いています。履いていないときは松葉杖を使います。義足を履くと「楽だ。」と思います。東日本大震災の時は、余震もあり、義足を履いたまま寝ていました。



○鷺坂 震災のときはどちらに？

○村上 日本橋の会社にいました。たくさん歩きバスを乗り継いで、何とか運行が再開した駅にたどり着きました。電車に乗ろうと思いましたが、駅のホームが混んでおり、事故のことを思い出して怖かったです。タクシーで帰宅しましたが長時間かかり、こういう時は動いてはダメだなと思いました。

今回の依頼を受けてから競技の仲間と寝ているときに火事や地震等が発生したらどうするか話しましたが、「まず義足を持って逃げる。」という点は一致していました。

○鷺坂 最後にお二人に、今後の抱負などがありましたら、お願いします。

○村上 私は駅のホームで事故に遭い、直後は悲しくて外にも出られませんでした。今は足だけで済んだと考え方を変え、毎日輝けるよう陸上競技やモデル活動を頑張っています。そうした姿をポスターや競技等を見ていただいた方に伝えていきたいと思います。今後もますます頑張っていきますので応援をよろしくお願

いします。

○越智 偶然取材できたパラリンピックで、感動や可能性を感じることができました。偶然得られるものもあれば、失うものもあるかもしれません。ただ、知っていれば失わずに済むこともあるかもしれません。今回のポスターをきっかけに、何かを感じ取ってもらい、新たな発見をしてもらえたら嬉しいです。今回のポスターが、見てくれた方のイメージを変える「力」になってもらえたらと思います。

○鷺坂 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ポスターをご覧になった方に皆様の思いが伝えられれば、と思います。

村上清加

1983年、東京生まれ。2009年4月、事故により義足生活になる。2011年4月から本格的に陸上の試合に出場するようになる。現在、陸上でもリオパラリンピック出場を目指している。

越智貴雄

1979年、大阪生まれ。大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業後、ドキュメンタリーフォトグラファーとして活動開始。2000年から国内外のパラリンピックスポーツの撮影取材に携わる。

謝辞 2014-2015防災ポスター作成にあたり、ポスター案から関係する方々への調整に至るまで御尽力いただいたZACCESS Consulting(株) 鬼頭様、本座談会開催にあたり、貴重な情報提供をしていただいた一般社団法人カンパプレス 河本様をはじめ、関係者の皆様には多大なるご協力をいただきました。

ここに関係者の皆様への感謝の意を表します。

平成26年度

防災加工専門技術者講習修了証の交付（東京会場）

（公財）日本防災協会 管理部

平成26年度防災加工専門技術者講習実施の結果、次表の方に講習修了証を交付しました。

氏名	都道府県名	氏名	都道府県名
川村 拓也	千葉県	善本 亜樹	兵庫県
中川 光輝	神奈川県	藤長 義仁	東京都
中屋 隆貴	千葉県	中山 陽介	群馬県
田形 弘一	埼玉県	萩坂 昇	静岡県
上村 佑太	岐阜県	藤田 泰弘	東京都
山中 直	茨城県	高橋 征次	東京都
野口 茂夫	埼玉県	片桐 克利	千葉県
永野 仁輝	宮城県	大坪 弘明	愛知県
田口 友彦	東京都	田島加奈恵	東京都
中嶋 敏彦	埼玉県	岩城 宏之	埼玉県
河田 幸助	茨城県	福田 秀之	神奈川県
堤 孝行	京都府	加藤 文健	茨城県
横坂 亮典	東京都	今野 頼和	埼玉県
原 茂	長野県	大木 真介	大阪府
南澤 邦洋	奈良県	松井 紀子	富山県
関 芳文	茨城県	櫻井 晃	宮城県
坂田 秀輝	広島県	翁沢 俊飛	千葉県
今井 勇六	栃木県	信平 貴大	埼玉県
小林 清士	東京都	葛綿 紘	新潟県
齋藤 匡	埼玉県	後藤 清子	宮城県
渡慶次道廣	神奈川県	中村 諭史	埼玉県
祖父江真一	静岡県	恩田 浩彰	埼玉県
勝手 孝英	長崎県		

## 抜取・試買試験の見直しについて

(公財)日本防災協会 管理部

消防庁より「防災品（カーテン）の不適正品の回収について」（2月5日付）が公表され、その中で触れられた「防災品の性能確保に向けた対応」の課題について、7月18日に「防災カーテンの性能確保等」（別添1）として公表されました。

協会は、消防庁指導に沿って、協会が行う品質管理試験（消防庁公表ではカーテンとなっておりますが、品質管理試験については全物品が対象となります）について「防災カーテンの性能確保等の方策について」（別添2）中の「協会対応②」（※別添1・2の網かけ）を実施するため、「防災物品に係る不適合等に対する措置に関する規程」を改訂致しました。（平成26年8月5日改定HP公表、10月1日施行。）

今後は、全物品を対象として、当該規程により抜取・試買試験を実施致しますので、以下の改訂のポイントをご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 「防災物品に係る不適合等に対する措置に関する規程」改訂のポイント

#### 1. 改訂の経緯

- ① 消防庁より「防災品（カーテン）の不適正品の回収について」（2月5日付）が公表され、その中で触れられた「防災品の性能確保に向けた対応」の課題について、7月18日に「防災カーテンの性能確保等」が公表された。
- ② 消防庁指導に沿って、協会では「防災カーテンの性能確保等の方策について」を策定し、協会の対応項目②の実施にあたり、「防災物品に係る不適合等に対する措置に関する規程」を改訂した。（平成26年8月5日改訂 10月1日施行。HPにて公表）

#### 2. 改訂内容のポイント

- ① 新たに、第3条で出荷前抜取試験について規定
  - ・ 出荷前の試験であるので、事業者は結果が出るまでは出荷保留
  - ・ 不適合であった当該品に対してはラベルを交付しない（実質的に出荷不可となる）
  - ・ 不適合区分がランクⅢの場合は当該試験番号を抹消する
- ② 従来の抜取・試買試験については、第4条で試買・出荷後抜取試験として改訂
  - ・ 初回試験が不適合の場合は同一試料にて追加試験を実施する
  - ・ 初回試験、追加試験、是正品試験のいずれかでも不適合区分がランクⅢの場合は当該試験番号を抹消する
  - ・ 初回試験と追加試験で連続して不適合区分がランクⅢの場合は、当該試験番号の抹消に加えて、事業者は当該不適合品の当該試験番号を公表し、流通中の不適合品を回収する

## 防災物品に係る不適合等に対する措置に関する規程

制定 平成22年8月18日

改定 平成26年8月5日

(目的)

第1条 この規程は、「防災性能確認業務規程」(以下「確認業務規程」という。)第13条第1項の規定に基づく抜取・試買、同規程第14条第1項の規定に基づく調査、「防災ラベル等取扱い及び品質管理に関する規程」(以下「品質管理規程」という。)第5条第2項の規定に基づく調査、同規程第6条第2項及び第3項の規定に基づく調査のそれぞれの結果並びにこれらの結果に応じ公益財団法人日本防災協会(以下「協会」という。)が指示した改善等の処置の実施状況に基づき、防災物品等に防災ラベル等を付した者等に対して適用する措置について定めることを目的とする。

(不適合区分)

第2条 防災物品の防災性能の不適合については、不適合の程度に応じ、別表に定めたとおり区分する。

(試験番号登録後の生産・輸入品の出荷前の抜取により判明した不適合事業者に対する措置)

第3条 協会は、確認業務規程第8条の規定に基づき試験番号を付与・登録した防災物品について、出荷前の製造、防災処理又は輸入につき、確認業務規程第13条の規定に基づく抜取により消防法施行規則(昭和36年自治省令第6号)第4条の3第3項に定める数値を満たさないことが判明した防災物品に係る不適合事業者(裁断・施工・縫製業者が材料として用いた防災物品の防災性能に問題があると認められる場合にあつては、当該材料の供給事業者を含む。以下同じ。)に対し、その旨を通知し、期限を限って原因の究明、製造・処理方法の改善等の是正、予防対策等の処置を講じるよう指示するとともに、当該処置の実施計画書を提出させるものとする。

- 2 協会は、前項の不適合事業者に対し、協会における性能試験において適合の確認を行うまで、当該不適合となった防災物品の防災ラベルの交付を行わないものとする。
- 3 協会は、前項に定める措置のほか、第1項の不適合事業者に対し、前条の不適合区分に応じて、次に定めるそれぞれの措置を実施するものとする。
  - (1) 「ランクⅠ」及び「ランクⅡ」 是正処置報告書を提出させるとともに、協会においては是正処置品の防災性能試験を実施。その結果に応じた次の措置
    - イ 「適合」 不適合に対する是正処置等の後3箇月間、当該試験番号品の製造、防災処理又は輸入の都度、防災性能試験を実施し、その試験実施結果を協会に提出させること。
    - ロ 「ランクⅠ」及び「ランクⅡ」 再度の是正処置後の(1)に準ずる措置
    - ハ 「ランクⅢ」 当該試験番号の抹消
  - (2) 「ランクⅢ」 当該試験番号の抹消

(試験番号登録後の生産・輸入品の出荷後の抜取・試買により判明した不適合事業者に対する措置)

第4条 協会は、確認業務規程第13条の規定に基づく抜取(前条による抜取を除く)・試買により消防法施行規則(昭和36年自治省令第6号)第4条の3第3項に定める数値を満たさないことが判明した防災物品(第2条の不適合区分「ランクⅠ」の場合で、当該品の追加試験で適合となったものを除く)に係る不適合事業者に対し、その旨を通知し、期限を限って原因の究明、製造・処理方法の改善、製品の回収等の是正、予防対策等の処置を講じるよう指示するとともに、当該処置の実施計画書を提出させるものとする。

- 2 協会は、前項の不適合事業者に対し、指示を行った事項に対する処置が実施されるまでの間、当該不適合となった防災物品に関する防災ラベルの交付を行わないものとする。
- 3 協会は、前項に定める措置のほか、第1項の不適合事業者に対し、第2条の不適合区分に応じて、次に定めるそれぞれの措置を実施するものとする。
  - (1) 「ランクⅠ」(当該品の追加試験で「ランクⅠであるもの」) 不適合に対する是正処置等の後3箇月間、当該試験番号品の製造、防災処理又は輸入の都度、防災性能試験を実施し、その試験実施結果を協会に提出させること。
  - (2) 「ランクⅠ」(当該品の追加試験で「ランクⅡ」であるもの) 是正処置後最初の当該試験番号品の製造、防災処理又は輸入の際に協会が行う抜取品についての防災性能試験結果

に応じた次の措置

イ 「適合」 (1) に準ずる措置

ロ 「ランクⅠ」 再度の是正処置後の (1) に準ずる措置

ハ 「ランクⅡ」 当該試験番号品の防災ラベル交付の3箇月間停止 (再度の是正処置後、改めて協会が行った抜取品についての防災性能試験の結果が適合となった場合には、3箇月を経過する前に当該防災ラベル交付の停止を解除することができることとし、この場合には、(1) に準ずる措置を実施するものとする。)

ニ 「ランクⅢ」 当該試験番号の抹消

(3) 「ランクⅠ」 (当該品の追加試験で「ランクⅢ」であるもの) 当該試験番号の抹消

(4) 「ランクⅡ」 (当該品の追加試験で「適合」であるもの) (1) に準ずる措置

(5) 「ランクⅡ」 (当該品の追加試験で「ランクⅠ」「ランクⅡ」であるもの) 是正処置後最初の当該試験番号品の製造、防災処理又は輸入の際に協会が行う抜取品についての防災性能試験結果に応じた次の措置

イ 「適合」 (1) に準ずる措置

ロ 「ランクⅠ」 再度の是正処置後の (1) に準ずる措置

ハ 「ランクⅡ」 (2) ハに準ずる措置

ニ 「ランクⅢ」 当該試験番号の抹消

(6) 「ランクⅡ」 (当該品の追加試験で「ランクⅢ」であるもの) 当該試験番号の抹消

(7) 「ランクⅢ」 当該試験番号の抹消

4 協会は、抜取 (第3条の抜取を含む)・試買による不適合が繰り返し把握される事業者に対し、品質管理体制の見直しとその徹底に関して必要な指示を行うことができるものとする。

(調査により判明した管理不適合事業者に対する措置)

第5条 協会は、防災物品等に関する確認業務規程第14条第1項、品質管理規程第5条第2項、同規程第6条第2項及び第3項の規定に基づく調査の結果、必要な管理等が行われていないと認める不適合事業者に対し、その旨を通知し、期限を限って管理体制の是正等の処置を講じるよう指示するものとする。

2 協会は、前項の不適合事業者が期限を過ぎても是正等の処置を講じない場合には、是正等の処置が講じられたと認められるまでの間、当該不適合事業者に対する防災ラベル等の交付を行わないものとする。

(確認の取消し)

第6条 第3条第3項、第4条第3項及び前条第2項の規定にかかわらず、協会が指示した是正期限経過後相当期間にわたって第3条第1項、第4条第1項及び前条第1項の規定に基づく是正等の処置が講じられない場合には、協会は、当該不適合事項に係る確認の取消しを行うことができるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、協会は、不適合が繰り返し把握される等不適合事業者の品質管理の状況が極めて不適正であると認める場合には、当該不適合事業者の確認の取消しを行うことができるものとする。

3 協会は、前2項の規定による確認の取消しを行った場合には、その旨を消防庁長官に報告するものとする。

(不適合事業者等の公表)

第7条 協会は、第4条第3項 (7) の規定に基づく試験番号を抹消する場合において、追加試験でランクⅢであった場合には、当該不適合事業者の名称、防災物品の名称等について公表するとともに出荷後の製品の回収を指示するものとする。

2 前条第1項及び第2項の規定に基づく確認の取消しを行った場合には、当該不適合事業者の名称、防災物品の名称等について公表するものとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年10月1日から施行する。

別表

不適合区分 (記号)	防災物品区分	残炎時間	残じん時間	炭化面積	炭化長	接炎回数
ランクⅠ (△)		不適合となった試験体の測定数値が、	不適合となった試験体の測定数値が、	不適合となった試験体の測定数値が、	不適合となった試験体の数が1で、	
	合板	10秒を超え15秒以下(ただしランクⅢに該当しない)	30秒を超え45秒以下(ただしランクⅢに該当しない)	50cmを超え75cm以下(ただしランクⅢに該当しない)		
	じゅうたん	20秒を超え30秒以下(ただし炭化部が支持枠には至らない)			炭化部が支持枠には至らない	
	カーテン 布製ブラインド 幕 工事用シート	3秒(5秒)を超え5秒(8秒)以下(ただしランクⅢには該当しない)	5秒(20秒)を超え8秒(30)以下(ただしランクⅢには該当しない)	30cm <sup>2</sup> (40cm <sup>2</sup> )を超え45cm <sup>2</sup> (60cm <sup>2</sup> )以下(ただしランクⅢには該当しない)	炭化部が支持枠には至らない	2回のも のが2以 下
ランクⅡ (×)		不適合となった試験体のうち、少なくとも1の測定数値が、	不適合となった試験体のうち、少なくとも1の測定数値が、	不適合となった試験体のうち、少なくとも1の測定数値が、	不適合となった試験体の数が2で、	
	合板	15秒超(ただしランクⅢには該当しない)	45秒超(ただしランクⅢには該当しない)	75cm <sup>2</sup> 超(ただしランクⅢには該当しない)		
	じゅうたん	30秒超(ただし炭化部が支持枠には至らない)			炭化部が支持枠には至らない	
	カーテン 布製ブラインド 幕 工事用シート	5秒(8秒)超(ただしランクⅢには該当しない)	8秒(30秒)超(ただしランクⅢには該当しない)	45cm <sup>2</sup> (60cm <sup>2</sup> )超(ただしランクⅢには該当しない)	炭化部が支持枠には至らない	2回のも のが3又 は1回 のも のが1
ランクⅢ (XX)	合板 じゅうたん カーテン 布製ブラインド 幕 工事用シート	(不適合となった試験体のうち、少なくとも1について炭化部が支持枠に至り、その炭化面積が30cm <sup>2</sup> (40cm <sup>2</sup> )を超えるもの。ただし合板は50cm <sup>2</sup> を超えるもの)	(不適合となった試験体のうち、少なくとも1について炭化部が支持枠に至り、その炭化面積が30cm <sup>2</sup> (40cm <sup>2</sup> )を超えるもの。ただし合板は50cm <sup>2</sup> を超えるもの)	(不適合となった試験体のうち、少なくとも1について炭化部が支持枠に至り、その炭化面積が30cm <sup>2</sup> (40cm <sup>2</sup> )を超えるもの。ただし合板は50cm <sup>2</sup> を超えるもの)	不適合となった試験体の数が3以上で炭化長が20cmを超えるが支持枠に至らない又は1でも炭化部が支持枠に至りその炭化長が20cmを超えるもの	2回のも のが4以 上又は1 回のも のが2以 上

※ ( ) 内の数値にあっては、厚手布の場合

注：接炎回数について、2回のもものと1回のもものが合わせて4回以上のときはランクⅢとする。

平成26年 7月18日  
消 防 庁

## 防災カーテンの性能確保等

自主回収の対象となる防災カーテンの原反が7品あった（本年2月5日に公表）ことを踏まえ、防災カーテンの性能確保の方策について取りまとめましたので公表します。

### 1 経緯

- 流通段階の防災品において、出荷時に求められる防災性能基準を満たしていないものが発生していることが、防災品の普及に関する報告書（（公財）日本防災協会（以下「協会」という。）作成）から判明
- 平成25年12月、消防庁は、出荷時に求められる防災性能基準を満たしていない防災カーテン等を精査し、防災性能があることが確認出来なかったものについては、製造事業者等に公表及び自主回収を指示するよう協会に指示
- 平成26年2月3日に協会からの報告を受け、自主回収対象となる防災カーテンの事業者名、製品名等を2月5日に公表
- 平成26年1月～7月、消防庁及び協会等で性能確保の方策を検討

### 2 防災カーテンの性能確保の方策

- 防災性能の確認試験を行う製品について、その素材ごとに使用する薬液の濃度、浸漬時間等の防災性能に影響を与える項目についての詳細な仕様を届け出させ、その詳細な仕様ごとに確認試験を行うよう運用を改善 【平成26年1月15日 対応済み】
- 全ての仕様について実施される確認試験に加え、出荷量の多い防災カーテンについては、市場に流通する前の段階で協会が品質管理試験を実施するように改善 【平成26年10月1日から実施】
- 製造・防災加工処理業者が出荷前に行う自社試験の実施頻度を増やすように指導 【平成26年9月末までに対応】
- 原反の製造者等が判別できるよう、消防法で規定されている防災ラベルに加え、通し番号を印字したラベル（補助ラベル）を付すという、トレーサビリティの仕組みを創設（別紙参照） 【平成27年度から実施】

## 「防災カーテンの性能確保等」の方策について

消防庁が公表した 性能確保の方策要約	協会の対応	
○製品の詳細な仕様を 届出る仕組み	①試料明細書（試験番号登録 時）の改善	試験番号取得・登録時の試験試料明細に記載する防災加工条件（薬剤濃度、浸漬条件等）について、より詳細に記載を求め、登録時の当該加工条件が継続的に変わらないことの担保とする。 なお、過去登録された試験番号については、試験番号更新時に対応する。 （平成26年1月15日に書式改定し対応済）
○協会による流通前の 品質管理試験の実施	②抜取・試買試験の見直し	関連規程を改訂し、製造事業者等に対し出荷前に防災カーテン材料の「抜取試験」を実施し、不適合であった場合に当該品を市場に流通させないよう求める。また、今まで実施してきた試買については、防災性能が著しく劣り自己消火性が疑われる不適合品については公表し自主回収を指示する。 （改定規程平成26年10月1日施行）
○流通前の自社試験の 実施頻度を増やすよう 指導	③自社性能試験の頻度増を 指導	製造事業者等に品質管理のための自社性能試験の頻度を高めるよう指導する。
○補助ラベルを付すとい うトレーサビリ ティの仕組みを創設	④カーテン「縫製品」と使用 された「防災原反」とのト レーサビリティを確保する 仕組み創設	縫製業者等がカーテンに防災ラベルを縫付ける際に、防災材料ラベルに添付してある「照会番号記載の補助ラベル」を一緒に縫い付けることで、カーテン使用者等が当該番号を協会に照会して、防災材料製造者、試験番号、ロット番号等が確認できるというトレーサビリティ（追跡可能性、跡をたどることができること）を確保する。 （平成27年度から実施）

# 平成25年（1月～12月）における 火災の状況（確定値）

消防庁

平成25年（1月～12月）における全国の火災の状況が確定値としてまとめ、消防庁より発表されましたので、下記に紹介します。（※比較値については、前年同期の確定値と比較しています。端数処理の関係上、表中の計算が合わない場合があります。）

## 1 全国の概況

### (1) 火災件数

平成25年（1月～12月）における出火件数は、48,095件で、これは、おおよそ1日あたり132件、11分に1件の火災が発生したことになります。

これを火災種別で見ますと、次表のとおりです。

種別	件数	構成比 (%)	前年同期比	増減率 (%)
建物火災	25,053	52.1%	▲ 530	-2.1%
車両火災	4,586	9.5%	37	0.8%
林野火災	2,020	4.2%	842	71.5%
船舶火災	91	0.2%	4	4.6%
航空機火災	3	0.0%	2	200.0%
その他火災	16,342	34.0%	3,551	27.8%
総火災件数	48,095	100%	3,906	8.8%

### (2) 死傷者数

平成25年（1月～12月）における死傷者数は、次表のとおりです。

人数	前年同期比	増減率 (%)	1日あたり	発生割合
死者数	1,625	▲ 96	4.5人	火災29.6件に1人
負傷者数	6,858	32	18.8人	火災7.0件に1人

### (3) 火災による損害

平成25年（1月～12月）における火災損害は、907億8,239万円でその損害状況等は、次表のとおりです。

		前年同期比	増減率 (%)	1日あたり	1件あたり
焼損棟数	35,031	▲ 396	-1.1%	96棟	1.4棟
り災世帯数	21,369	▲ 1,053	-4.7%	59世帯	0.9世帯
建物焼損床面積 (㎡)	1,183,724	45,546	4.0%	3,243㎡	47.2㎡
建物焼損表面積 (㎡)	120,615	2,016	1.7%	330㎡	4.8㎡
林野焼損面積 (a)	97,079	59,892	161.1%	266a	48.1a
損害額 (万円)	9,078,239	108,377	1.2%	24,872万円	189万円

## 2 建物用途別の火災発生状況

建物火災25,053件を建物用途別にみますと、次表のとおりです。

用途別	件数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
住宅火災	13,621	54.4%	▲ 529	-3.7%
一般住宅	8,892	35.5%	▲ 359	-3.9%
共同住宅	4,103	16.4%	▲ 210	-4.9%
併用住宅	626	2.5%	40	6.8%
特定複合用途	2,160	8.6%	▲ 34	-1.5%
工場・作業場	1,750	7.0%	▲ 30	-1.7%
非特定複合用途	898	3.6%	▲ 76	-7.8%
事務所等	814	3.2%	▲ 9	-1.1%
飲食店	588	2.3%	35	6.3%
倉庫	558	2.2%	▲ 7	-1.2%
物品販売店舗等	374	1.5%	31	9.0%
学校	224	0.9%	▲ 10	-4.3%
旅館・ホテル等	165	0.7%	32	24.1%
神社・寺院等	120	0.5%	14	13.2%
病院等	102	0.4%	0	0.0%
社会福祉施設等	67	0.3%	0	0.0%
遊技場等	55	0.2%	▲ 7	-11.3%
グループホーム等	49	0.2%	▲ 1	-2.0%
駐車場等	48	0.2%	▲ 16	-25.0%
停車場等	45	0.2%	▲ 9	-16.7%
公会堂等	43	0.2%	▲ 8	-15.7%
料理店等	20	0.1%	5	33.3%
幼稚園等	13	0.1%	▲ 3	-18.8%
公衆浴場	13	0.1%	1	8.3%
カラオケボックス等	12	0.0%	6	100.0%
その他の用途の建物火災	3,314	13.2%	85	2.6%
計	25,053	100%	▲ 530	-2.1%

## 3 出火原因別の火災発生状況

### (1) 全火災

全火災48,095件を出火原因別にみますと、次表のとおりです。

原因別	件数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
放火	5,093	10.6%	▲ 277	-5.2%
たばこ	4,454	9.3%	242	5.7%
たき火	3,739	7.8%	1,309	53.9%
こんろ	3,717	7.7%	▲ 242	-6.1%
放火の疑い	3,693	7.7%	473	14.7%
火入れ	2,095	4.4%	991	89.8%
ストーブ	1,455	3.0%	▲ 89	-5.8%
電灯電話等の配線	1,301	2.7%	▲ 91	-6.5%
配線器具	1,219	2.5%	▲ 78	-6.0%
火あそび	1,185	2.5%	▲ 21	-1.7%
電気機器	994	2.1%	72	7.8%
マッチ・ライター	811	1.7%	62	8.3%
排気管	740	1.5%	49	7.1%
電気装置	653	1.4%	70	12.0%

灯火	521	1.1%	15	3.0%
焼却炉	483	1.0%	126	35.3%
溶接機・切断機	448	0.9%	▲ 6	-1.3%
取灰	276	0.6%	▲ 4	-1.4%
風呂かまど	273	0.6%	15	5.8%
煙突・煙道	243	0.5%	11	4.7%
衝突の火花	165	0.3%	18	12.2%
内燃機関	148	0.3%	▲ 7	-4.5%
炉	126	0.3%	▲ 5	-3.8%
ボイラー	82	0.2%	▲ 8	-8.9%
かまど	81	0.2%	▲ 10	-11.0%
こたつ	56	0.1%	▲ 11	-16.4%
その他	8,001	16.6%	616	8.3%
不明・調査中	6,043	12.6%	686	12.8%
計	48,095	100%	3,906	8.8%

## (2) 建物火災

建物火災25,053件を出火原因別にみますと、次表のとおりです。

原因別	建物火災		うち住宅火災	
	件数	構成比	件数	構成比
こんろ	3,656	14.6%	2,528	18.6%
たばこ	2,500	10.0%	1,706	12.5%
放火	2,245	9.0%	1,119	8.2%
ストーブ	1,435	5.7%	1,137	8.3%
放火の疑い	1,321	5.3%	616	4.5%
配線器具	1,066	4.3%	559	4.1%
電灯電話等の配線	940	3.8%	487	3.6%
電気機器	766	3.1%	324	2.4%
たき火	500	2.0%	150	1.1%
灯火	498	2.0%	411	3.0%
電気装置	432	1.7%	61	0.4%
火あそび	366	1.5%	202	1.5%
マッチ・ライター	351	1.4%	228	1.7%
風呂かまど	267	1.1%	232	1.7%
溶接機・切断機	260	1.0%	25	0.2%
煙突・煙道	228	0.9%	136	1.0%
火入れ	197	0.8%	55	0.4%
焼却炉	187	0.7%	42	0.3%
取灰	183	0.7%	84	0.6%
炉	108	0.4%	3	0.0%
ボイラー	73	0.3%	51	0.4%
かまど	68	0.3%	26	0.2%
こたつ	56	0.2%	52	0.4%
排気管	40	0.2%	7	0.1%
内燃機関	15	0.1%	3	0.0%
衝突の火花	2	0.0%	1	0.0%
その他	3,873	15.5%	1,458	10.7%
不明・調査中	3,420	13.7%	1,918	14.1%
計	25,053	100%	13,621	100%

(3)～(6)は省略

(7) その他火災

その他火災16,342件を出火原因別にみますと、次表のとおりです。

原因別	件数	構成比
たき火	2,626	16.1%
放火	2,429	14.9%
放火の疑い	1,960	12.0%
たばこ	1,642	10.0%
火入れ	1,526	9.3%
火あそび	756	4.6%
電灯電話等の配線	326	2.0%
マッチ・ライター	276	1.7%
焼却炉	247	1.5%
溶接機・切断機	156	1.0%
電気装置	87	0.5%
配線器具	82	0.5%
取灰	71	0.4%
電気機器	70	0.4%
こんろ	30	0.2%
排気管	28	0.2%
灯火	20	0.1%
ストーブ	18	0.1%
炉	13	0.1%
煙突・煙道	11	0.1%
内燃機関	10	0.1%
かまど	9	0.1%
ボイラー	8	0.0%
衝突の火花	7	0.0%
風呂かまど	5	0.0%
その他	2,342	14.3%
不明・調査中	1,587	9.7%
	16,342	100%

4 負傷者の発生状況

(1) 火災種別の負傷者発生状況

全負傷者6,858人を火災種別でみますと、次表のとおりです。

種別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
建物火災	5,717	83.4%	▲ 178	-3.0%
車両火災	261	3.8%	25	10.6%
林野火災	137	2.0%	79	136.2%
船舶火災	16	0.2%	▲ 10	-38.5%
航空機火災	0	0.0%	0	0.0%
その他火災	727	10.6%	116	19.0%
計	6,858	100%	32	0.5%

(2) 建物用途別の負傷者発生状況

建物火災における負傷者5,717人を建物用途別にみますと、以下のとおりです。

用途別	負傷者	構成比
一般住宅	2,700	47.2%
共同住宅	1,143	20.0%
特定複合用途	404	7.1%
工場・作業場	314	5.5%
非特定複合用途	243	4.3%
併用住宅	156	2.7%
飲食店	101	1.8%
事務所等	60	1.0%
倉庫	56	1.0%
旅館・ホテル等	32	0.6%
物品販売店舗等	25	0.4%
社会福祉施設等	25	0.4%
学校	23	0.4%
神社・寺院等	18	0.3%
病院等	17	0.3%
その他の用途の建物火災	400	7.0%
計	5,717	100%

5 死者の発生状況

(1) 火災種別の死者発生状況

死者1,625人を火災種別でみますと、次表のとおりです。

種別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
建物火災	1,254	77.2%	▲ 70	-5.3%
車両火災	109	6.7%	▲ 20	-15.5%
林野火災	20	1.2%	11	122.2%
船舶火災	6	0.4%	2	50.0%
航空機火災	0	0.0%	0	0.0%
その他火災	236	14.5%	▲ 19	-7.5%
計	1,625	100%	▲ 96	-5.6%

(2) 経過別の死者発生状況

死者1,625人を経過別にみますと、次表のとおりです。

経過別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
放火自殺 (心中を含む)	337	20.7%	▲ 50	-12.9%
放火自殺巻添え	10	0.6%	▲ 1	-9.1%
放火自殺等を除く	1,278	78.6%	▲ 45	-3.4%
逃げ遅れ	670	41.2%	▲ 43	-6.0%
着衣着火	121	7.4%	▲ 3	-2.4%
出火後再進入	23	1.4%	3	15.0%
その他	464	28.6%	▲ 2	-0.4%
計	1,625	100%	▲ 96	-5.6%

(3) 年齢層別の死者発生状況

死者1,278人を年齢別にみますと、次表のとおりです。(放火自殺者等を除く。)

年齢別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
5歳以下	5	0.4%	▲ 7	-58.3%
6歳～64歳以下	392	30.7%	▲ 78	-16.6%
65歳以上	877	68.6%	43	5.2%
年齢不明	4	0.3%	▲ 3	-42.9%
計	1,278	100%	▲ 45	-3.4%

(4) 死者の発生した火災における火元出火原因別死者の発生状況

火元出火原因	死者の発生した火災件数	死者	
		人数	構成比
放火	301	311	19.1%
たばこ	153	160	9.8%
ストーブ	106	117	7.2%
放火の疑い	69	77	4.7%
こんろ	47	51	3.1%
電灯電話等の配線	38	41	2.5%
灯火	34	37	2.3%
配線器具	31	34	2.1%
たき火	31	31	1.9%
火入れ	29	29	1.8%
マッチ・ライター	25	25	1.5%
こたつ	10	11	0.7%
電気機器	10	11	0.7%
衝突の火花	10	11	0.7%
風呂かまど	6	7	0.4%
排気管	4	4	0.2%
取灰	4	4	0.2%
ボイラー	2	2	0.1%
電気装置	2	2	0.1%
火あそび	2	2	0.1%
炉	1	1	0.1%
焼却炉	1	1	0.1%
その他	65	83	5.1%
不明・調査中	509	573	35.3%
計	1,490	1,625	100%

(5) 火災種別・建物用途別における死者の発生人数別火災件数

火災種別 (建物用途)		死者の発生した火災件数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	死者数	構成比
建物計		1,132	1,030	92	6	3			1	1,254	77.2%
建物火災	住宅		996	903	85	6	2			1,100	67.7%
		一般住宅	800	717	75	6	2			892	54.9%
		併用住宅	21	18	3					25	1.5%
		共同住宅	175	168	7					183	11.3%
劇場等										0	0.0%

建 物 火 災	公会堂等								0	0.0%
	キャバレー等								0	0.0%
	遊技場等								0	0.0%
	性風俗施設								0	0.0%
	カラオケボックス等								0	0.0%
	料理店等								0	0.0%
	飲食店								0	0.0%
	物品販売店舗等	4	4						4	0.2%
	旅館・ホテル等	4	4						4	0.2%
	病院等	1						1	10	0.6%
	グループホーム等								0	0.0%
	社会福祉施設等								0	0.0%
	幼稚園等								0	0.0%
	学校								0	0.0%
	図書館等								0	0.0%
	特殊浴場								0	0.0%
	公衆浴場								0	0.0%
	停車場等								0	0.0%
	神社・寺院等	4	4						4	0.2%
	工場・作業場	13	9	4					16	1.0%
	スタジオ								0	0.0%
	駐車場等								0	0.0%
	航空機格納庫								0	0.0%
	倉庫	1	1						1	0.1%
	事務所等	1	1						1	0.1%
	特定複合用途	22	21			1			25	1.5%
	非特定複合用途	31	29	2					33	2.0%
	地下街								0	0.0%
	準地下街								0	0.0%
	文化財								0	0.0%
その他	55	54	1					56	3.4%	
林野火災	20	20						20	1.2%	
車両火災	103	97	6					109	6.7%	
船舶火災	1						1	6	0.4%	
航空機火災								0	0.0%	
その他火災	234	233		1				236	14.5%	
計	1,490	1,380	98	7	3	0	1	1,625	100%	

(6) 建物火災における死者の発生状況

ア 建物火災における経過別死者の発生状況

経過別	人 数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
放火自殺 (心中を含む)	115	9.2%	▲ 34	-22.8%
放火自殺巻添え	6	0.5%	▲ 1	-14.3%
放火自殺等を除く	1,133	90.4%	▲ 35	-3.0%
逃げ遅れ	641	51.1%	▲ 19	-2.9%
着衣着火	67	5.3%	▲ 4	-5.6%
出火後再進入	23	1.8%	3	15.0%
その他	402	32.1%	▲ 15	-3.6%
計	1,254	100%	▲ 70	-5.3%

イ 建物火災における年齢別死者の発生状況（放火自殺等を除く。）

年齢別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
5歳以下	5	0.4%	▲ 7	-58.3%
6歳～64歳以下	338	29.8%	▲ 64	-15.9%
65歳以上	786	69.4%	35	4.7%
年齢不明	4	0.4%	1	33.3%
計	1,133	100%	▲ 35	-3.0%

ウ 死者の発生した建物火災における火元出火原因別死者の発生状況

火元出火原因	死者の発生した火災件数	死者	
		人数	構成比
たばこ	152	159	12.7%
ストーブ	106	117	9.3%
放火	103	108	8.6%
こんろ	46	50	4.0%
放火の疑い	45	53	4.2%
電灯電話等の配線	37	40	3.2%
灯火	34	37	3.0%
配線器具	30	33	2.6%
マッチ・ライター	18	18	1.4%
こたつ	10	11	0.9%
電気機器	10	11	0.9%
風呂かまど	6	7	0.6%
取灰	4	4	0.3%
ボイラー	2	2	0.2%
電気装置	2	2	0.2%
火あそび	2	2	0.2%
たき火	2	2	0.2%
炉	1	1	0.1%
火入れ	1	1	0.1%
その他	49	65	5.2%
不明・調査中	472	531	42.3%
計	1,132	1,254	100%

(7) 住宅火災における死者の発生状況

ア 住宅火災における経過別死者の発生状況

経過別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
放火自殺（心中を含む）	98	8.9%	▲ 25	-20.3%
放火自殺巻添え	5	0.5%	▲ 1	-16.7%
放火自殺等を除く	997	90.6%	▲ 19	-1.9%
逃げ遅れ	562	51.1%	▲ 11	-1.9%
着衣着火	55	5.0%	▲ 10	-15.4%
出火後再進入	19	1.7%	0	0.0%
その他	361	32.8%	2	0.6%
計	1,100	100%	▲ 45	-3.9%

イ 住宅火災における年齢別死者の発生状況（放火自殺等を除く。）

年齢別	人数	構成比	前年同期比	増減率 (%)
5歳以下	4	0.4%	▲ 6	-60.0%
6歳～64歳以下	287	28.8%	▲ 40	-12.2%
65歳以上	703	70.5%	26	3.8%
年齢不明	3	0.3%	1	50.0%
計	997	100%	▲ 19	-1.9%

ウ 死者の発生した住宅火災における火元出火原因別死者の発生状況

火元出火原因	死者の発生した 火災件数	死者	
		人数	構成比
たばこ	134	141	12.8%
ストーブ	93	103	9.4%
放火	89	94	8.5%
こんろ	39	43	3.9%
放火の疑い	37	44	4.0%
電灯電話等の配線	34	37	3.4%
灯火	32	35	3.2%
配線器具	28	31	2.8%
マッチ・ライター	17	17	1.5%
こたつ	9	10	0.9%
電気機器	8	9	0.8%
風呂かまど	6	7	0.6%
取灰	4	4	0.4%
ボイラー	2	2	0.2%
火あそび	2	2	0.2%
たき火	1	1	0.1%
火入れ	1	1	0.1%
その他	38	42	3.8%
不明・調査中	422	477	43.4%
計	996	1,100	100%

6 放火火災の発生状況 以下（略）

# 100号からの歩み No.100～No.199の内容概略

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
100	平成元.11.30	<p>特集・創刊100号発行によせて 遂に店頭に登場した防災繊維商品 防災商品店頭めぐり</p> <p>ISOと防災 消防隊用防護服及び熱と炎に対する防護服のISO会議に出席して ヨーロッパの消防機関及び試験研究機関等の訪問 横浜国際コンベンション・レポート 広範囲な住宅部品の試験&lt;筑波建築試験センター見学記&gt; イタリアの防災・防火規制 「1989年災害弱者・国際防災シンポジウム神戸大会」レポート クリーニングの知識 山梨・徳島・東京で開かれた法令講習会 スウェーデン豪華客船の火災 〈防災に関する用語の知識・6〉 プラットホーム上屋、側地類 「適マーク」の点検項目別不備率 横浜防災システム展'89へ防災コーナー 北九州市防災センターに防災コーナーを設置 東洋紡績健康保険組合「六甲荘」の特別表彰</p>	<p>生活用品研究所・機能繊維商品市場育成実行本部 東京消防庁主幹装備部管理課長 坂本 英胤 〃 横浜市消防局指導課長 小川 光庸 クリーニング総合研究所長 磯波 宏明</p>
101	平成2.2.28	<p>ナイス!アプローチショットを目標して&lt;1990年新年親睦会&gt; 中国駆け足見聞記 北京における「防災に関する国際シンポジウム」に参加して 旅館・ホテル等の夜間体制マニュアルに基づく検証結果について 第8回 ISO/TC94/SC13/WG4会議報告 〈防災に関する用語の知識・7〉 防災防火対象物・複合用途防火対象物 信念ひと筋に活動した一年&lt;防災繊維商品の本格普及を肌で実感&gt; 平成元年度防災加工専門技術者講習会合格者発表 JAPAN TEX'90 着火物別・出火原因別の死者発生状況(昭和63年中)</p>	<p>堀内 三郎 東京都済生会中央病院 中山 秀夫 東京消防庁指導課長 小林 恭一 消防研究所 斎藤 直 生活用品研究所・機能繊維商品市場育成実行本部</p>
102	平成2.5.28	<p>「森南海子の雑貨屋さんー私はおしゃれなお年寄り」を訪ねて 私のイギリス・レポート&lt;連載・1&gt; 防災工事用シートによる火災の防止奏効事例 全国を一巡した「裁断・施工・縫製業者に対する法令講習会」の結果報告</p>	<p>日本女子大学被服学科教授 中西 茂子 福岡市消防局中央消防署</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>世界都市東京の安全をめざして&lt;第17回消防科学の一般公開見学記&gt;</p> <p>京都市における防災製品の普及に対する取組みについて 委託調査研究の結果概要</p> <p>消費者セミナー「防災衣料を考える」</p> <p>東京・高知で開かれた法令講習会</p> <p>防災加工専門技術者講習会開催のお知らせ</p> <p>ホテル火災における防災じゅうたん・ベッドカバーの奏効例</p> <p>防災繊維商品の歴史がようやく始まった</p> <p>&lt;防災に関する用語の知識・8&gt; 高層建築物</p> <p>「防災表示者認定予備審査手数料規程」の一部改正について</p> <p>火災による死者数の推移&lt;死因別の分類&gt;</p> <p>「防災寝具を使いましょう」ポスターとパンフレットを配布</p> <p>ピックアップ&lt;タバコ火災の話&gt;</p> <p>防災物品・防災製品「ラベル交付枚数の推移」</p> <p>合成繊維混紡カーテンの防災処理について</p>	<p>京都市消防局指導課 (財) 日本防火研究普及協会</p> <p>狭山市消防本部 生活用品研究所</p> <p>東京消防庁 (財) 消防科学総合センター主任研究員 日野 宗門</p>
103	平成2.8.20	<p>住宅防火対策における防災製品等の必要性について</p> <p>私のイギリス・レポート&lt;連載・2&gt;</p> <p>消防隊用防護服のISO会議並びに内外の動向について</p> <p>ピックアップ&lt;スーパー長崎屋尼崎店の火災で思う&gt;</p> <p>〃 &lt;火災のシミュレーションソフト&gt;</p> <p>〃 &lt;ストーブ火災の話&gt;</p> <p>防火管理者資格講習会に「防災講習」を組入れる</p> <p>寝具の知識&lt;連載・1&gt;</p> <p>&lt;防災に関する用語の知識・9&gt; 地下街・準地下街</p> <p>北海道深川地区消防組合の火災予防条例に防災規制の努力規程</p> <p>あなたと私のパソコン通信</p> <p>防災加工専門技術者講習会合格者発表</p> <p>火災による高齢者(61才以上)の死者数および死者発生率</p> <p>防災加工専門技術者講習会開催のお知らせ</p>	<p>消防庁予防課課長補佐 寺村 映</p> <p>日本女子大学被服学科教授 中西 茂子</p> <p>塚本 孝一</p> <p>大谷 英雄</p> <p>(財) 消防科学総合センター主任研究員 日野 宗門</p> <p>神戸市消防局</p> <p>(株) 消費科学研究所技術課長 近藤 智吏</p>
104	平成2.11.30	<p>文化財の防災と防災</p> <p>「国際防災の10年」はじまる</p> <p>ヨーロッパ一人歩き奮戦記&lt;その1&gt;</p> <p>燃えにくい布で作った「かっぽう着」</p> <p>&lt;防災に関する用語の知識・10&gt; たるませ法・コイル法</p> <p>消防機器への厳しいチェック&lt;日本消防検定協会見学記&gt;</p> <p>防火基準適合表示制度の一部改正について・ 消防予第114号(平2・8・29)</p> <p>防火基準適合表示制度の一部改正に係る運用について・ 消防予第115号(平2・8・29)</p>	<p>京都市消防局</p> <p>自治省消防庁防災課</p> <p>日本女子大学被服学科教授 中西 茂子</p> <p>瀬古 順子</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		消防法施行規則の一部を改正する省令の施行について・消防予第159号（平2・11・1） ワープロについて ピックアップ<電子線およびガンマ線を利用した羊毛繊維の難燃化> JAPAN TEX'91開催予告 図書案内「住宅防火対策の実務」 平成2年度防災加工専門技術者講習会合格者発表	
105	平成3.2.25	防災に懸ける夢 ヤケド博士 かく語りき（インタビュー） 協会の「協」は三つの力を合わせる事<平成3年新年親睦会> ISOと防災<防護服関係のリヨン会議に出席して> ヨーロッパ人歩き奮戦記<その2> 舞台大道具用の防災合板を訪ねて新宿コマ劇場へ 寝具の知識<連載・2>毛布について 繊維製品の燃焼挙動に関する国際会議の動き<ISO/TC38/SC19マンチェスター会議> 国際単位系〔SI〕と防災性能試験 街で見かけた防災ラベル ピックアップ<生活の中に防災物品を取り入れよう> JAPAN TEX'91開催 図書案内「1991年版 繊維ハンドブック」	堀内 三郎 江東病院院長・順天堂大学外科客員教授 村松 正久 名古屋市消防局整備課長 石原 秋春 日本女子大学被服学科教授 中西 茂子 (株)消費科学研究所技術課長 近藤 智吏
106	平成3.5.25	防災審議委員会の充足 防災製品のある暮らし<誌上テレビ放映> ヨーロッパ人歩き奮戦記<その3> ISOにおける防護服の動向と国内の対応<リヨン会議以降> 老人ホームと防災寝具 製造物責任制度をめぐる動きについて（その1） 「消防服制のあり方に関する懇談会」について 住宅防火対策の推進について・消防予第46号（平3・3・22） 委託調査研究の結果概要 1 防災物品等に係る防災性能の高度化に関する研究IV 〃    2 繊維製品の総合的試験方法の開発に関する基礎的調査研究 合織の混用率が20%を超すカーテンについて 平成2年度の水の硬度について（試験室だより） 軟水装置とは（試験室だより） パークロロエチレン蒸溜装置の増設（試験室だより） 私のパソコン通信（その2）	自治省消防予防課課長補佐 渡邊 洋己 日本女子大学被服学科教授 中西 茂子 神戸市消防局 自治省大臣官房企画室 吉田 悦教 消防予防課課長補佐 北出 正俊 (財)日本防火研究普及協会 安全工学協会 カーテン部会

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		街で見かけた防災ラベル 死者の発生した住宅火災における主な着火物と出火源の関係 「家庭防火のポイント」(小冊子紹介) 防災物品・防災製品のラベル交付枚数の推移	
107	平成3.8.25	住宅防火対策の推進について 暮らしの中の火災と防災 防災カーテンの奏効事案について 防災寝具についてのアンケート調査について 鐘の緒の防災処理 「燃えにくいカーテン」への消費者の意識 防災基準検討分科会の設置について お年寄りにとりあえず防災腕カバーを！ ヨーロッパ人歩き奮戦記<その4> ガット・スタンダード協定について 寝具の知識<連載・3>マットレスについて 製造物責任制度をめぐる動きについて(その2) 住宅防火対策の推進に係る建築部局との連携について・消防予第114号(平3・5・24) 防災加工専門技術者・講習会開催のお知らせ じゅうたんの洗浄と防災性能の変化について <防災に関する用語の知識・11> 煙とガス 私のパソコン通信(その3) 「防災品と非防災品の燃焼のちがいは」(ビデオ紹介)	消防庁予防課設備専門官 木原 正則 東京消防庁生活安全課 福岡市西消防署 京都市消防局 地蔵寺住職 寺田 智誠 日経産業消費研究所消費経済研究部主任研究員 知念 利夫 福岡市立母子福祉センター 富田みち子 日本女子大学被服学科教授 中西 茂子 消防庁予防課自治技官 飯塚 治 (株)消費科学研究所技術課長 近藤 智吏 自治省大臣官房企画室 吉田 悦教  (財)日本防災協会試験室
108	平成3.11.25	住宅用防災機器等推奨制度について 住宅防火診断の実施について 住宅防火安心マーク取り扱い要綱 ヨーロッパ人歩き奮戦記<最終回> 住宅防火対策推進関連の通知文 私のパソコン通信(その4) 米国の住宅火災における第一着火物と着火源 韓国の寝具類の防災制度に関する消防法規 製造物責任制度をめぐる動きについて(その3) 防災製品をご存じですか？ 平成3年度防災加工専門技術者講習会合格者発表 住宅防火対策の推進にむけて<シンポジウム>開催報告	消防庁予防課課長補佐 木原 正則 消防庁予防課 鈴木 康幸 (財)日本防災協会・防災製品認定委員会 日本女子大学被服学科教授 中西 茂子 消防庁 消防庁予防課 川窪 俊広 札幌市消防局予防部
109	平成4.2.25	防災の輪が広がった 創立30周年 新年親睦会 防災表示制度の運用の一部改正について 住宅用防災機器等推奨制度に係る看板等の運用について	消防庁予防課自治事務官 小松 祐治 消防庁予防課課長補佐 木原 正則

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		住宅防火安心マーク付き防災物品及び防災製品の看板等の取扱い要綱 「安心マーク付き防災ラベル」の取扱いに関するQ&A 寝具の知識<連載・4>タオルケット・タオルシーツ等のタオル織物 防災表示者として認定を受けた裁断・施工・縫製業者に対する講習会の実施について・消防予第251号（平3・12・24） 防災表示制度の運用の一部改正について・消防予第260号（平3・12・27） 防災製品ラベルの変更について・消防予第261号（平3・12・27） 防災物品等に係る住宅防火安心マークの取扱いについて・消防予第262号（平3・12・27） 私のパソコン通信（その5） 試験番号の再登録の期限厳守をおじゃまします（財）日本化学繊維検査協会東京事業所を訪問	(株)消費科学研究所技術課長 近藤 智吏
110	平成4.5.25	円滑な連携で時代のニーズに応える ～理事長就任の挨拶～ 誌上テレビ放映1、お忘れなく・火の元注意！ “ 2、災害から都民を守る東京消防庁 ニューヨーク州の火災ガスの毒性規制 製造物責任制度をめぐる動きについて（最終回） 防災カーテンが炎の盾に！ 委託調査研究の結果概要 1、火災時における防災物品等の燃焼反応特性に関する研究 “ 2、繊維製品の熱分解時に発生するガスの分析 住宅火災の実態について（平成2年中） 神奈川県・兵庫県で開かれた法令講習会 防災加工専門技術者講習会開催のお知らせ 認定防災表示者（裁断・施工・縫製業者）に対する講習会の実施について・消防予第79号（平4・4・10） 火災予防条例の一部を改正する条例・東京都条例第116号（平4・3・31） カーテンの防災二次加工の現場を訪ねて～東京ホールセール（株）府中工場～ ラベル交付枚数の推移 私のパソコン通信（その6） 全国22カ所に展示用住宅防火機器の交付	(財)日本防災協会理事長 宮腰 正美 消防庁予防課長 次郎丸誠男 東京消防庁総監 原島 榮一 消防庁予防課 川窪 俊広 神戸市消防局査察課 藤本 敏己 (財)日本防火研究普及協会 安全工学協会 住宅防火推進協議会・消防庁予防課 住宅防火対策推進協議会
111	平成4.8.25	火災にみる高齢者の実態と防災について 防災エプロン着用で料理・防火教室開催	東京消防庁生活安全課 大阪北区役所

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>(財) 大阪市ホームヘルプ協会訪問記            消防設備及び繊維の防災に関するISO国際規格への対応            日本睡眠科学研究所を訪ねて            北海道・東京都・福井県・福岡県・岩手県・            岐阜県で開かれた法令講習会            「コープこうべ」が防災衣料を発売            &lt;友への手紙・1&gt;雷龍の国・ブータン            &lt;消費者の目・1&gt;広告に対する消費者の意識            平成4年度防災加工専門技術者講習会合格者発表            防災加工専門技術者講習会開催のお知らせ            私のパソコン通信 (その7)            住宅防火安心マーク付き防災ラベルの交付枚数            防災物品・防災製品の推奨マーク使用認定状況            全国25カ所に展示用住宅防災機器の交付</p>	<p>消防庁予防課国際規格係長 山本 勲             ささき ようこ            主婦連合会事務局次長 吉岡 初子</p>
112	平成4.11.25	<p>防災=昨日・今日・明日            ～ (財) 日本防災協会創立30周年記念座談会～            認定防災表示者 (裁断・施工・縫製業者) に対する講            習会の実施について・消防予第176号 (平4・8・26)            防災製品の品目の追加について・消防予第            229号 (平4・11・24)            防災製品の認定対象品目の追加について「自            動車・オートバイ等のボディカバー」            立川都民防災教育センター「立川防災館」体験記            「防災用語ハンドブック」刊行            宮城県・長崎県・和歌山県・富山県で開かれた法令講習会            住宅防火対策推進協議会の広報活動            &lt;消費者の目・2&gt; 「有機・無農薬の原材料使用」            の加工食品の調査            全国老人クラブ連合会へ防災製品「アーム            カバー」35,000組を寄贈            &lt;友への手紙・2&gt;地球の宝物・ブータン            平成4年度防災加工専門技術者講習会合格者発表 (東京会場)            私のパソコン通信 (その8)</p>	<p>防災製品認定委員会委員長 堀内 三郎             主婦連合会事務局次長 吉岡 初子             ささき ようこ</p>
113	平成5.2.25	<p>住宅防火対策としての防災普及の推進&lt;平成5年 新年親睦会&gt;            '93 JAPAN TEX 防災展示と「住宅防火診断」            放火の現状と防災 (自動車・オートバイ等            のボディカバーの防災化によせて)            繊維製品の燃焼挙動に関するミラノ会議の            予告 (ISO/TC38/SC19)            &lt;消費者の目・3&gt;衣料品の通信販売の実態            防災実験布について</p>	<p>消防庁予防課 鈴木 徳昭             主婦連合会事務局次長 吉岡 初子            京都市消防局</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>平成5年春季全国火災予防運動の実施について・消防予第255号（平4・12・24）</p> <p>平成5年春季全国火災予防運動実施要綱の取扱いについて・消防予第258号（平4・12・25）</p> <p>消防庁告示に定める「同等以上の洗濯性能を有する方法」について（回答）・消防予第4号（平5・1・7）</p> <p>群馬県・山口県・千葉県・愛媛県・東京都で開かれた法令講習会</p> <p>消防庁告示に定める「同等以上の洗濯性能を有する方法」関する報告</p> <p>東京消防庁消防防災資料センター 消防博物館を訪ねて</p> <p>&lt;友への手紙・3&gt;バンコクに生きる中国</p> <p>私のパソコン通信（その9）</p>	<p>ささき ようこ</p>
114	平成5.5.20	<p>放火の心理と社会的背景</p> <p>&lt;消費者の目・4&gt;「欠陥商品110番」を実施して</p> <p>京都市消防局編纂「お年寄りを守る防火の読本」紹介</p> <p>質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;</p> <p>技術部会の発展的解散に当たって</p> <p>委託調査研究の結果概要</p> <p>①火災時における防災物品等の燃焼反応特性に関する研究（その2）</p> <p>②綿およびアクリル繊維の防炎化機構（熱分解における生成ガス分析による考察）</p> <p>沖縄県・島根県で開かれた法令講習会</p> <p>認定防炎表示者（裁断・施工・縫製業者）に対する講習会の実施について・消防予第69号（平5・2・24）</p> <p>防炎加工専門技術者講習会の実施について・消防予第114号（平5・4・6）</p> <p>平成5年度消防庁広報テーマについて・消防総第138号（平5・2・16）</p> <p>&lt;友への手紙・4&gt;タイ料理と働きものの女性達</p> <p>私のパソコン通信（最終回）</p> <p>ラベル交付枚数の推移</p>	<p>東京医科歯科大学教授 山上 皓</p> <p>主婦連合会事務局次長 吉岡 初子</p> <p>消防庁予防課</p> <p>防災審議委員会委員長 堀内 三郎</p> <p>(財)日本防火研究普及協会</p> <p>安全工学協会</p> <p>ささき ようこ</p>
115	平成5.8.20	<p>防炎製品普及方策の現状</p> <p>防炎製品キッチンウェアが「コープこうべ」でヒット商品に！</p> <p>繊維製品の燃焼挙動に関するミラノ会議（ISO/TC38/SC19及び関係WGs）</p> <p>自動車の内装材料の難燃性について ～難燃性規制の発効～</p> <p>福岡市民防災センターを訪ねて</p> <p>防炎表示の適正な運用について・消防予第221号（平5・7・23）</p>	<p>消防大学校助教授 山本 勲</p> <p>いすゞ自動車（株）商品企画室部長 大塚 順一</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		防災表示の不正使用に係る措置について・ 消防予第221号（平5・7・23） <消費者の目・5>正しい表示のあり方を考える 耐久力のある防災加工をした綿織物に対する洗濯の影響 質問箱<防災Q&A> <友への手紙・5>なぞなぞの国・インド 鳥取県・福島県・北海道・茨城県・石川県・ 熊本県で開かれた法令講習会 「防災加工専門技術者」資格講習会開催のお知らせ 防災物品・防災製品の推奨マーク使用認定状況 防災製品取扱店一覧表	主婦連合会事務局長 吉岡 初子  消防庁予防課 ささき ようこ
116	平成5.11.20	特別企画座談会 防災製品普及への提言 「現代主婦の防災意識と実態」要約・ (株)クラレのアンケート調査 <新刊紹介> 東京消防庁「防火査察白書」 北海道南西沖地震のあと札幌市民防災ホールを訪問 静岡県・香川県・秋田県・長野県・大分県 で開かれた法令講習会 認定防災表示者（裁断・施工・縫製業者）に対する講習会の実 施予定について・消防予第239号（平5・8・23） 展示用の合板等の収集協力について・消防 予第241号（平5・8・23） 平成5年秋季全国火災予防運動の実施につい て・消防予第245号（平5・8・27） 平成5年秋季全国火災予防運動実施要綱の取扱い について・消防予第251号（平5・8・31） 防災表示制度の運用について・消防予第278 号（平5・10・12） <消費者の目・6>はみ出し自販機撲滅運動 質問箱<防災Q&A>エレベータ内の防災対象物品について <友への手紙・6>なぞなぞの国・インド（2） 平成5年度防災加工専門技術者講習会合格者発表（東京会場） 防災製品取扱店一覧表	主婦連合会事務局長 吉岡 初子 消防庁予防課 ささき ようこ
117	平成6.2.25	いま・なぜ・防災 <平成6年 新年親睦会> 防災カーテンに関連する住宅火災の“明”と“暗” 1994年=各部会長から「防災普及」への提言 質問箱<防災Q&A>特殊合板を防災防火対象物で使用する場 合「防煙・防火（炎）ロールアップスクリーン」の試作 ISO/TC94/SC13/WG4作業部会 防護服に関する サンフランシスコ会議の対応について	福岡県糸島消防本部  消防庁予防課 京都市消防局東山消防署予防課 藤田 裕喜

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		法令講習会の開催 〈徳島県・栃木県・宮崎県・東京都・鹿児島県・高知県・奈良県〉 平成6年春季全国火災予防運動の実施について・消防予第339号 (平5・12・24) 平成6年春季全国火災予防運動実施要綱の取扱いについて・消防予第342号 (平5・12・27) 平成6年度消防庁広報テーマについて・消防総第74号 (平6・2・8) 防災製品ラベルの様式の一部改正について・消防予第39号 (平6・2・17) 行政文書の用紙規格のA判化の実施について・消防予第41号 (平6・2・21) 放火火災予防対策の推進について・消防予第42号 (平6・2・24) <友への手紙・7>なぞなぞの国・インド (3) 防災製品取扱店一覧表	ささき ようこ
118	平成 6.5.25	住宅防火対策と防災製品の普及について TC94/SC13 (防護服) サンフランシスコ会議に出席して 文化財の保護と防災 ユーコープ・オリジナル商品「防災エプロン&袖カバー」発売! 認定防災表示者 (裁断・施工・縫製業者) に対する講習会の実施予定について・消防予第51号 (平6・3・7) 住宅用としての防災製品の普及促進について・消防予第61号 (平6・3・28) 防災加工専門技術者再講習会の実施予定について・消防予第62号 (平6・3・29) 展示用合板等の品質管理の徹底について・消防予第63号 (平6・3・29) 質問箱<防災Q&A>ラベル表示の責任の所在について <友への手紙・8>日本ってどんな国?こんな国? 委託調査研究の結果概要 高分子材料の燃焼特性 ラベル交付枚数の推移 (防災物品・防災製品) 自動車・オートバイ等のボディカバー取扱店一覧表 防災製品取扱店一覧表	川崎市消防局 消防庁予防課国際規格対策官 香山 幹 (財) 日本防災協会京都事務所長 平尾 良一  消防庁予防課 ささき ようこ 安全工学協会
119	平成 6.8.25	座談会 放火対策と防災製品 ～防災製品=自動車・オートバイ等のボディカバーの普及にあたって～ 自動車・オートバイ等のボディカバー取扱店一覧表 協会からのお知らせ 防災薬剤について インテックス大阪 (大阪国際見本市会場) における防災規制等について 「消防設備相談センター」を開設	大阪市住之江消防署  (財) 大阪市消防振興協会

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		法令講習会の開催 〈山梨県・佐賀県・北海道・滋賀県・新潟県・岡山県・三重県・山形県〉 防災加工専門技術者資格講習会の実施について・消防予第163号 (平6・6・28) 「マルチメディア」と21世紀の「防災」 質問箱<防災Q&A>防災対象物品としてのカーテンの範囲 <消費者の目・7>価格破壊と価格硬直のからくり <友への手紙・9>日本ってどんな国?こんな国?(その2)	消防庁予防課 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 ささき ようこ
120	平成6.11.25	ISO/TC94/SC13/WG4 (消防隊用防護服) ストックホルム会議に出席して ウルグアイにおける防災試験の技術指導 防災製品の普及を夢見て ボランティアによるシルバークラッシュショー 質問箱<防災Q&A>認定事項に変更が生じたとき 防災カーテンが病院を守った! 平成6年秋季全国火災予防運動実施要綱の取扱いについて・消防予第222号 (平6・8・26) ISO/TC38/SC19 繊維製品の燃焼挙動勉強会の設置 <消費者の目・8>急がれる「情報公開法」の制定 消費者への電気的安全教育(スウェーデン便り) 「住宅防火モデル地区」に住宅用防災機器(防災製品)を無償交付 協会からのお知らせ 「防災ごさ」の取扱い事業所ご案内 ♪ 布張家具等の試験について ♪ 防災薬剤について ♪ 防災製品(寝具・衣服)取扱店一覧表の配布 <友への手紙・10>シリアにKおじさんを訪ねて 盛況だった東京国際消防防災展 平成6年度防災加工専門技術者講習会合格発表(東京会場) 法令講習会の開催 〈青森県・福岡県・北海道〉 防災製品取扱店一覧表	(財)日本防災協会総務部長 湯本 太郎 消防研究所 箭内 英治 島根県平田市社会福祉協議会 熊谷美和子 消防庁予防課 京都市中京消防署 木ノ下講治 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 友子・ハンソン 川崎市消防局 ささき ようこ
121	平成7.2.25	昨日と明日の間に立って <平成7年 新年親睦会> 防災製品・布張家具の完成品 第1号が海上に誕生! 住宅防火対策の現状と今後 衣類用繊維とマットレスに関するスウェーデンの防災規制 関空(関西国際空港)防災設備見学記 法令講習会の開催 〈埼玉県・東京都〉 「防災カーテン」が老人ホームを守った 委託調査研究の結果概要 羽毛のスモルダリングに関する研究	消防庁予防課予防係長 西村 隆明 京都市伏見消防署 大田 仙行 安全工学協会

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		防災表示を附する者の認定の基準の一部を改正する告示の施行について・消防予第320号（平6・12・21） 平成7年春季全国火災予防運動実施要綱の取扱いについて・消防予第326号（平6・12・27） 防災表示者の認定に係る事務の簡素化について・消防予第7号（平7・1・12） 平成7年度消防庁広報テーマについて・消防総第14号（平7・1・11） 火災報告取扱要領の全部改正について～防災関係の追加～ <消費者の日・9>緑茶の調査から 質問箱<防災Q&A>工事用シートの防災規制について 平成6年度防災加工専門技術者講習会合格者発表（大阪会場） 防災製品取扱店一覧表	消防庁予防課 丹羽 達夫 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 消防庁予防課
122	平成7.5.25	わたくし達の「地域防災懇談会」～阪神大震災の教訓を生かすために～ 法令講習会の開催（広島県） スウェーデンにおける「椅子・ソファ類」の燃焼性に関する指針 大火源燃焼試験方法によるカーテンの燃焼性評価に関する研究 建設中のマンションを守った防災工事用シート 南米ニカラグアの首都「マナグア大地震」で学んだこと 消防用設備等に係る執務資料の送付について・消防予第26号（平7・2・21） 防災性能試験規定の一部改正について・消防予第36号（平7・3・8） 旅館・ホテル等における防火安全対策について・消防予第46号（平7・3・31） <消費者の日・10>問題をかかえるクレジットカード事情 防災製品取扱店一覧表 ラベル交付枚数の推移（防災物品・防災製品） <友への手紙・11>仏教徒の国・ミャンマーの人びと 「防災機器、防災物品等 常設展示場」の開設！	ひまわりグループ有志 京都市伏見消防署醍醐消防分署 佐野 新 杉本 眞哉 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 ささき ようこ 福岡県八女消防本部
123	平成7.8.25	住宅防火と防災 子供向け防災製品エプロンを生活協同組合コープこうべが発売！ 「防災製品PLセンター」の設置について 「防災製品団体PL総合補償制度」のご案内 海に浮かんだ「防災布張家具」第一号 ～海上の安全を乗せて～ 防災カーテンがマンションの部屋を守った！ 住宅防火モデル地区アンケート調査結果の概要について	東京消防庁生活安全課 （財）日本消防設備安全センター 京都市北消防署 小野 正幸

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>ニュージーランドの消防あれこれ            質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;幼稚園等における展示用合板の使用について            住宅防火モデル事業の実施の推進について・消防予第78号（平7・4・24）            防災加工専門技術者の再講習の細目について・消防予第126号（平7・6・9）            防災加工専門技術者資格講習及び再講習の実施について・消防予第136号（平7・6・20）            スウェーデンにおける、公共的建物で使用する「固定していない内装材」について            住宅内装防火部材の開発に関する研究            &lt;消費者の目・11&gt;規制緩和についてのアンケートから            神戸市における「防災機器展示会」に多種類の防災製品（防災頭巾・非常持出袋）を展示</p>	<p>竹田真奈美            消防庁予防課              (財)ベターリビング筑波建築試験センター 東ヶ崎清彦            主婦連合会事務局長 吉岡 初子</p>
124	平成7.11.25	<p>高齢者だけの世帯44.2パーセント 「高齢者の生活実態」調査結果について&lt;速報&gt;            平成7年度東京都社会福祉基礎調査「高齢者の生活実態」の概要            住宅防火モデル事業はじまる ～火災による死者の低減をめざして～            防災製品を斡旋サービスいたします            「防災じゅうたん」火災を未然に防ぐ            防災化における相互作用 ー相殺効果についてー            防災とは？ &lt;防災品をお求めの方へ&gt;            防災製品認定委員会の動き            消子ちゃんと住宅防火博士の知ればなるほど住宅防火            平成7年秋季全国火災予防運動実施要綱の取扱いについて・消防予第182号（平7・8・22）            &lt;消費者の目・12&gt;まぎらわしい「ジュース風アルコール飲料」            質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;防災物品の防災表示について            &lt;友への手紙・12&gt;水と緑と太陽の国・バングラデシュ            平成7年度防災加工専門技術者講習会合格者発表（東京会場）            防災製品取扱店一覧表</p>	<p>東京都福祉局              東京消防庁生活安全課長 中村 晃祥              (財)日本防災協会            神戸市水上消防署予防査察係 小野田敏行            (財)日本防災協会技術部長 寺崎 秀雄              住宅防火対策推進協議会              主婦連合会事務局長 吉岡 初子            消防庁予防課            ささき ようこ</p>
125	平成8.2.25	<p>阪神・淡路大震災の教訓を生かして &lt;平成8年 新年親睦会&gt;            質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;防災表示者認定事項の変更について            TC94/SC13（防護服） ザンクトガレン会議に出席して              老人ホームを火災から守った防災カーテン            宣伝旗等の防災化と私共の仕事            新作ビデオ「放火対策と防災製品」=放火からの自衛=</p>	<p>消防庁予防課            消防庁予防課国際規格対策官 穴村 範夫            (財)日本防災協会総務部長 湯本 太郎            福岡県糸島消防本部予防課指導係長 大庭 芳徳            (株)電通アクティクス販促制作部 本間大二郎</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>防災チェアー（防災製品）がマーケットへ！ 兵庫県主催「防災機器グッズフェア」で防災展示 平成6年中の火災による死者の実態について 平成8年春季全国火災予防運動に対する協力 について・消防予第257号（平7・12・20） 防災製品認定要綱等の一部改正について・ 消防予第265号（平7・12・22） 毛布類の性能試験基準の一部改正について &lt;消費者の目・13&gt;チューブ入り調味料「わさび」の中味 委託調査研究の結果概要 「羽毛布団のスマ ルダリング特性に関する研究」 全国26カ所に展示用住宅用防災機器等の交付 平成7年度防災加工専門技術者講習会合格発表（大阪会場） 防災加工専門技術者再講習会実施予定 チェコとハンガリー小旅行から ～ホテルのセキュリティ～ 防災製品（キッチンウェア）を回転サービスいたします</p>	<p>消防庁予防課</p> <p>防災製品認定委員会委員長 堀内 三郎 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 安全工学協会</p> <p>竹田真奈美 (財) 日本防災協会</p>
126	平成 8.5.25	<p>安全性を追求するメルセデス・ベンツ日本（株） -純正アクセサリーのボディーカバーを防災製品に- 延焼防止用耐炎・耐熱スクリーンの試作について 防災製品の椅子が図書室や事務室で使われ始めました コープ商品フェスティバル&amp;健康・福祉フェ スタ ～防災製品アラカルト～ &lt;新刊紹介&gt;阪神・淡路大震災 消防庁の官職等の英語名称の変更について 委託調査研究の結果概要 高分子材料の燃 え広がりに及ぼす接着剤の影響 平成8年度消防庁広報テーマについて・消防 庁総務課長（平8・2・14） 防災加工専門技術者再講習の実施について・ 消防予第86号（平8・5・10） &lt;消費者の目・14&gt;災害に備えての食料品の 備蓄のトップは「米および米加工品」 質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;組織変更の手続きについて スウェーデンの消防事情 UJNR会議参加とULを訪問して ラベル交付枚数の推移（防災物品・防災製品）</p>	<p>メルセデス・ベンツ 山川 敏秀 京都市消防局東山消防署予防課 藤田 裕喜</p> <p>消防庁総務課 安全工学協会</p> <p>主婦連合会事務局長 吉岡 初子 消防庁予防課</p> <p>消防研究所 箭内 英治 " 田村 裕之</p>
127	平成 8.8.25	<p>住宅火災の実態について ISO/TC94/SC13/WG4 ハーン会議に出席して 新築病症候群（シックビルディングシンドローム） に関連するテレビ報道と防災について</p>	<p>消防庁予防課</p> <p>共成（株）常務取締役 鷺山 茂雄 (財) 日本防災協会技術部長 太田 克海</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		委託調査研究の結果概要 ISO6941による収縮性、熔融性繊維の燃焼性評価に関する研究 防災加工専門技術者講習の実施について・消防予第126号(平8・6・27) 住宅防火対策の推進について・消防予第138号(平8・7・8) 最新の防災研究機関 消防研究所を訪ねて <消費者の目・15>小型ペットボトル・水道水・ゴミ処理問題	(財) 日本防火研究普及協会  主婦連合会事務局長 吉岡 初子
128	平成8.11.25	ウルグアイの「防災制度のガイドラインの作成」に関する専門家派遣を終えて ウルグアイ見聞メモ <消費者の目・16>女性にとって働きやすい環境づくりを 愛車の安全は、社会の安全 オリジナル商品のバイクカバーを防災製品に 消防50年記念 「21世紀の消防」論文等募集要領 全国27カ所に展示用住宅用防災機器等の交付 技術部の事務の一部移管について 東京試験室 全自動ドライクリーニング試験機を更新 防災アームカバーの燃焼性状について 質問箱<防災Q&A>併用の対象物における防災規制について 平成8年秋季全国火災予防運動に対する協力について・消防予第165号(平8・8・22) 久留米市防災センターに「防災コーナー」を設置 <新作ビデオ3本完成> 防災品(防災物品・製品)はどのくらい燃えにくい 防災表示の認定申請に係る手続き 防災性能の試験依頼に係る手続き JAPAN HOME SHOW '96 命を守る住宅防火・防災機器展 平成8年度防災加工専門技術者講習会合格発表(東京会場) 神奈川県「みんなの消費生活展」開催中!	横浜市消防局予防部指導課指導係 土橋 正彦 (財) 日本防災協会顧問 寺崎 秀雄 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 南海部品(株) 仕入部部长 中島 英雄  (財) 日本防災協会 (財) 日本防災協会 東京消防庁生活安全課 消防庁予防課  福岡県久留米市消防本部
129	平成9.2.25	協会発足35周年を迎えて <平成9年 新年親睦会> 建築空間のアメニティーと防火安全 平成9年春季全国火災予防運動実施要綱の取扱いについて・消防予第259号(平8・12・24) 防災加工専門技術者再講習の実施について・消防予第20号(平9・2・6) 防災製品認定要綱等の一部改正について・消防予第15号(平9・2・5) 防災製品認定要綱等一部改正について 質問箱<防災Q&A>個人輸入の防災対象物品について スウェーデンからの便り 防災衣料によるファッションショー始末記 一着衣着火防止をめざしてー	消防研究所第二研究部特殊火災研究室 山田 常圭   防災製品認定委員会委員長 上原 陽一 消防庁予防課 友子・ハンソン 大阪市城東消防署

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		インターネット消防庁ホームページの開設について 劇場・ホール等の布張椅子（布張家具等） の防災製品認定品が市場へ <消費者の目・17>情報公開制度からみた火災の実態 平成8年度防災加工専門技術者講習会合格者発表（大阪会場）	消防庁防災情報室 主婦連合会事務局長 吉岡 初子
130	平成9.5.25	住宅火災の実態について（平成7年度中） ISO/TC94/SC13/WG4 アデレード会議に出席して スウェーデンからの便り 委託調査研究の結果概要 繊維製品燃焼実験： 燃焼時の形態が異なった場合の燃焼性状 <消費者の目・18>金融機関のわかりやすい情報提供を 防災加工専門技術者資格講習の実施について・消防予第53号（平9・3・25） 防災性能の確認方法の変更等ともなう防災物品（カーテン等） の取扱いについて・消防予第57号（平9・3・28） 平成9年度消防庁広報テーマについて・消防 総第68号（平9・2・17） 質問箱<防災Q&A>防災加工専門技術者について 防災性能試験規程の改正について 消防防災機器の開発等及び消防防災科学論文募集要領 ラベル交付枚数の推移（防災物品・防災製品） 名古屋市消防局より感謝状の授受	住宅防火対策推進協議会・消防庁予防課 （財）日本防災協会総務部長 湯本 太郎 友子・ハンソン 東京理科大学火災科学研究所 東京大学工学部・安全工学協会 主婦連合会事務局長 吉岡 初子  消防庁予防課 （財）日本防災協会 消防庁消防研究所
131	平成9.8.25	ISO/TC94/SC13（防護服及びWG4消防服） ロンドン会議に出席して ISO/TC38/SC19（繊維製品の燃焼挙動） 国際会議に出席して ISO国際会議の際に立ち寄った試験研究機関の訪問メモ 燃焼比較実験を行って 防災に対する生徒の感想 <新作ビデオ完成>防災品はなぜ燃えにくいの？ <消費者の目・19>主婦たちの老後への不安感 <ちょっとひと休み・1>わが家族 質問箱<防災Q&A>「残炎時間」等の用語について 高齢者用防災製品の洗濯による防災性能の変化について 委託調査研究の結果概要 コーンカロリメーター による防災材料の燃焼性状に関する研究報告 防災品（防災物品・防災製品）の製造工程・概略	（財）日本防災協会顧問 寺崎 秀雄 消防研究所燃焼研究室長 箭内 英治 〃 群馬県立沼田高等学校家庭科担当 鈴木 悦子 群馬県立前橋高等学校家庭科担当 山口 敏枝 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 宮川 千穂 消防庁予防課 京都市消防局 （財）日本防火研究普及協会
132	平成9.11.25	平成9年秋季全国火災予防運動に対する協力 について・消防予第136号（平9・8・22）	

No.	発行年月日	タイトル	筆 者 名 等
		防災表示制度の運用の一部改正について・ 消防予第168号（平9・10・21） 防災製品の品目の追加について・消防予第 174号（平9・10・27） 防災製品の品目の追加について <消費者の目・20>高齢者をとりまく消費者問題 全国26カ所に展示用住宅用防災機器等の交付 質問箱<防災Q&A>工事用シートの表示方法について 「防災製品取扱店一覧表」の配布 タバコ火災の火災調査 ISO/TC94/SC13/WG4（防火服）ISO防火服のキーワード <ちょっとひと休み・2>末っ子マイヤー 舞台幕火災調査委員会について 「防災製品展示コーナー」の常設設置 平成9年度防災加工専門技術者講習合格者発表（東京会場）	防災製品認定委員会委員長 上原 陽一 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 消防庁予防課 東京消防庁保谷消防署 共成（株） 鷺山 茂雄 宮川 千穂 (財)日本防災協会技術部長 太田 克海 福岡県春日大野城消防本部
133	平成10.2.25	「防災」のわかりやすく、正確な情報の提供 を <平成10年 新年親睦会> 「自治体消防50年記念国際消防防災展 '98 in 東京」開催のお知らせ 対談 老いを楽しむ生活に防災製品を 東京都練馬区役所 災害救護所用毛布は防災製品 つくばりハビリテーションセンターのベッ ド用マットレスは防災製品です 防災製品の劇場・ホール用椅子が登場（入来町文化ホール・ 青森県総合学校教育センター・中川文化センター） 平成10年春季全国火災予防運動実施要綱の取扱 いについて・消防予第8号（平10・1・20） 平成10年度消防庁広報テーマ等について・ 消防総第18号（平10・1・19） 防災加工専門技術者再講習の実施について・ 消防予第18号（平10・2・13） 「自治体消防制度50周年記念郵便切手」の発行について 「防災製品6点セット」を全国消防本部等へ <消費者の目・21>金融機関への不安感 質問箱<防災Q&A>防災規制の沿革について 台湾の防災規制について スウェーデンからの便り 福岡市市民福祉プラザ“ふくふくプラザ” に家庭用防災用品コーナーを設置 平成9年度防災加工専門技術者講習合格者発表（大阪会場） <ちょっとひと休み・3>ライカの魅力	評論家 式田 和子 東京ガス（株）都市生活研究所主幹研究員 橋本 俊幸 消防庁総務課 (財)日本防災協会 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 消防庁予防課 (財)日本防災協会顧問 寺崎 秀雄 友子・ハンソン 福岡市消防局 宮川 千穂

No.	発行年月日	タイトル	筆 者 名 等
		<新刊紹介>1998年版 「繊維ハンドブック」	
134	平成10.5.15	<p>自治体消防50年と防災 日本の消防防災最先端見学記 消防法施行規則第4条の4第6項の指定表示を指定する件・官報第2350号 延焼拡大を防いだ防災カーテン 住宅火災の実態について（平成8年中） &lt;連載 言いたかないけど 1&gt; こぼす &lt;消費者の目・22&gt;酒・タバコのCMの実態と在り方 自治体消防50年記念「国際消防防災展 '98 in 東京」見どころ 協会ビデオ「防災品はなぜ燃えにくいの」（財）消費者教育支援センター実施の視聴覚資料部門で優秀賞に選ばれる 福知山市消防長より感謝状授受 吹田市長より大阪事務所へ感謝状授受 福岡市消防局長より九州事務所へ感謝状授受 委託調査研究の結果概要 繊維製品の総合的燃焼試験法の開発に関する基礎的調査研究（Ⅻ）「カーテンの燃焼性に関する実験的研究」 アクリル繊維の品質表示変更について スウェーデンからの便り 防災加工専門技術者資格講習の実施について・消防予第34号（平10・3・20） ラベル交付枚数の推移（防災物品・防災製品）</p>	<p>前消防研究所長 次郎丸誠男  埼玉県蓮田市消防本部 住宅防火対策推進協議会・消防庁予防課 生活評論家 式田 和子 主婦連合会事務局長 吉岡 初子  安全工学協会  (財)日本防災協会技術部長 太田 克海 友子・ハンソン</p>
135	平成10.8.25	<p>協会業務の活性化と信頼性を ～理事長就任の挨拶～ 被服材料燃焼実験 繊維の燃焼による鑑別を行って 舞台幕火災調査に関する調査研究報告（概要） &lt;連載 言いたかないけど 2&gt; におう 放火対策にマンション自治会でバイクの防災カバー使用を決定 防災カーテンによる室内空気の汚染について ISO/TC94/SC13/WG4（防火服）ダブリン会議に出席して 消防法施行規則第4条の4第6項の指定表示の指定について 質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;防災物品と防災製品の違いについて 類焼を防いだ住宅の防災カーテン 防災品には防災品を組み合わせさせてお使い下さい 高齢者と幼少年の住宅火災危険 防災加工専門技術者講習実施予定表(平成10年度) &lt;消費者の目・23&gt;働く女性と、大店法規制緩和 「自治体消防50年記念国際消防防災展 '98 in 東京」を開催して</p>	<p>(財)日本防災協会理事長 次郎丸誠男 山口県立久賀高等学校 松田 良江 埼玉県消防学校専科担当 新村三枝子 (財)日本防災協会技術部長 太田 克海 生活評論家 式田 和子 松村美知子 東京女子医科大学 石津 澄子 共成(株) 鷺山 茂雄 消防庁予防課 消防庁予防課 唐津・東松浦広域市町村圏組合消防本部 (財)日本防災協会東京試験室 消防庁消防研究所 鈴木 恵子 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 消防庁</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
136	平成10.11.25	<p>繊維製品とリサイクル</p> <p>繊維の性質 — 燃焼比較実験 —</p> <p>防災についての授業を行って</p> <p>重ね布の防災性の比較</p> <p>住宅防火対策モデル事業推進結果</p> <p>&lt;連載 言いたかないけど 3&gt; 思い込み</p> <p>平成10年秋季全国火災予防運動に対する協力について・消防予第145号 (平10・8・24)</p> <p>舞台幕の取扱いについて・消防予第126号 (平10・8・4)</p> <p>消防法施行規則第4条の4第6項の指定表示の指定について・消防予第150号 (平10・8・31)</p> <p>質問箱&lt;防災Q&amp;A&gt;防災対象物品としての布製ブラインドの範囲について</p> <p>じゅうたん等防災ラベルの様式改訂について</p> <p>放火火災予防対策の推進に係る防災ボディカバーの使用促進等について</p> <p>&lt;消費者の目・24&gt;サマータイム</p> <p>全国13カ所に展示用住宅用防災機器等の交付</p> <p>「アジア防災フェア福岡 '98」 出展報告</p> <p>「防災製品6点セット」を北海道・東北地区及び関東の一部地区の消防署及び出張所へ</p> <p>平成10年度防災加工専門技術者講習合格者発表 (東京会場)</p> <p>第2回 消防防災研究講演会案内</p>	<p>前日本化学繊維協会 遠藤 一之</p> <p>埼玉県立上尾高等学校家庭科担当 村山恵美子</p> <p>文化女子大学短期大学部 沼尻 七子</p> <p>田中千代学園短期大学被服材料担当 牟田 緑</p> <p>生活評論家 式田 和子</p> <p>消防庁予防課</p> <p>(財) 日本防災協会</p> <p>全国消防長会予防委員会・事務局千葉市消防局 能瀬 俊明</p> <p>主婦連合会事務局長 吉岡 初子</p> <p>(財) 日本防災協会</p>
137	平成11.2.25	<p>防災品の普及で、安心できる生活を確保する &lt;平成11年 新年親睦会&gt;</p> <p>堀内三郎先生の死を悼む</p> <p>防災製品の品目の追加について・消防予第216号 (平10・12・15)</p> <p>防災製品認定要綱等一部改正について</p> <p>スウェーデンからの便り</p> <p>1999年・兎年は消防の年</p> <p>防災加工専門技術者再講習実施予定表 (平成11年度)</p> <p>東京都の防災対策 備蓄用毛布は防災ラベルの付いたペットボトルリサイクル品</p> <p>&lt;連載 言いたかないけど 4&gt; お年寄りのプレゼント</p> <p>「防災」との出会い</p> <p>住宅火災の実態について (平成9年中)</p> <p>&lt;消費者の目・25&gt; 「消費税なんでも110番」から</p> <p>防災今昔ものがたり(1) 防災と寒天</p> <p>&lt;新刊紹介&gt; 1999年版「繊維ハンドブック」</p>	<p>(財) 日本防災協会理事長 次郎丸誠男</p> <p>防災製品認定委員会委員長 上原 陽一</p> <p>友子・ハンソン</p> <p>合板部会部会長 岡本 義雄</p> <p>生活評論家 式田 和子</p> <p>日本クリーナーズ防災協会理事長 中村 寿一</p> <p>消防庁予防課 福田 利平</p> <p>主婦連合会事務局長 吉岡 初子</p> <p>酒向みゆき</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
138	平成11.5.25	<p>防災の割烹着・エプロン・アームカバー、東急ハンズ横浜店で販売始まる</p> <p>日本防災協会で実習を行って</p> <p>防災剤と毒性問題</p> <p>日本防災協会との出会い及び繊維工学系の人材育成</p> <p>日本百貨店協会会員各社回答「防災商品」に関するアンケート</p> <p>&lt;大江戸歳時記・1&gt;満都の桜</p> <p>2000年（Y2K）問題って何？</p> <p>&lt;連載 言いたかないけど 5&gt; 縦の文化・横の文化</p> <p>スウェーデンからの便り</p> <p>&lt;消費者の目・26&gt;訪問販売法と割賦販売法の改正</p> <p>防火服規格としてのISO11612</p> <p>消防防災機器の開発等及び消防防災科学論文募集要領</p> <p>ラベル交付枚数の推移（防災物品・防災製品）</p> <p>防災加工専門技術者講習会実施予定表（平成11年度）</p> <p>防災今昔ものがたり（2）線路脇の小さな事務所</p> <p>消防用設備等の設置等に係る金融上の措置について・消防予第55号（平11・3・31）</p>	<p>大妻女子大学家政学部被服学科</p> <p>丸菱油工業（株）代表取締役会長 小嶋 義一</p> <p>前日本化学繊維協会技術部担当部長 湯村 崇男</p> <p>パン・リビング（株）社長 岡本 義雄</p> <p>神奈川大学工学部電気工学科 遠藤 信行</p> <p>生活評論家 式田 和子</p> <p>友子・ハンソン</p> <p>主婦連合会事務局長 吉岡 初子</p> <p>共成（株）代表取締役社長 鷺山 茂雄</p> <p>消防研究所</p> <p>酒向みゆき</p>
139	平成11.8.25	<p>神戸市立の中学・高校48校に、防災チェアーが採用される</p> <p>ISO/TC94/SC13（防護服）ミラノ会議の報告</p> <p>&lt;大江戸歳時記・2&gt;揚羽と来る下町の夏</p> <p>消防大学校で講演 予防行政の変遷</p> <p>「防災製品団体PL総合補償制度」について</p> <p>着衣着火にご用心</p> <p>防災雑感</p> <p>平成11年秋季全国火災予防運動に対する協力について・消防予第210号（平11・8・26）</p> <p>東京都消費生活総合センター 暮らしに役立つ衣生活教室訪問「繊維の品質を調べる」</p> <p>セルロース及びポリエステル繊維を対象とした防災処理に関する研究</p> <p>&lt;連載 言いたかないけど 6&gt; 小銭</p> <p>&lt;消費者の目・27&gt;消費者契約法</p> <p>防災今昔ものがたり（3）「防災ニュース」が創刊された頃</p>	<p>パン・リビング（株）社長 岡本 義雄</p> <p>（財）日本防災協会理事長 次郎丸誠男</p> <p>（財）日本消防設備安全センター 角南 澄子</p> <p>大阪市消防局</p> <p>（財）日本繊維製品品質技術センター 下谷 忠義</p> <p>中西 茂子</p> <p>生活評論家 式田 和子</p> <p>主婦連合会事務局長 吉岡 初子</p> <p>酒向みゆき</p>
140	平成11.11.25	<p>防災布張椅子が確実に広がっています</p> <p>ISO11612、11613の動向 CEN ヒホン会議出席報告</p> <p>防災表示を附する者の認定の基準の一部を改正する告示等の施行について・消防予第239号（平11・9・21）</p> <p>&lt;大江戸歳時記・3&gt;飛鳥山と王子界限</p> <p>台湾の防災規制について（その2）</p>	<p>共成（株）代表取締役社長 鷺山 茂雄</p> <p>パン・リビング（株）社長 岡本 義雄</p> <p>元（財）日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆 者 名 等
		<p>第3回 消防防災研究講演会案内 「防災品はなぜ燃えにくいの？」感想文 スウェーデンからの便り 「ジャパン・ホーム・ショー」に、住宅防火 対策推進協議会として広報展示 &lt;連載 言いたかないけど 7&gt; 用意 消防関係専門紙（誌）代表者との懇談会を開催 セルロース及びポリエステル繊維を対象と した防災処理に関する研究 ―そのⅡ― 平成11年度防災加工専門技術者講習合格発表（東京・大阪会場） 京都市長より当協会京都事務所へ感謝状 防災今昔ものがたり（4）「防災」という用語 新潟県から長野県までの消防署及び出張所 へ「防災製品6点セット」を寄贈 防災関係者表彰規程</p>	<p>消防研究所 川崎総合科学高校総合電気科 2年生 友子・ハンソン</p> <p>生活評論家 式田 和子</p> <p>中西 茂子</p> <p>酒向みゆき</p>
141	平成12.2.25	<p>防災品にも地球に優しい対応策を、出来る事から 前進したい &lt;平成12年 新年親睦会&gt; 住宅火災の実態について（平成10年中） 平成12年春季全国火災予防運動の実施につ いて・消防予第9号（平12・1・14） 最近の火災の第1着火物について いざというとき、あなたを守る防災衣料品（Ⅰ） 平成12年度科学技術週間における施設の一般公開のご案内 &lt;連載 言いたかないけど 8&gt; エプロン バッチとロット 台湾の（財）防焰安全中心基金會から研修生来日 &lt;消費者の目・28&gt;個人情報保護（プライバシー）について &lt;大江戸歳時記・4&gt;諏訪台そして谷中界限 防災関係業界功労者表彰式及び祝賀会を開催 防災加工専門技術者再講習実施予定表（平成12年度） 戒光寺の釈迦如来を守る防災カーテン 防災今昔ものがたり（5） 防災&lt;使用前・使用后&gt; コンピューターって役に立つ？</p>	<p>住宅防火対策推進協議会・消防庁予防課</p> <p>消防研究所 箭内 英治 東京都消費生活総合センター商品テスト課</p> <p>生活評論家 式田 和子 防災製品認定委員会委員長 上原 陽一</p> <p>主婦連合会事務局長 吉岡 初子 パン・リビング（株）社長 岡本 義雄</p> <p>（財）日本防災協会京都事務所長 大成 昌道 酒向みゆき 神奈川大学工学部電気工学科 遠藤 信行</p>
142	平成12.5.25	<p>ISO/TC94会議及びISO/TC94/SC13/WG2・ WG4アデレード会議報告 いざというとき、あなたを守る防災衣料品（Ⅱ） 米軍横田基地消防署 衣料管理士実習 ―防災エプロン、私たちの提案― 消防防災機器の開発等及び消防防災科学論文募集要領 &lt;連載 言いたかないけど 9&gt; 夫婦の会話</p>	<p>（財）日本防災協会理事・技術部長 太田 克海</p> <p>東京都消費生活総合センター商品テスト課</p> <p>大妻女子大学家政学部被服学科 消防研究所 生活評論家 式田 和子</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		防災加工専門技術者講習実施予定表(平成12年度) ラベル交付枚数の推移(防災物品・防災製品) インターネットの簡単な説明 特別文化財防火デーの消防訓練 スウェーデンからの便り 防災今昔ものがたり(6) 続・防災<使用前・使用后> 「住宅防火展」の開催 ふれて知る消防と防火 「ファイヤーフェスティバル2000」にて体験型展示!!	神奈川大学工学部電気工学科 遠藤 信行 奈良県中和広域消防組合高田消防署 友子・ハンソン 酒向みゆき 大阪市住宅防火対策推進協議会 京都市南消防署
143	平成12.8.25	衣料品の表面フラッシュに関する商品テスト結果 防災製品認定要綱等一部改正について 文化財防火対策の推進 第5回防災まちづくり大賞 大募集! <消費者の目・29>私が見たアメリカの司法制度の実情 <連載 言いたかないけど 10> 携帯電話 ISO9001認証/登録のお知らせ 防災二次加工と日本クリーナーズ防災協会 セルロース及びポリエステル繊維を対象とした 防災処理に関する研究 ーそのⅢー 防災品に対する製造物賠償責任保険 スウェーデンからの便り 平成12年度消防機器等関係者表彰式の開催 防災今昔ものがたり(7) 防災製品の火災予防事例の難しさ 消防関係専門紙(誌) 代表者との第2回懇談会を開催 (財)日本防災協会ホームページ開設のお知らせ	国民生活センター商品テスト部 太田美津子 防災製品認定委員会委員長 上原 陽一 京都市消防局予防部予防課文化財係 主婦連合会事務局長 吉岡 初子 生活評論家 式田 和子 (財)日本防災協会 日本クリーナーズ防災協会副理事長 土田 昭一 中西 茂子 (財)日本防災協会 友子・ハンソン 酒向みゆき
144	平成12.11.25	消防隊用防護服に対する耐熱試験装置の サーマルマネキンシステムについて CEN会議出席報告 平成12年秋季全国火災予防運動に対する協 力について・消防予第192号(平12・8・25) 米国消費者製品安全委員会CPSCのホームページから セルロース及びポリエステル繊維を対象と した防災処理に関する研究 ーそのⅣー 第4回 消防防災研究講演会案内 丙種危険物取扱者の愛称を募集します <連載 言いたかないけど 11> シンプルな機械を インターネットは諸刃の剣 スウェーデンからの便り <消費者の目・30>アメリカの法曹養成(ロー スクール)について	消防研究所 箭内 英治 共成(株)代表取締役社長 鷺山 茂雄 元(財)日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄 中西 茂子 消防庁 生活評論家 式田 和子 神奈川大学工学部電気工学科 遠藤 信行 友子・ハンソン 主婦連合会事務局長 吉岡 初子

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		国際福祉機器展2000へ「住宅防火対策推進協議会」として出展 第2回予防広報委員会開催 防災今昔ものがたり (8) 「日本防災協会」 はどんな風に生まれたの？	酒向みゆき
145	平成13.2.25	第1号の指定確認機関として消費者の信頼を 確かなものに <平成13年 新年親睦会> 「消防法施行規則の一部改正」について オーランド会議報告  防災今昔ものがたり (9) 山口利吉さんのこと <連載 言いたかないけど 12> ほんとうに必要なこと 防災試験はローソク法から始まった 平成13年春季全国火災予防運動に対する協 力について・消防予第2号 (平13・1・10) 防災関係業界功労者表彰式及び祝賀会を開催 平成12年度防災加工専門技術者講習合格者発表 (東京・大阪会場) 防災カーテンの奏効事例	(財) 日本防災協会 消防研究所 箭内 英治 (財) 日本防災協会 太田 克海 酒向みゆき 生活評論家 式田 和子 元 (財) 日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄  福岡市消防局予防課
146	平成13.5.25	防災ボディカバーの性能等に関する研究 防災性能試験、ラベル交付手数料の改正について 玩具の安全性について 平成12年度消防関係業界功労者表彰式の開催 <連載 言いたかないけど 13> ステッキの話 防災加工専門技術者再講習実施予定表 (平成13年度) <消費者の目・31> 「弁護士報酬の敗訴者負担」について 「学んで役立つ、住まいの防火」 ラベル交付枚数の推移 (防災物品・防災製品) 高齢者の衣生活考察 消防機関と (財) 日本防災協会との合同の 確認調査に関する協力依頼について “TOUKAI-0” 「地震から生命を守る」2001 しずおか技術コンクール 池袋防災館体験見学 <介護は愉し・1> 介護は愉し スウェーデンからの便り	東京消防庁消防科学研究所 (財) 日本防災協会 元 (財) 日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄  生活評論家 式田 和子  主婦連合会事務局長 吉岡 初子 大阪市住宅防火対策推進協議会  大妻女子大学家政学部被服学科 全国消防長会  元家庭裁判所調査官 正木信二郎 友子・ハンソン
147	平成13.8.25	最近の繊維について -機能性合成繊維を中心に- タイルカーベットの指定表示 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 住まいの防火2001 「住宅防火フォーラム in TOKYO」 平成13年秋季全国火災予防運動に対する協 力について・消防予第290号 (平13・8・22)	帝人 (株) 産業資材技術センター 鈴木 東義 消防庁  住宅防火対策推進協議会・消防庁

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		火災からあなたを守る「防災製品」のシンボルマークを大募集！ 第6回防災まちづくり大賞 大募集！ 防災製品の性能試験、防災製品ラベル交付に関する手数料規程の改正について 防災加工専門技術者講習実施予定表（平成13年度） <消費者の目・32>メガネのアンケート 第3回予防広報委員会開催 <介護は愉し・2>あそこに海がある！ 消防関係専門紙（誌）代表者との第3回懇談会を開催 防災表示の信頼性を確かなものに 消防防災機器の開発等及び消防防災科学論文募集要領 「防災製品6点セット」を、和歌山県から沖縄県までの消防署及び出張所へ寄贈 平成13年度消防機器等関係者表彰式の開催 スウェーデンからの便り 防災今昔ものがたり（10） 腰を据える	（財）日本防災協会  主婦連合会事務局長 吉岡 初子  元家庭裁判所調査官 正木信二郎  消防研究所  友子・ハンソン 酒向みゆき
148	平成13.11.25	最近の繊維について（2） ナイロンを中心にーISO/TC94/SC14（消防士用個人防護装備）ロンドン会議の報告 海外における繊維製品の防火規制・防災規格ーカナダの防火規制・防災規格ー ISO11612とISO11613 防災物品のリサイクルに関して 着衣の燃焼性に関する調査研究 平成13年度防災加工専門技術者講習合格発表（東京・大阪会場） <消費者の目・33>「裁判員制度」について 国際福祉機器展に、住宅防火対策推進協議会として出展 米国の住宅火災統計ーCPSCの報告書からー <介護は愉し・3>痴呆の母の幼児返り スウェーデンからの便り 防災製品の性能試験・防災ラベル交付等に関する手数料規程	東レ（株）ナイロンフィラメント技術部長 佐藤 晃一 （財）日本防災協会技術部長 太田 克海  共成（株）代表取締役社長 鷲山 茂雄 （財）日本防災協会技術部長 太田 克海 東京消防庁  主婦連合会事務局長 吉岡 初子  元（財）日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄 元家庭裁判所調査官 正木信二郎 友子・ハンソン
149	平成14.2.25	消費者の期待に応える品質管理の信頼性 <平成14年 新年親睦会> 最近の繊維について（3） アクリル系を中心にー住宅火災の実態について（平成12年中） <介護は愉し・4>愉しい介護は“介護の社会化”から スウェーデンからの便り 防災自動車用ボディカパーの経年変化（屋外暴露）について 海外における繊維製品の防火規制・防災規格ーイギリスの防火規制・防災規格ー	鐘淵化学工業（株）カネカロン技術開発グループ 吉田 明夫 消防庁予防課 元家庭裁判所調査官 正木信二郎 友子・ハンソン （財）日本防災協会技術部長 太田 克海

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		英国の住宅火災統計 ―英国消防庁の報告から― 平成13年度防災加工専門技術者講習合格者発表 (大阪会場) 防災関係業界功労者表彰式及び祝賀会を開催 防災今昔ものがたり (11) 防災10年、20年、30年そして40年 事故災害に備える特別展	元 (財) 日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄  酒向みゆき
150	平成14.5.25	最近の繊維について (4) ―天然繊維 (植物成繊維) を中心に― 防災物品による火災抑制の実態 消防法の一部を改正する法律案の概要について 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ―ドイツの防火規制・防災規格― 発明と人間の尊厳 米国マットレス基準の最近の動き 「防災製品シンボルマーク」決定のお知らせ 「知っておきたい、防火の知識」―住宅防火展の開催― 私の安全は私が守る 平成13年度消防関係業界功労者表彰式の開催 ラベル交付枚数の推移 (防災物品・防災製品) 防災加工専門技術者講習実施予定表 (平成14年度) 防災加工専門技術者再講習実施予定表 (平成14年度) 第2回消防研究所シンポジウム―消火設備の科学技術と基準― 平成14年度事業計画 スウェーデンからの便り	東洋紡績 (株) テキスタイル商品開発センター部長 谷田 光雄 東京消防庁予防部調査課 消防庁  共生国際特許事務所所長・弁理士 瀬谷 徹 元 (財) 日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄  大阪市住宅防火対策推進協議会 大妻女子大学家政学部被服学科  友子・ハンソン
151	平成14.8.25	お年寄りに安全な地域づくり ～理事長就任の挨拶～ 最近の繊維について (5) ―ポリプロピレンを中心に― ISO/TC94/SC13/SC14 ベルリン国際会議 報告 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ―欧州 (EU) の防火規制・防災規格― 奈良東大寺修二会に用いられる紙衣と防災性 消防防災機器の開発等および消防防災科学論文募集要領 IFCAA'02 京都国際防災展へ出展 シンボルマーク付き防災製品ラベルの交付を開始しました 第7回防災まちづくり大賞 大募集! 特許の歴史 “着衣着火に注意” ―衣類の燃焼性について― 防災 (難燃性) 衣料品の商品テストを実施して 第41回火災科学セミナーの開催について 英国の家庭内事故と消費者行政について	(財) 日本防災協会理事長 渡辺 明 三菱レイゾン (株) 繊維消防事業部加工工担当部長 兒子 益久 消防研究所 箭内 英治 帝人 (株) 山元 由江  大妻女子大学非常勤講師 平井 郁子 〃 名誉教授 軍司 敏博 消防研究所  共生国際特許事務所所長・弁理士 瀬谷 徹 秋田県生活センター 大分県ひびき会 (商品研究会) (社) 日本火災学会 元 (財) 日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		スウェーデンからの便り 防災加工専門技術者講習実施予定表（平成14年度） 防災加工専門技術者再講習実施予定表（平成14年度） 平成14年度消防機器等関係者表彰式の開催	友子・ハンソン
152	平成14.11.25	創立40周年記念祝賀会開催 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ーフランス・スイスの防火規制・防災規格ー 委託調査研究の概要 実大規模燃焼実験に 難燃杉材の燃焼性状に関する研究 平成14年度防災関係業界功労者表彰式 特許と財産 平成14年秋季全国火災予防運動に対する協 力について・消防予第252号（平14・8・22） スウェーデンからの便り 「家族で学ぼう、住まいの防火」ー住宅防火展の開催ー 住宅防火対策推進協議会のホームページ更新！ 平成14年度防災加工専門技術者講習合格者発表（東京・大阪会場） <ひとりむすめの介護日記・1>母のたたかいが始まる	消防研究所 箭内 英治 共生国際特許事務所所長・弁理士 瀬谷 徹 友子・ハンソン 大阪市住宅防火対策推進協議会 フリーライター やまもと きね
153	平成15.1.31	住宅防火対策に、さらなる防災品の普及・ 促進を <平成15年賀詞交歓会> 住宅火災の実態について（平成13年中） 平成14年「消防に関する世論調査」について ロジャー・L・バーカー博士の来日講演 <ひとりむすめの介護日記・2>初めての介護保険 違反処理マニュアルの運用について 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ーイタリアの防火規制・防災規格ー スウェーデンからの便り 防災加工専門技術者講習実施予定表（平成15年度） 防災加工専門技術者再講習実施予定表（平成15年度） ぼくたち、未来もうえん隊 平成14年（1月～9月）における火災の概要 台湾との相互協力協約の締結 大阪技術部で「防災製品の受付」を開始	消防庁予防課 東京消防庁広報課 フリーライター やまもと きね 友子・ハンソン 小矢部市立大谷小学校6年防火プロジェクト
154	平成15.4.25	安全な社会の構築に向けて ー就任の挨拶ー 平成15年度事業計画及び予算決まる 消防組織法及び消防法の一部が改正される 平成14年度防災品ラベルの交付状況	(財)日本防災協会理事長 木下 英敏 (財)日本防災協会

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ー北欧諸国の防火規制・防災規格ー 特許・実用新案にみる防災・防火 防災加工専門技術者講習会等の開催について 防災製品販売促進策の提案 ISO9001、ISO14001について 平成14年度消防関係業界功労者表彰式の開催 第26回日本医学会総会展示会へ出展して 米国の一般衣料の可燃性基準改正予告 <ひとりむすめの介護日記・3>引越し スウェーデンからの便り 平成14年中における火災の概要	共生国際特許事務所所長・弁理士 瀬谷 徹  大妻女子大学家政学部被服学科 消防庁予防課国際規格対策官 菅原 賢  (財)日本防災協会九州事務所長 島野 均 元(財)日本防災協会理事兼技術部長 寺崎 秀雄 フリーライター やまもと きね 友子・ハンソン
155	平成15.7.15	平成14年度事業報告書及び決算報告書の概要 住宅・共同住宅の実効性のある防火安全対策の推進について HBCDに係る化審法の改正について 平成15年度防災加工専門技術者講習会の実施 平成15年度消防機器等関係者表彰式の開催 ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) ウィニペグ会議出席報告 ISO/TC94/SC13 (防護服) SC13ジュネーブ会議出席報告 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ーノルウェーの防火規制・防災規格ー 消防防災機器の開発等および消防防災科学論文を募集 <ひとりむすめの介護日記・4>生活にひそむ危険 スウェーデンからの便り ポリエステルカーテンの燃焼試験前処理(乾燥処理)について	共成(株) 代表取締役社長 鷺山 茂雄  ニチウラ千代田屋(株) 鈴木 裕生  消防研究所 フリーライター やまもと きね 友子・ハンソン
156	平成15.10.15	ブリヂストン工場火災からわかる防災の視点 「消防・救急に関する世論調査」について 平成15年度(財)日本宝くじ協会助成事業実施について 防災品ラベル交付業務に関するアンケート調査結果 平成15年度防災加工専門技術者資格証を交付 平成15年度防災加工専門技術者再講習会の実施 予防広報委員会開催される 防災製品のアンケート実施結果 神奈川県立高校家庭科教員夏季研修として 「防災に関する研修」を行う 海外における繊維製品の防火規制・防災規格 ーフィンランド・デンマーク・スウェーデンの防火規制・防災規格ー スウェーデンからの便り 協会本部事務所を移転	前消防庁次長 北里 敏明        友子・ハンソン

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
157	平成16.1.15	<p>年頭の辞            防災品の普及に、懸命の努力を &lt;平成16年 新年賀詞交歓会&gt;            防災製品認定委員会開催される            防災製品の認定更新規程            住宅防火対策の動向について            平成15年度防災加工専門技術者資格証を交付 (大阪会場)            2003東京国際消防防災展にて、防災製品の            燃焼比較実験行われる！            火災統計からみた防災物品の状況            平成15年度防災関係業界功労者表彰式開催される            家庭総合 家庭科レポート            防災加工専門技術者講習会等の開催について            海外における繊維製品の防火規制・防災規格            -オーストラリア・ニュージーランドの防火規制・防災規格-            クリーンライフビジョン21 2003年大阪大            会に「防災品」を展示</p>	<p>消防庁長官 林 省吾              防災製品認定委員会            消防庁防火安全室              消防研究所 鈴木 恵子              広島県立賀茂北高等学校              (財)日本防災協会大阪事務所 所長 広田 邦男</p>
158	平成16.4.15	<p>住宅防火対策と防災品の普及            平成16年度事業計画及び予算決まる            東京都火災予防条例に防災品の使用を規定            平成15年度防災品ラベルの交付状況            防災製品としての防火服がスタート            平成15年度消防関係業界功労者表彰式の開催            防災加工専門技術者講習会等の開催について            カナダ・アルバータ大学教授 J・D・デール博士が来日講演            スウェーデンからの便り            防災品Q&amp;A            私の提案 防災製品普及に向けて            海外における繊維製品の防火規制・防災規格            -中国・シンガポールの防火規制・防災規格-</p>	<p>消防庁防火安全室長 木原 正則                    友子・ハンソン              大妻女子大学家政学部被服学科</p>
159	平成16.7.15	<p>平成15年度事業報告及び決算の概要            防災性能確認に係る指定機関制度から登録機関制度へ移行            消防関係専門紙 (誌) 代表者との懇談会開催される            平成16年度消防機器等関係者表彰式を開催            ISO/TC94/SC14 第4回アデレード会議報告            CENエンスケデ会議出席報告            下関市「第16回防災フェア」で燃焼比較実験            防災加工専門技術者講習会等の開催について            消防防災機器の開発等及び消防防災科学論文募集要領            寝たばこ火災による死者の発生と寝具類の燃焼について</p>	<p>(株)赤尾 藤山 雅美            共成 (株) 鷺山 茂雄                消防研究所            東京消防庁消防科学研究所第二研究室</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		海外における繊維製品の防火規制・防災規格 －韓国の防火規制・防災規格－ スウェーデンからの便り	友子・ハンソン
160	平成16.10.15	『巻頭言』 防災製品を普及させよう 防災性能登録確認機関「第1号」として登録 平成15年中における住宅火災の実態について 国際福祉機器展で、防災品の燃焼比較実験！ 「防災フェア2004」展示会に出展 みんなで 守ろう わが家 わがまち 平成16年（1月～6月）における火災の概要（概数） （財）日本宝くじ協会の助成を得て、「防災 製品」を消防本部・消防署所に配布 お年寄りに防災製品「割烹着」を贈呈 防災加工専門技術者再講習会等の開催について 平成16年度防災加工専門技術者資格証を交付（東京会場） 次世代防火服研究会で検討を開始 （社）全国消防機器協会に「社会貢献委員会」を設置 協会ホームページをリニューアル 防災薬剤HBCDが第1種監視化学物質に指定される 平成15年度事業報告の概要 平成15年（1月～12月）における火災の状況（確定値）	東京大学名誉教授・東京理科大学教授 菅原 進一  (財) 日本防災協会北海道事務所 相生 武志
161	平成17.1.15	年頭の辞 防災品普及方策の推進を <平成17年 新年賀詞交歓会> 第1回防災品普及方策検討委員会開催される 平成16年度防災関係業界功労者表彰式開催される 平成16年度防災加工専門技術者資格証を交付（大阪会場） 平成17年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 「じゅうたん等」防災ラベル仕様・価格の変更について 防災椅子の採用事例 平成16年版消防白書報告される 第4回消防研究所シンポジウム 「ISO/TC94/SC14及びWG国際会議」開催について JAPANTEX2004に出展 防災品を寄贈した消防本部から礼状が届く 京都事務所を移転	消防庁長官 林 省吾
162	平成17.4.15	『巻頭言』 「防災」と「防災」 平成17年度事業計画及び予算決まる 平成16年度防災品ラベルの交付状況 婦人防火クラブ員に対するアンケート調査概要とまる	毎日新聞社編集委員 田中 公明  防災品普及方策検討委員会

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		平成17年度防災加工専門技術者講習会等の開催について カーテンの試験番号の表示が変わります <消防庁長官表彰>平成16年度消防関係業界表彰式開催される ISO/TC94/SC14 第5回東京会議報告 試薬「メセナミン」の提供について 火災統計からみた防災物品の状況（その2） 「地域衛星通信ネットワーク」で防災普及を図る 「防災研修を終えて」防災品の偉力を届けたい アメリカ映画「炎のメモリアル」（財）全国消防協会が推薦を決定！	東京会議事務局 消防研究所 鈴木 恵子 大妻女子大学家政学部被服学科
163	平成17.7.15	『巻頭言』住宅防火の第一歩は「火災の怖さを知る」ことから 平成16年度事業報告書及び決算報告書の概要 <（社）全国消防機器協会>平成17年度消防 機器等関係者表彰式開催される 防災品に関するアンケート調査について 消防関係専門紙（誌）代表者との懇談会が開催される インターシュッツ/インターポリス2005視察報告  AFICに参加して 次世代防火服の研究について 防災物品リサイクルの取り組みについて 平成17年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 第1回「さっぽろ防災フォーラム」に出展 ぼうさいってなあに？ 安全衛生総合展で、防災品の燃焼比較実験！	東京大学大学院教授 関澤 愛  防災品普及方策検討委員会 神奈川大学総合理学研究所 河村 正一 アゼアス（株）代表取締役社長 鈴木 裕生 （財）日本防災協会理事・技術部長 小川 孝裕 （財）日本防災協会技術部 鍋倉 弘 （財）日本防災協会技術部長 小川 孝裕  （財）日本防災協会北海道事務局長 相生 武志
164	平成17.10.15	『巻頭言』高齢者世帯の火災安全 ―高齢 者専用住宅の火災実態調査から 日本防災協会に杉村理事長就任 カーテン・暗幕の浸漬法による防災二次加工の解禁について （財）日本宝くじ協会助成事業 「防災製品」 を消防本部・消防署所に配布 お年寄りに防災製品「割烹着」を贈呈 国際福祉機器展 防災品の燃焼比較実験！ ISO/TC94/SC13 デルフト会議報告  愛犬にも安全な防災服を  防火服の防災製品認定品第一号初めて採用される！ 札幌市における防災品の普及啓発の取り組みについて	早稲田大学教授 長谷見雄二  神奈川大学総合理学研究所 河村 正一 アゼアス（株）社長 鈴木 裕生 （財）日本防災協会理事兼技術部長 小川 孝裕 東京田中短期大学教授 牟田 緑 〃 講師 三澤佐和子  札幌市消防局予防部指導課

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>「防災物品」、「防災製品」とアスベスト（石綿）について            防災品の燃焼比較実演用布片を配布            平成17年度防災加工専門技術者講習会等の開催について            平成17年度防災加工専門技術者資格証を交付（東京会場）            スウェーデンからの便り            平成16年（1月～12月）における火災の状況（確定値）            平成17年秋季全国火災予防運動に対する協力について</p>	<p>友子・ハンソン            消防庁            消防庁</p>
165	平成18.1.15	<p>年頭の辞            「防災」に夢を託して&lt;平成18年 新年賀詞交歓会&gt;            共同住宅における高齢居住者の火災安全            シルバーピアにおける火災実態調査結果から－            平成17年度防災関係業界功労者表彰式開催される            防災品の普及啓発について            予防広報委員会開催される            防災品を寄贈した消防本部から礼状が届く            主婦連の歩みと防災の普及啓発            浴衣など防災製品の普及を図る            平成17年度防災加工専門技術者資格証を交付（大阪会場）            防災品の普及活動とその結果－文化の日の展示会から－            「クリーニング総合展」に防災品コーナー出展            「防災てなんでっか？」－            第24回インテリアトレンドショー            JAPANTEX2005に出展            防災に関する作文を募集</p>	<p>消防庁長官 板倉 敏和            (財)日本建築センター 古川 容子            青森地域広域消防事務組合消防本部予防課            仙台市消防局            主婦連合会事務局長 佐野真理子            埼玉県坂戸市婦人防火クラブ            (財)日本防災協会名古屋事務所            (財)日本防災協会大阪事務所            (財)日本防災協会広報室</p>
166	平成18.4.15	<p>『巻頭言』人と環境にやさしい防災製品を目指せ            平成18年度事業計画及び収支予算決まる            欧州における防災品の規制及び普及の最新動向について            &lt;消防庁長官表彰&gt;平成17年度消防関係業界            功労者表彰式の開催            火災統計からみた防災物品の状況（その3）            奏効事例            奏効事例            &lt;消防本部だより&gt; 防災品の普及を図る            ウィンドウディスプレイ「人へのやさしさ            ～衣～ 人をまもる」を実施して            「防災研修を終えて」 防災に夢を            福岡市介護実習センターに防災品展示            市民とともに雪像制作</p>	<p>大妻女子大学家政学部教授 中村 邦雄            東京大学大学院教授 関澤 愛            “ 助手 小林 将之            大成建設（株）技術センター 小林 裕            消防研究所 鈴木 恵子            福知山市消防本部            名古屋市緑消防署            岩手県宮古地区広域行政組合消防本部            文化女子大学大学院教授 田村 照子            大妻女子大学家政学部被服学科            (財)福岡市民福祉サービス公社            札幌市消防局</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		大阪事務所・大阪試験室を統合移転します 平成17年度防災品ラベルの交付状況 平成18年度防災加工専門技術者講習会等の開催について JAPANSHOP2006の出展報告について 協会ホームページへのアクセスの新設 平成17年版消防白書から	
167	平成18.7.15	『巻頭言』 防災化を住宅防火の切り札に 認知症高齢者グループホーム等における防火安全対策について 公演中の劇場から出火した火災概要について 優良防火対象物認定表示制度の創設 一火 災予防条例の一部改正一 ＜消防本部だより＞ 「災害に強いまち ちば」 「認知症高齢者グループホーム防火安全対策研修会」を実施 消防関係専門紙（誌）代表者との懇談会が開催される 「防災ポスター」配布のお知らせ 平成18年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 防災に関する質問コーナーを開設・防災に関する作文の募集 北海道事務所を移転 ヨコハマセーフティフェア '06に出展して 平成17年度事業報告書及び決算報告書の概要 平成17年（1月～12月）における火災の状況（確定値）	消防大学校消防研究センター所長 室崎 益輝 消防庁予防課設備係長 伊藤 要 東京消防庁京橋消防署予防課長 岡 秀樹 東京消防庁予防部予防課  千葉市消防局 札幌市消防局  消防庁
168	平成18.10.15	『巻頭言』 自分の身は自分で守る アメリカの防災寝間着等を取り巻く実態について 防災品販売に関する調査結果について 「防災ポスター」配布のお知らせ 着衣着火について ＜消防本部だより＞ 市民に受け入れられる住宅防火対策を 「消費生活展で防災製品を紹介」 防災製品として、タオル、カーシートカバー、 ベッド（スプリングマットレス）を認定 予防広報委員会開催される （財）日本宝くじ協会助成事業 「防災製品」 を消防本部・消防署所に配布 平成18年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 平成18年度防災加工専門技術者資格証を交付（東京会場） 防災に関する質問コーナーを開設・防災に関する作文の募集	消防庁審議官 寺村 映 東京消防庁小岩消防署篠崎出張所長 清水真知子  神戸市消防局予防部予防課調査係 南 博 高山市消防本部 北海道白老町消防本部
169	平成19.1.25	年頭の辞 「防災」の夢を語ろう	消防庁長官 高部 正男 （財）日本防災協会理事長 杉村 哲也

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>防災の新たな取り組み ー住宅火災の低減へー&lt;平成19年 新年賀詞交歓会&gt;</p> <p>平成18年度防災関係業界功労者表彰式開催される</p> <p>&lt;(社) 全国消防機器協会&gt;平成18年度消防機器等関係者表彰式開催される</p> <p>中国の新国家基準「GB」施行に伴う内装材料の難燃(防災)化について</p> <p>消防・救急・防災フェアを開催しました</p> <p>地域・社会の力を活かした防火安全対策</p> <p>鎮火後に残存している燃焼生成ガス</p> <p>横浜市の火災の実態</p> <p>&lt;消防本部だより&gt; 市民に受け入れられる住宅防火対策を</p> <p>火災事例「え！電話線が燃えるの？」</p> <p>防災品を寄贈した消防本部から礼状が届く</p> <p>平成18年度防災加工専門技術者資格取得者(大阪会場)協会ホームページにリンクのお願い</p>	<p>丸菱油化工業(株)取締役・東京支店長 大塚 稔</p> <p>埼玉県危機管理防災部消防防災課予防担当 眞砂 和彰</p> <p>京都市消防局予防部</p> <p>札幌市消防局 川瀬 信</p> <p>〃 溜 真紀子</p> <p>〃 橋本 好弘</p> <p>北海道大学工学部 早坂 洋史</p> <p>横浜市安全管理局</p> <p>川崎市消防局</p> <p>東京消防庁浅草消防署</p>
170	平成19.4.15	<p>『巻頭言』 安全、安心なくらし</p> <p>&lt;政令指定都市の予防行政&gt; 防災行政に感じること</p> <p>危機管理感覚を育てるアメリカの防火教育</p> <p>ISO/TC94/SC13(防護服)韓国ソウル会議と韓国防炎事情</p> <p>CENウィーン会議報告</p> <p>防災薬剤「HBCD」の自主管理計画キックオフ大会開催</p> <p>&lt;消防庁長官表彰&gt;平成18年度消防関係業界功労者表彰式の開催</p> <p>&lt;消防本部だより&gt; 「安心・安全なまちづくりをめざして」</p> <p>防災製品「割烹着」の贈呈について</p> <p>「キャラバン隊が行く」布張家具部会の活動紹介</p> <p>住宅防火対策のさらなる推進に関する具体的実践方策等について・消防予第101号(平19・3・20)</p> <p>防災品の普及啓発用ビデオ(DVD)及び住宅防火情報について</p> <p>平成19年度事業計画及び収支予算決まる</p> <p>防災物品及び防災製品に係る性能試験手数料等の改定について</p> <p>平成19年度防災加工専門技術者講習会等の開催について</p> <p>平成18年度防災品ラベルの交付状況</p> <p>大阪試験室でカーテンの洗濯試験を開始</p>	<p>主婦連合会会長 兵頭美代子</p> <p>堺市高石市消防組合予防部長 西本 義美</p> <p>在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課課長 長谷川祐子</p> <p>消防大学校消防研究センター 箭内 英治</p> <p>共成(株)取締役社長 鷺山 茂雄</p> <p>(財)日本防災協会技術部長 小川 孝裕</p> <p>共成(株)取締役社長 鷺山 茂雄</p> <p>広島市消防局</p> <p>名古屋市消防局</p> <p>(財)日本防災協会布張家具部会</p> <p>消防庁予防課</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆 者 名 等
171	平成19.7.15	<p>『巻頭言』 もっと普及させたい防災製品 日本防災協会に澤井理事長就任 &lt;政令指定都市の予防行政&gt; ～6つの目標～ 住宅火災における防災対象品などの出火箇所、発火源について ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) 米国ミネソタ会議</p> <p>東京ガスの安全・防災対策 ひだホテルプラザの防災事情 &lt;消防本部だより&gt; 「災害に強い地域づくり」を進めて &lt;(社) 全国消防機器協会&gt;平成19年度消防 機器等関係者表彰式開催される 平成18年度事業報告書及び決算報告書の概要 JAPANSHOP2007に出展して 平成19年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 平成18年(1月～12月)における火災の状況(確定値)</p>	<p>国際医療福祉大学大学院教授 野村 勲</p> <p>新潟市消防局予防課長 上ノ山 徹 消防研究センター大規模火災研究室室長 箭内 英治 共成(株) 鷺山 茂雄 消防研究センター 箭内 英治 (株)赤尾 北村 智 東京ガス(株) 防災・供給部 菜花 健一</p> <p>福岡市消防局</p> <p>消防庁</p>
172	平成19.10.15	<p>『巻頭言』 安心して暮らせる社会 &lt;政令指定都市の予防行政&gt; さいたま市における防災行政 米国、カナダにおける防災品の規制及び普 及の最新動向について 住宅防火対策(着衣着火)について 「防災研修を終えて」 私達の防災普及の夢・1 &lt;消防本部だより&gt; 「まもる明日・つなぐ命・ つくる未来 私たちのまち宇都宮」 次世代防火服の開発 イスタンブール消防署を訪ねて 消防学校に防災講座開設のための検討会を設置 「防災ポスター」作成・配布のお知らせ 予防広報委員会開催される 平成19年度防災加工専門技術者講習会等の開催について (財)日本宝くじ協会助成事業 「防災製品」 を消防本部・消防署所に配布 消防関係専門紙(誌)代表者との業務説明会が開催される 防災に関する質問コーナーを開設・防災に関する作文の募集 2007なごやの消防・防災展</p>	<p>千葉科学大学学長 平野 敏右 さいたま市消防局予防部長 白井 正雄 東京大学大学院・消防防災科学技術寄付講座教授 関澤 愛 大阪市消防局予防部予防担当主任 松田 光弘 大妻女子大学家政学部被服学科 宇都宮市消防本部</p> <p>(財)日本防災協会 小川 孝裕 松本 和江</p> <p>(財)日本防災協会名古屋事務所</p>
173	平成20.1.25	<p>年頭の辞 防災品のさらなる品質管理と普及拡大に向 けて&lt;平成20年 新年賀詞交歓会&gt; 平成19年度防災関係業界功労者表彰式開催される &lt;政令指定都市の予防行政&gt; ～7つの区 みんなで防火を やらまいか～</p>	<p>消防庁長官 荒木 慶司</p> <p>浜松市消防本部消防次長兼予防課長 野倉 正道</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>アメリカのベッド（マットレス）と布張家具への法規制について</p> <p>突然のとき、着衣が身を護ってくれたら・・・</p> <p>防災製品として、「木製等ブラインド」を認定開始、現行防火服A-Ⅱ型及びB-Ⅱ型に加えて、新たに防火服A-Ⅰ型及びB-Ⅰ型を認定</p> <p>&lt;消防本部だより&gt; 「安心・安全な街づくりをめざして」</p> <p>「防災研修を終えて」 私達の防災普及の夢・2</p> <p>防災講座のあり方に関する委員会報告される</p> <p>JAPANTEX2007に出展して</p> <p>展示会への出展のお知らせ</p>	<p>在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課長 長谷川祐子</p> <p>燃えない衣料普及の会代表 小多由美子</p> <p>宮崎市消防局 大妻女子大学家政学部被服学科</p>
174	平成20.4.15	<p>『巻頭言』 環境問題と火災予防</p> <p>&lt;政令指定都市の予防行政&gt; 「焼死者防止対策の推進」</p> <p>住宅火災死者のグループ化からみた対策と普及方策</p> <p>婦人防火クラブの運営にあたって</p> <p>&lt;消防本部だより&gt; 「『人が輝く北の文化のかおるまち』 ～市民が安心して暮らせるまちづくりをめざして」</p> <p>(株) セシールの通信販売カタログに防災カーテンを掲載</p> <p>&lt;消防庁長官表彰&gt; 平成19年度消防関係業界 功労者表彰式の開催</p> <p>平成20年度事業計画及び収支予算決まる</p> <p>平成20年度防災加工専門技術者講習会等の開催について</p> <p>防災に関する質問コーナーを開設・防災に関する作文の募集</p> <p>平成19年度防災品ラベルの交付状況</p> <p>JAPANSHOP2008に出展して</p> <p>平成19年版消防白書から</p>	<p>横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 大谷 英雄</p> <p>北九州市消防局予防部長 龍角 英治</p> <p>消防庁消防技術政策室主任研究官 鈴木 恵子</p> <p>千葉県婦人防火クラブ連絡協議会会長 竹内 久子</p> <p>旭川市消防本部</p>
175	平成20.7.15	<p>『巻頭言』 住宅防火対策と防災品への期待</p> <p>&lt;政令指定都市の予防行政&gt; 住宅防火対策に防災化を 着衣着火の危険性</p> <p>いざと言うときの「防災用品」～どんなものを選びますか?～</p> <p>&lt;消防本部だより&gt; 安らぎと潤いのある環 境都市～災害に強いまちを目指して～</p> <p>ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) 英国リンカーン会議</p> <p>「防災研修を終えて」 防災協会で学んだこと・1 防災講座の開講について</p> <p>&lt;(社) 全国消防機器協会主催&gt;平成20年度 消防機器等関係者表彰式開催される</p> <p>平成20年度防災加工専門技術者講習会等の開催について</p> <p>平成19年度事業報告書及び決算報告書の概要</p> <p>東京国際消防防災展2008に出展して</p>	<p>危険物保安技術協会理事 小林 恭一</p> <p>千葉県消防局予防部長 飯塚 正則</p> <p>東京消防庁消防技術安全所</p> <p>埼玉県消費生活支援センター</p> <p>長崎市消防局</p> <p>共成(株) 取締役社長 鷺山 茂雄</p> <p>大妻女子大学家政学部被服学科</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
176	平成20.10.15	<p>『巻頭言』 次世代防火服の開発に向けて          &lt;政令指定都市の予防行政&gt; 市民と協働して育てる防災意識          地域における放火対策          奏効事例          「防災研修を終えて」 防災協会で学んだこと・2          &lt;消防本部だより&gt; 「誰もが安全で安心して          くらせるまち 宇治」を目指して          予防広報委員会開催される          防災品の適切な使用のお願い ～防災品を、          天ぷら火災の消火用として使わないで～          「防災ポスター」作成・配布のお知らせ          平成20年度防災加工専門技術者講習会等の開催について          平成20年度防災加工専門技術者資格証を交付（東京会場）          (財)日本宝くじ協会助成事業 「防災製品」          を消防本部・消防署所に配布          消防関係専門紙（誌）代表者への業務説明会が開催される          消防庁告示に定める「同等以上の洗濯性能          を有する方法」に関する報告          自治体消防制度60周年記念事業 「消防士・消防団員を          主人公とした漫画・ビデオの募集」について          平成19年（1月～12月）における火災の状況（確定値）</p>	<p>文化・衣環境学研究所所長 田村 照子          静岡市消防防災局参与兼予防課長 平野 雅俊          川口市消防本部予防課          東京消防庁浅草消防署          大妻女子大学家政学部被服学科          宇治市消防本部</p> <p>消防庁          消防庁</p>
177	平成21.1.23	<p>年頭の辞          “防災事業の充実による安心・安全な社会の          構築” &lt;平成21年 新年賀詞交歓会&gt;          &lt;政令指定都市の予防行政&gt; 防災化のさらなる推進を          平成20年度防災関係業界功労者表彰式開催される          住宅火災の実態と高齢者に係る住宅防火対策          埼玉県婦人防火クラブ連絡協議会の活動について          ISO/TC94/SC14（消防隊員用個人防護装備）          フィンランド・ヘルシンキ会議          &lt;消防本部だより&gt; 「安全・安心 日本一の          まちづくり」を目指して          奏効事例          奏効事例          危険！着衣着火に注意 一未然防止には防災製品が効果的－          (国民生活センターの商品テスト結果報告書)          平成20年度防災加工専門技術者資格証を交付（大阪会場）          JAPANTEX2008に出展して</p>	<p>消防庁長官 岡本 保          仙台市消防局警防部予防課長 鳥山 啓一          東京消防庁防災部生活安全課          埼玉県婦人防火クラブ連絡協議会          小林防火服（株）代表取締役 小林寿太郎          松山市消防局          北海道恵庭市消防本部          名古屋市天白消防署</p>
178	平成21.4.15	<p>『巻頭言』 「市民の信頼と人材育成」          &lt;政令指定都市の予防行政&gt; 住宅防火対策          と防災品の普及促進に向けて</p>	<p>千葉市消防局長 北山 洋一          川崎市消防局総務部長 福井 昭久</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>「防災研修を終えて」 防災協会で学んだこと 奏効事例 &lt;消防本部だより&gt; 「安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して」 北海道内における防災思想の普及啓発への取り組み &lt;消防庁長官表彰&gt; 平成20年度消防関係業界 功労者表彰式の開催 平成21年度事業計画及び収支予算決まる 平成20年度「防災講座」の開講結果について 平成20年度防災品ラベルの交付状況 平成21年度防災加工専門技術者講習会等の開催について</p>	<p>大妻女子大学家政学部被服学科 三多摩室内装飾事業協同組合 奈良市消防局 (財) 日本防災協会前北海道事務所長 相生 武志</p>
179	平成21.7.15	<p>『巻頭言』 未来につなぐ「安全で安心なまちの共創」 &lt;政令指定都市の予防行政&gt; 防火安全対策の推進 &lt;消防本部だより&gt; 「安全に暮らせる社会の実現」を目指して ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) ドイツ・ベルリン会議 &lt;(社) 全国消防機器協会&gt;平成21年度消防 機器等関係者表彰式開催される 防災技術講座 (1) 平成20年度事業報告書及び決算報告書の概要 防災製品として「活動服」及び「災害用間 仕切り等」を認定開始 「平成21年度住宅防火対策推進シンポジウ ム」の開催予定について 「平成21年度防災講座」の開講予定について 平成21年度防災加工専門技術者講習会等の開催について</p>	<p>北九州市消防局長 山家 桂一 岡山市消防局次長 藤原 文也 富山市消防局 (株) 赤尾 石川 修作 アゼアス (株) 野原由樹子 (財) 日本化学繊維検査協会 三橋 卓也 前 (株) 川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄</p>
180	平成21.10.15	<p>『巻頭言』 人間工学と防災製品 &lt;政令指定都市の予防行政&gt; 名古屋市の予防行政 &lt;消防本部だより&gt; 「家族・地域の絆を築き、 安全・安心なまちづくり」を目指して 奏効事例 婦人防火クラブを対象にした防災講座 防災技術講座 (2) 防災製品関係規程・基準が全面的改正、施行 新防災製品「災害用間仕切り等」、「活動服」 の認定申請の受付開始 消防関係専門紙 (誌) 代表者への業務説明会が開催される 予防広報委員会開催される (財) 札幌市防災協会において防災品の展示・販売がスタート 平成21年度防災加工専門技術者講習会の開催について</p>	<p>九州大学大学院教授 梶原 裕 名古屋市消防局予防部長 宮崎 隆男 秋田市消防本部 神戸市消防局 (財) 日本防災協会大阪事務所長 黒田 友久 前 (株) 川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		平成21年度防災加工専門技術者資格証を交付（東京会場） (財)日本宝くじ協会助成事業「防災製品」 を消防本部・消防署所に配布 防災品の購入・使用についてのご意見募集 「防災ポスター」作成・配布のお知らせ 平成20年（1月～12月）における火災の状況（確定値）	消防庁
181	平成22.1.25	年頭の辞 防災品の普及拡大と新法人に向けての新たな取り組み<平成22年 新年賀詞交歓会> <政令指定都市の予防行政> 大阪市の予防行政 〈消防庁長官表彰〉平成21年度消防関係業界 功労者表彰式開催される 平成21年度防災関係業界功労者表彰式開催される 防災対象品と住宅火災における死者について ISO/TC94/SC14/WGs（消防隊員用個人防護装 備）米国ノースカロライナ州・シャーロット会議 <消防本部だより> 「生命都市いきいき前 橋」の実現を目指して 防災技術講座（3） (財)札幌市防災協会における防災品の販売状況 舞台幕の出火にご注意！ 平成22年度の防災講座の開講のご案内 防災品普及促進・検証モデル事業スタート 平成21年度防災加工専門技術者資格証を交付（大阪会場） JAPANTECH2009出展報告 防災品を購入してー消費者の方からのご意見ー	消防庁長官 河野 栄 大阪府消防局予防部長 和田 敏章 東京大学大学院・消防防災科学寄附講座教授 関澤 愛 (財)日本防災協会技術部試験室 箭内 英治 小林防火服(株) 小林寿太郎 (株)赤尾 石川 修作 前橋市消防局 前(株)川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄 (財)日本防災協会北海道事務所
182	平成22.4.15	『巻頭言』 地域と連携した住宅防火対策 防災製品普及に向けた座談会 <予防行政の取り組み紹介> 札幌市の予防行政 わが社の品質管理 防災技術講座（4） ナノテク防火服の開発報告ー将来の消防 用防護装備を見据えてー 防災の研修を終えて	さいたま市消防局長 大木 充生 東京消防庁参事兼予防課長 阿部 勝男 千葉県消防局予防部長 石井 幸一 埼玉県婦人防火クラブ連絡協議会会長 新井 明子 東京理科大学大学院教授 菅原 進一 東京大学大学院教授 関澤 愛 NHK解説副委員長 山崎 登 (財)日本防災協会常務理事 梅原 直 札幌市消防局予防部長 中村富美雄 東京ホールセール(株)工場次長 林野 隆二 前(株)川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄 消防庁消防大学校消防研究センター 大妻女子大学家政学部被服学科

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		防災製品取扱店舗紹介 介護用品取扱店で 防災製品を展示・販売 防災品取扱店舗情報の提供について 標準処理期間公表について 平成22年度事業計画及び収支予算決まる 平成21年度防災品ラベルの交付状況 登録表示者及び認定事業者の定期調査について 品質管理本部の設置について 平成21年度「防災講座」の実施結果等について 平成22年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 消防防災機器の開発等、消防防災科学論文 及び原因調査事例の募集要領 防災品を購入して ー消費者の方からのご意見ー	光田屋 (株) (愛知県新城市)  消防庁消防大学校消防研究センター
183	平成22.7.15	『巻頭言』 小規模建物火災での被害軽減のための防災対策 <予防行政の取組み紹介> 高松市消防局に おける予防行政への取組み 商品・サービスの安全・安心への取組み ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) ニュージーランド・ウエリントン会議  防災技術講座 (5) 奏効事例 消防関係専門紙 (誌) 代表者への業務説明会が開催される 平成21年度事業報告書及び決算報告書の概要 箭内英治氏が平成22年度日本火災学会賞受賞 平成22年度防災講座の開催予定について 平成22年度住宅防火対策推進シンポジウム の開催計画について 防災製品認定委員会の開催	東京大学消防防災科学寄付講座特任教授 山田 常圭 高松市消防局予防課  (株)ダスキン開発研究所 永浜 勇二 消防庁消防研究センター 若月 薫 消防庁消防・救急課 勇勢欣一郎 小林防火服 (株) 小林寿太郎 前 (株)川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄 大阪市消防局
184	平成22.10.15	『巻頭言』 防災製品普及にマーケティングの発想を <予防行政の取組み紹介> 相模原市の予防行政 世界に冠たる「先端ファブリックメーカー」となるために 認知症高齢者グループホーム等の安全安心確保の取組み 協会研修に参加して 防災技術講座 (6) 国民生活センターが防災頭巾の商品テスト結果を公表 宝塚大劇場観客席に防災製品が採用されました 「防災広報ポスター」作成・配布のお知らせ 防災製品「マット類」の認定開始 防災物品関連規程等の改正及び制定について	東京理科大学大学院教授 関澤 愛 相模原市消防局参事兼予防課長 井上 仁志 小松精練 (株) 取締役専務執行役員 高木 泰治 札幌市消防局予防部 大妻女子大学家政学部被服学科 前 (株)川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		防災モニター制度 防災性能登録確認機関の更新について 予防広報委員会開催される 平成22年度防災加工専門技術者講習会の開催について(大阪会場) 平成22年度防災加工専門技術者資格証を交付(東京会場) 平成21年(1月～12月)における火災の状況(確定値)	消防庁
185	平成23.1.25	年頭の辞 平成23年 新年賀詞交歓会開催 <予防行政の取組み紹介> 京都市の予防行政 ファブリックスクリーン類の防災製品と品質管理 防災技術講座(7) ISO/TC94/SC14/WGs(消防隊員用個人防護装備)日本・東京会議 「たばこ火災被害の低減対策に関する協議会」について 奏効事例 平成22年度防災関係業界功労者表彰式開催される <消防庁長官表彰>平成22年度消防関係業界功労者表彰式及び<(社)全国消防機器協会表彰>平成22年度消防機器等関係者表彰式開催される 宝くじ助成事業 燃焼比較実験資器材セットを配布 平成22年度防災加工専門技術者資格証を交付(大阪会場) JAPANTEX2010出展報告	消防庁長官 久保 信保  京都市消防局予防部長 一本木正行 (株)ニチベイ開発本部長 中島 明 前(株)川島織物セルコン技術顧問 永田 節雄 消防庁消防研究センター 若月 薫 小林防火服(株) 小林寿太郎 消防庁予防課課長補佐 竹村 好史 敦賀美方消防組合 三方消防署
186	平成23.4.15	『巻頭言』「市民と福岡を訪れる人々の安全のために」 <予防行政の取組み紹介> 横浜市の予防行政 安全・安心なものづくりと環境保全への取組み 防災講座を開催して…防災品の普及で火災防止… 日本初の防災ベッドが知恩院和順会館に採用 着衣着火にご用心 着衣着火に気をつけて 防災モニターアンケート結果 「災害用間仕切り等」の寄贈 「消防隊員用個人防火装備のあり方に関する検討会」について 部会の活性化と新しい部会制度について 手数料規程の見直しについて 防災品常設展示の紹介「福岡市民防災センター」 九州事務所の移転 平成22年度防災品ラベルの交付状況 平成23年度事業計画及び収支予算決まる 平成22年度登録表示者及び防災製品製造事業者に対する定期調査結果について	福岡市消防局予防部長 葛城 恵 横浜市消防局予防部長 高橋 規夫 トーソー(株)取締役製造本部長 林 淳之 千葉県婦人防火クラブ連絡協議会会長 竹内 久子  横浜市消防局神奈川消防署予防課 川崎市消防局  (財)日本防災協会

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		平成22年度「防災講座」の実施結果について 平成23年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 消防防災機器の開発等、消防防災科学論文 及び原因調査事例報告募集要領	消防庁消防大学校消防研究センター
187	平成23.7.15	『巻頭言』「一人ひとりが意識を高めて、安全・安心な社会を」 <予防行政の取組み紹介> 神戸市の予防行政 「顧客起点」-豊かな社会の実現のために-  飲食店等に対する防災物品、防災製品の使用促進について ISO/TC94/SC14(消防隊員用個人防護装備) ジュネーブ会議報告 防災技術講座(8)～薬剤編～ 寝具類の防災性能試験検証結果について 防災製品認定委員会開催 消防関係専門紙(誌)代表者への業務説明会開催 平成22年度事業報告書及び決算報告書の概要	主婦連合会会長 山根 香織 神戸市消防局予防部長 岡田 勇 アキレス(株)フィルム販売部部長 豊田 勝敏 品質保証推進部副部長 小島 和也 東京消防庁予防部予防課建築係 赤尾(株) 石川 修作 アゼアス(株) 熊谷 慎介 丸菱油工業(株) 研究本部主席研究員 菅 保一
188	平成23.10.17	『巻頭言』「地域のつながりが命を守る」 <予防行政の取組み紹介> 鳥取県西部地区の予防行政 「快適で安全・安心な居住空間の創造へ防災 商品への取り組み」 防災製品の有効性に関する検証結果 防災技術講座(9)～薬剤編～ 日本防災協会の研修に参加して 防災広報ポスター作成・配布のお知らせ 予防広報委員会開催される 防災製品「寝具類」の性能試験基準改正と「作 業服」「襖紙・障子紙等」の認定開始 じゅうたん等に係る指定検査機関制度の廃止について 平成23年度防災加工専門技術者講習会の開催について 平成23年度防災加工専門技術者修了証を交付(東京会場) 平成22年(1月～12月)における火災の状況(確定値)	元NHKキャスター 村松真貴子 鳥取県西部広域行政管理組合消防局予防課長 船越 聡 住江織物(株)商品部 山中 尚哉  東京消防庁防災部防災安全課 丸菱油工業(株) 研究本部主席研究員 菅 保一 大妻女子大学家政学部被服学科  消防庁
189	平成24.1.25	年頭の辞 平成24年 新年賀詞交歓会開催 <予防行政の取組み紹介> 千葉県松戸市の予防行政 わが社の環境及び安全・安心への取組みと 品質管理 防災技術講座(10)～薬剤編～ 着衣着火を防ぐために	消防庁長官 久保 信保  松戸市消防局参事兼予防課長 井田 一成 (株)川島織物セルコン テキスタイル商品部部長 友好 雅也 丸菱油工業(株) 研究本部主席研究員 菅 保一 札幌市消防局予防部予防課

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>〈消防庁長官表彰〉平成23年度消防機器開発普及          功労者表彰式及び〈(社)全国消防機器協会表彰〉          平成23年度消防機器等関係者表彰式開催される          平成23年度防災関係者表彰式開催される          JAPANTEX2011 出展報告          横浜市消防出初式2012参加報告          平成23年度防災加工専門技術者資格証を交付 (大阪会場)</p>	
190	平成24.4.16	<p>『巻頭言』東日本大震災への息ながい支援を忘れずに          &lt;予防行政の取組み紹介&gt; 熊本市消防局の予防行政          「簾」伝統の継承と、その防災と品質管理          防災技術講座(11)～薬剤編～          「連載1・私たちの安全な生活とは」高齢世帯急増の防災対策          ISO/TC94/SC14/WG's ロンドン会議に参加して          平成24年度事業計画及び収支予算決まる          日本盲人福祉委員会へ防災製品を贈呈          平成23年度防災品ラベルの交付状況について          平成24年度防災加工専門技術者講習会等の開催について          登録表示者及び認定事業者に関する定期調査について          平成24年度消防防災機器等の開発・改良、消防          防災科学論文及び原因調査事例報告応募要領</p>	<p>富士常葉大学大学院教授 重川希志依          熊本市消防局予防課長 三賀山賢正          井上スダレ(株)開発部リーダー 並河 大介          丸菱油工業(株)研究本部主席研究員 菅 保一          ノンフィクション作家 高見澤たか子          (一財)カケンテストセンター 三橋 卓也</p> <p style="text-align: right;">消防研究センター</p>
191	平成24.7.17	<p>『巻頭言』「これからは防災品の管理・普及を通じて安全・安心な社会の実現に貢献します。」          &lt;予防行政の取組み紹介&gt; 安全で安心できる          まちづくりにむけて          安全で快適な住空間への取り組みと環境配慮          「連載2・私たちの安全な生活とは」「地域」          ってどこのこと?          ISO/TC94/SC14(消防隊員用個人防護装備)          韓国・ソウル会議          公益財団法人移行後の協会業務について          &lt;(一社)全国消防機器協会表彰&gt;平成24年度          消防機器等関係者表彰式開催される          消防関係専門紙(誌)代表者への業務説明会開催          バリアフリー展2012大阪 出展報告          IFCAA2012札幌国際消防・防災展において          防災製品の展示広報を実施          平成23年度事業報告書及び決算報告書の概要          「防災講座」の平成23年度実施結果及び平成          24年度開催予定について          日本防災協会ホームページの更新について</p>	<p>(公財)日本防災協会理事長 澤井 安勇          福岡市消防局予防部長 古賀 信次          立川グランド工業(株)取締役製造部長 山本 浩司          ノンフィクション作家 高見澤たか子          アゼアス(株) 熊谷 慎介</p> <p style="text-align: right;">(公財)日本防災協会北海道事務所</p>

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		敬老の日に「火の用心」の贈り物 ～住宅 防火・防災キャンペーン～	消防庁
192	平成24.10.15	『巻頭言』 被害軽減のための「合わせ技」 <予防行政の取組み紹介> 消防本部予防行政の取組み紹介 窓まわりから提案する快適で安全な空間づくり-93年の経験とこれからの品質管理- 「連載3・私たちの安全な生活とは」 子どもたちは、守られているか 日本防災協会の研修に参加して 予防広報委員会開催される 防災製品認定委員会開催 平成24年度防災加工専門技術者講習修了証の交付（東京会場） JR東日本トレインチャンネル・JR西日本WESTビジョンにて防災品普及広報CM放映他 防災普及広報用ポスター制作、配布のお知らせ 鷗友学園女子中学校の生徒が当協会を職場訪問 平成24年度住宅防火防災推進シンポジウムの開催 平成23年（1月～12月）における火災の状況（確定値）	関西学院大学総合政策学部教授 室崎 益輝 広島市消防局予防部長 小川 健司 林口工業（株）取締役専務 林口 典雄 ノンフィクション作家 高見澤たか子 大妻女子大学家政学部被服科 消防庁予防課 柳瀬 達也 消防庁
193	平成25.1.25	年頭の辞 平成25年 新年賀詞交歓会開催 <予防行政の取組み紹介> 函館市の予防行政 優しく覆う・包む・護る 膜材料の創造と品質管理 「連載4・私たちの安全な生活とは」 地域防災を根付かせるしかけ 海外におけるマットレスの防炎性の試験方法と判定基準 ニトリ×帝人 「Nガード～燃えにくいシリーズ」の展開について <消防庁長官表彰>平成24年度消防機器開発普及功労者表彰式開催される 創立記念講演会開催される 平成24年度防災関係者表彰式開催される 東日本大震災岩手県内3被災地に防災品を贈呈 東京都特別支援学校へ防災品を寄贈 東京試験室の移転について 平成24年度防災加工専門技術者講習修了証の交付（大阪会場） 平成25年度の防災講座の開講のご案内	(公財)日本防災協会理事長 澤井 安勇 函館市消防本部予防課長 柴田 直人 平岡織染（株）広報室 山下喜代彦 ノンフィクション作家 高見澤たか子 (公財)日本防災協会技術部 帝人（株）生活製品部リビング課担当課長 金納 孝幸
194	平成25.4.15	『巻頭言』 火災対応の基幹は防災 <予防行政の取組み紹介> 津市消防本部の予防行政について 自然と環境にやさしい高機能性キャンパスの製造・販売	東京理科大学教授 菅原 進一 津市消防本部調査担当参事兼予防課長 宮田 正人 カンボウプラス（株）製造部門品質部長 山田 耕榮

No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		<p>「連載5・私たちの安全な生活とは」 なぜ繰り返される高齢者施設の悲劇</p> <p>ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) アメリカ・ローリー会議報告</p> <p>海外における布張り家具の防炎性の試験方法と判定基準</p> <p>「高層共同住宅における防炎品の使用実態」について</p> <p>防炎品奏効事例</p> <p>子供達を対象とした防炎品普及広報用アニメDVDの制作</p> <p>登録表示者及び認定事業者に関する定期調査について</p> <p>平成24年度「防災講座」実施結果及び平成25年度開催予定について</p> <p>平成24年度防炎品ラベルの交付状況</p> <p>平成25年度防炎加工専門技術者講習会等の開催について</p> <p>平成25年度事業計画書・収支予算書</p> <p>平成25年度試験研究施設の一般公開のお知らせ、消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例に関する作品募集</p>	<p>ノンフィクション作家 高見澤たか子</p> <p>(株) 赤尾 石川 修作</p> <p>(公財) 日本防災協会技術部 東京消防庁・(公財) 日本防災協会 大阪市消防局・京都市消防局</p> <p>消防研究センター</p>
195	平成25.7.16	<p>&lt;予防行政の取組み紹介&gt; 横須賀市の予防行政</p> <p>「新たな創業へ、奮起せよパイオニア精神！」工事用シートの開発と品質管理</p> <p>「連載6・私たちの安全な生活とは」 いたずら火災をどう防ぐ</p> <p>海外におけるカーテンの防炎性の試験方法と判定基準</p> <p>防炎品奏効事例</p> <p>バリアフリー展2013出展報告</p> <p>消防関係専門紙(誌) 代表者への業務説明会開催</p> <p>&lt;(一社) 全国消防機器協会表彰&gt;平成25年度消防機器等関係者表彰式開催される</p> <p>平成24年度事業報告書及び決算報告書の概要</p> <p>敬老の日に「火の用心」の贈り物 ～住宅防火・防災キャンペーン～</p>	<p>横須賀市消防局 佐藤 正高</p> <p>萩原工業(株) 合成樹脂事業タービー事業部品質管理課 有岡 徳昭</p> <p>ノンフィクション作家 高見澤たか子</p> <p>(公財) 日本防災協会技術部 東京消防庁</p> <p>消防庁予防課</p>
196	平成25.10.15	<p>『巻頭言』 忘れられない光景がある</p> <p>&lt;予防行政の取組み紹介&gt; 沖縄県那覇市の予防行政</p> <p>「市場創造型企業」として新たな価値の創出を目指して</p> <p>「連載7・私たちの安全な生活とは」 「防災費」という発想の転換</p> <p>ISO/TC94/SC14 (消防隊員用個人防護装備) カナダ・エドモントン会議報告</p> <p>海外におけるじゅうたんの防炎性の試験方法と判定基準</p> <p>防炎品奏効事例</p> <p>美の創造 どん帳製作の現場を訪ねて!</p> <p>日本防災協会に新井理事長就任</p>	<p>杏林大学医学部救急医学教授 山口 芳裕</p> <p>那覇市消防本部予防課長 島袋 弘樹</p> <p>東京ネオプリント(株) 製造部 綾部 広</p> <p>ノンフィクション作家 高見澤たか子</p> <p>帝国繊維(株) 園部 修</p> <p>(公財) 日本防災協会技術部 川崎市消防局、新潟市消防局</p> <p>(公財) 日本防災協会京都事務所長 増田 優人</p>



No.	発行年月日	タイトル	筆者名等
		子供達を対象とした防災品普及啓発用DVDの制作 平成25年度防災品ラベルの交付状況 登録表示者及び認定事業者に関する定期調査について 平成25年度「防災講座」実施結果及び平成26年度開催予定について 平成26年度防災加工専門技術者講習会等の開催について 平成26年度事業計画書・収支予算書 平成26年度 消防防災科学技術賞の作品募集	消防研究センター
199	平成26.7.15	『巻頭言』 暮らしと防災 <予防行政の取り組み紹介> 枚方寝屋川消防組合消防本部の予防行政 「井上染工は、3つの強み、「総合力」「地球共生力」「商品創出力」を活かして、お客様の元気を応援します。」 「連載10・私たちの安全な生活とは」 超高齢社会の災害対応-備えがどうしても必要なわけ- 船舶に使用される繊維製品の防災性の試験方法と判定基準 平成25年度事業報告書及び決算報告書の概要 バリアフリー展出展報告 <(一社)全国消防機器協会表彰>平成26年度消防機器等関係者表彰式開催される 予防広報委員会開催される 消防関係専門紙(誌)代表者への業務説明会開催 敬老の日に「火の用心」の贈り物 ～住宅防火・防災キャンペーン～	日本女子大学家政学部教授 増子 富美 枚方寝屋川消防組合消防本部予防部次長兼予防指導課長 西中 丈児 井上染工(株)生産管理部長 井上 篤 ノンフィクション作家 高見澤たか子 (公財)日本防災協会技術部 消防庁予防課